

第75図 第七地点第20号住居址床面出土土器 (1/3)

20) 第21号住居址 (第76・77・78図 図版23・24・43)

遺構 (第76図、図版23・24)

本住居址は第22号住居址の西にあり、南側にある第23号・27号住居址を切っている。

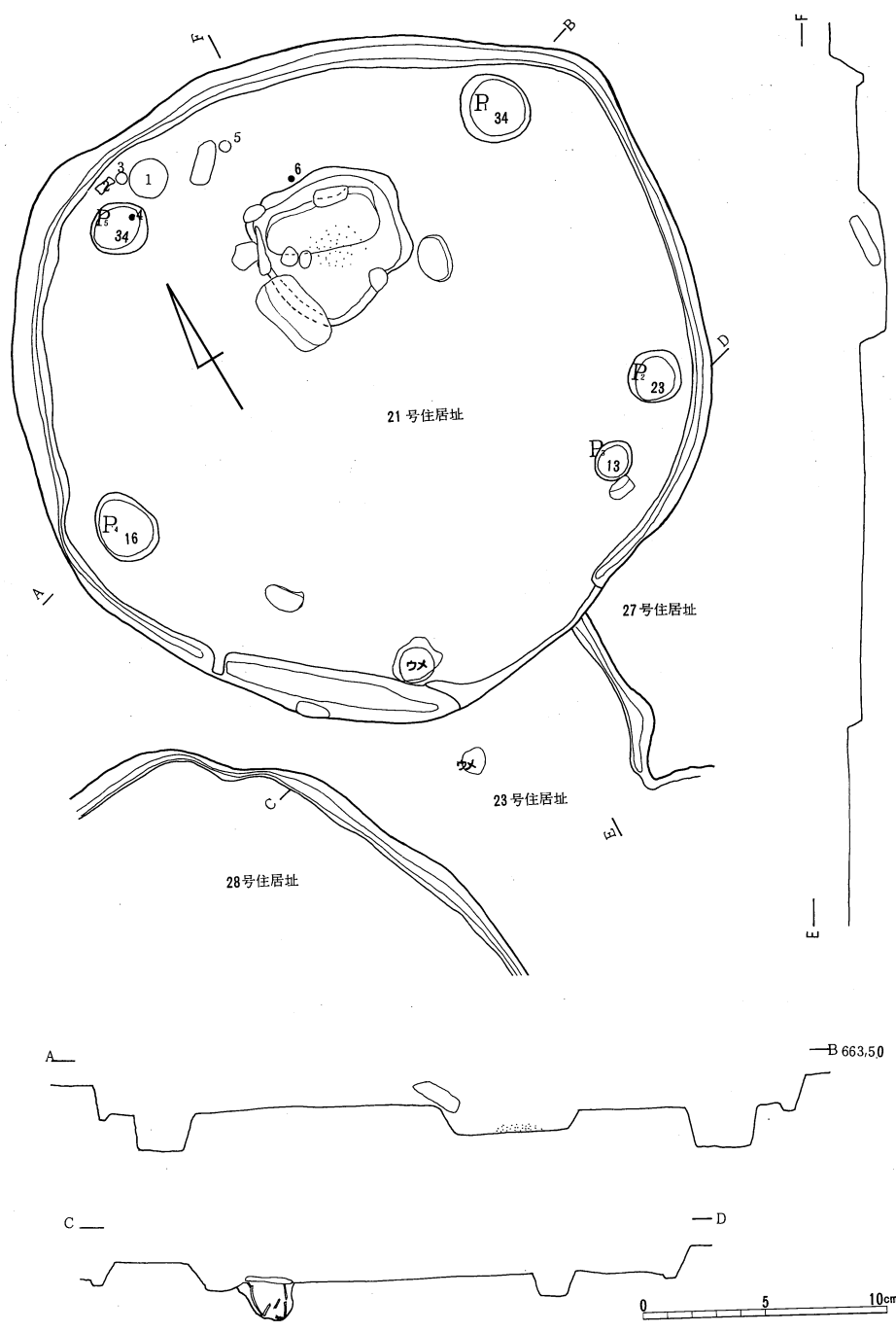
プランは隅丸の変五角形と考えられる。大きさは南北5.5m、東西5.6mである。主軸方向はN-22°-Eである。

壁は直に近く、現高は30cm前後である。第23号住居址との床面差は15cm、第27号住居址との床面差は25cmである。床面はほぼ水平で固くつきかため良好である。なお本住居址は火災によって焼失したものとみられ、床面上は炭化材・炭化物で全面が覆われていた。

第23・27号住居址と隣接する東南部を除いて、幅10cm、深さ5cmの周溝がめぐらされている。

柱穴はP₁・P₂・P₃・P₄・P₅の5本が確認され、支柱穴はP₁・P₂・P₄・P₅でP₃は支柱穴と考えられる。P₃を除いて、いずれも直径40cm、深さは30cm前後である。P₅からは土器が検出された。

炉は中央やや北寄りにある。方形の石囲炉であったと推定されるが、東側・南側の石は亡失し



第76図 第七地点第21号・23号住居址実測図 (S=1/60)

ており、残された北側・西側の石は炉内に落ち込んでいる。外形は120cm×120cmと考えられる。残存している石は、双方とも90×50cmと大きな自然石を用いている。また、この周辺からは人類大の石が数個検出されている。炉は20cmほど床面を掘り下げている。

埋甕（第78図-15）は住居址の南側にあり、その上には平石が乗せられていた。

炉の北東部に土器が床面にすえられたり集中して発見されており住居址内の生活空間を考える上で好例である。

遺物（第77・78図 図版43）

本住居址からは比較的多くの遺物が出土した。土器の他には土偶の脚部が1点出土している。また、炭化材の下からは骨片が出土した。

1～14は本住居址の覆土中より検出されたものである。

1は深鉢形土器であり、胴下半部を欠いている。渦巻文を持つブリッチ状把手を有している。把手から頸部に隆帯によるワラビ手文を配し、その間を沈線の綾杉文で埋めている。

2は胴上半部がくびれる深鉢で底部を欠いている。口縁部は楕円状の把手をつけ4分画している。その間を刻みを入れた隆帯により楕円文が配され、その内部は沈線が縦に配されている。頸部から胴部にかけて沈線をU字状に施文し、連続させている。この下につづく文様は逆U字状である。表面はもろく、頸部以下には縄文を地文としているが判然としない。

3は網代底の深鉢形土器、5は胴下半部を欠く深鉢形土器で、口唇部を肥厚させ爪形文を施す。胴部は縄文地に爪形文を2条1組で懸垂させる。6は土偶の脚部でつま先を欠く。

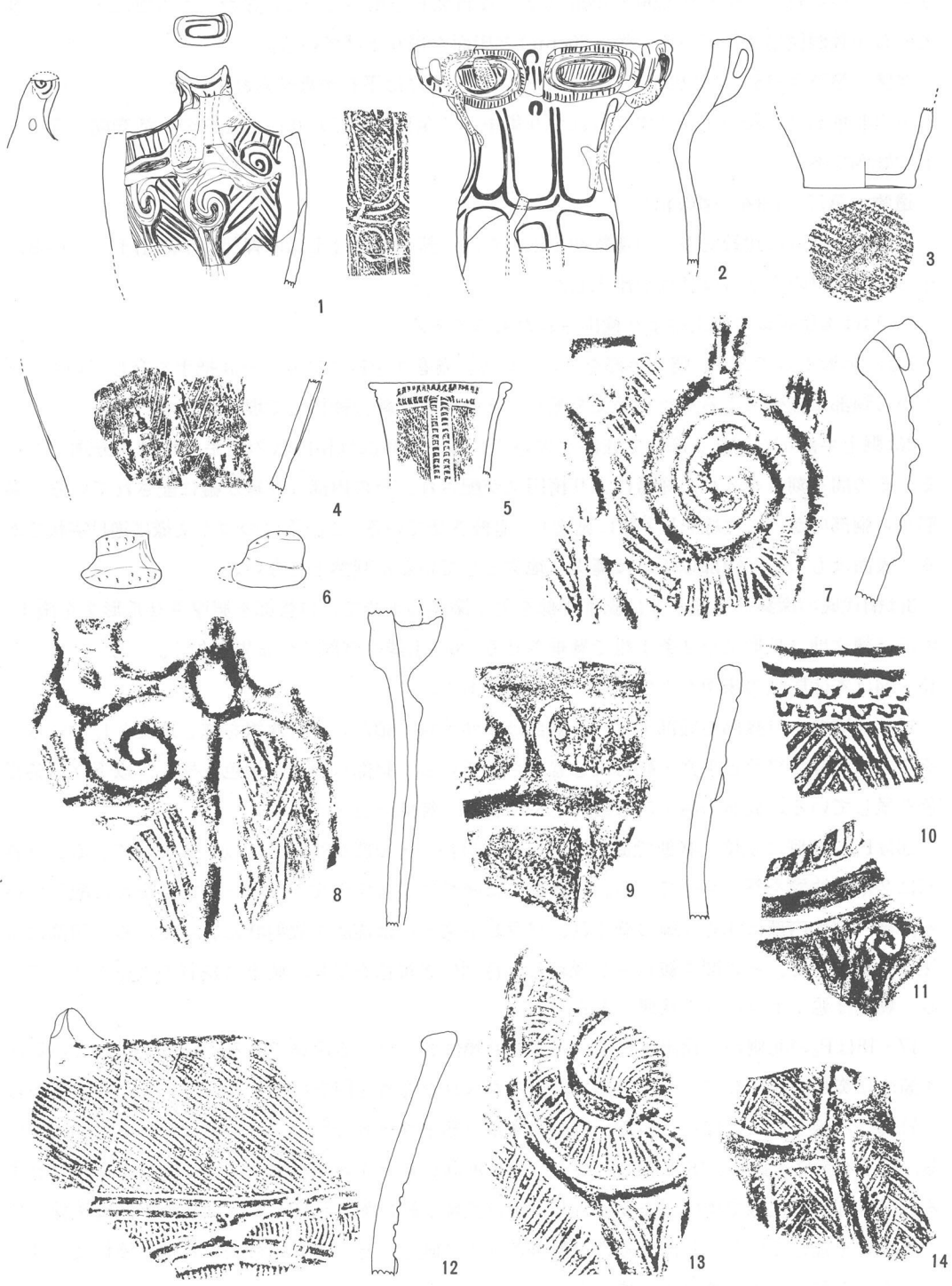
15～24は本住居址の床面から検出されたものである。

15は埋甕で、口縁部と底部を欠く。胴部はササラ状の細かい平行沈線を施し地文としている。その上に沈線でワラビ手文・蛇行文を懸垂させている。胴部以上は暗褐色を呈し、以下は明茶褐色を呈している。表面の胎土には砂粒をやや含み、焼成は良好である。

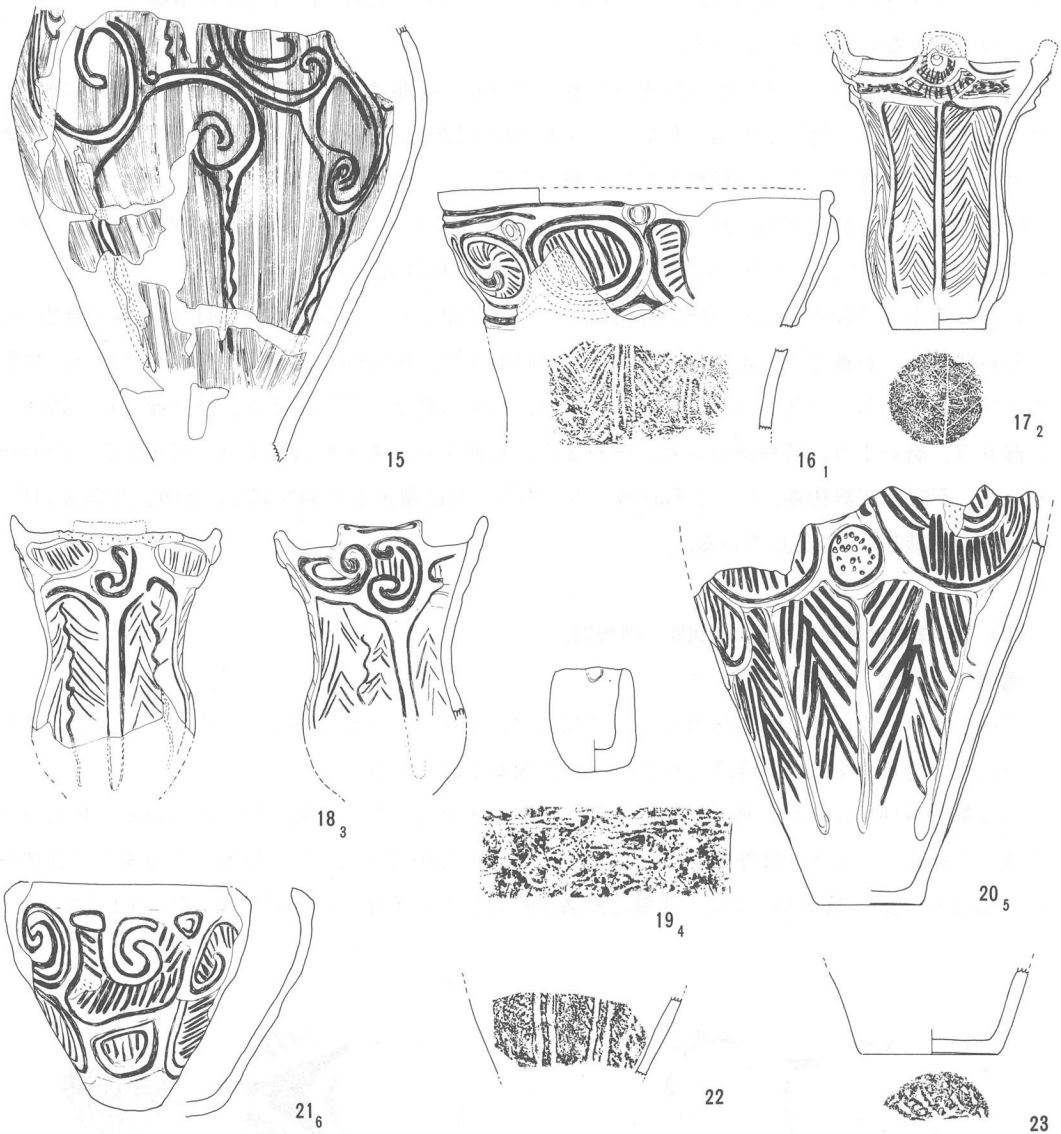
16はP₅の北側に正位の状態で置かれていた。口縁部・頸部が残存し、以下は欠いている。口唇部に2本の沈線を懸垂させている。口縁部には隆帯による楕円文とワラビ手文を交互に配している。楕円文の内部は沈線が縦に施され、ワラビ手文の中は沈線を放射状に放っている。頸部には沈線を懸垂させ、その間を綾杉文が埋める。色調は赤褐色を呈し、胎上に長石の大粒を含んでいる。焼成は悪くポロポロの状態である。

17・18はP₅の北側から検出された。いずれも頸部がくびれる深鉢である。17は欠損しているが4箇所突起が配されている。突起には刻みを入れた隆帯を円形に施している。また、突起から口唇部に沈線を波状に描いている。胴部は隆帯を懸垂させ6分画し、その中は綾杉文が埋めている。底は木葉痕を持つ。18は底部を欠く。1対の波状口縁と1対の渦巻文をもつ1対の突起を有する。口縁部には沈線で楕円文を連続させ、中は沈線が縦に配されている。突起の下には沈線でワラビ手文を施している。胴部は隆帯を懸垂させ4分画し、その中を蛇行文の懸垂・綾杉文で埋めている。なお、胎土・焼成とも悪くもろい。

19はP₅の内部より検出されたミニチュア土器である。表面には沈線で不規則な文様を描く。



第77図 第Ⅶ地点第21号住居址覆土出土土器 (1~5は1/6、他は1/3)



第78図 第七地点第21号住居址床面出土土器（1/6、15は埋甕、小数字は出土位置）

20は炉の北側に正位で埋められていた。口縁部を欠いている。頸部には隆帯でワラビ手文を施し、内部は沈線を縦に配している。ワラビ手文とワラビ手文の間には沈線の円弧文があり、内部に突刺文がみられる。胴部には隆帯を施し、その中は綾杉文で埋めている。

21は炉のすぐ北側から検出された。小形の深鉢であるが、半分しか残存していない。また底は丸底で台を持つ可能性もある。全体にすすが付着し磨かれ光沢がある。23は網代底である。

土器は炉の北側から集中して出土している。16・20の土器は貯蔵に、21は炭化物の付着から煮炊き用に使用されたものと思われる。これらのことから炉の北側、P₅付近は炊事場としての性格をもつのではないかと考えられる。

なお、前述のとおり、本住居址は火災に遭っている。床面は炭化材で覆われていた。この炭化材の下敷きとなって骨片が検出された。大きさは長さ13cm、幅3cmほどである。骨片は焼成によりボロボロの状態、人骨か柱獣骨かは可明である。

時期は総じて曾利II式期に比定される。2はやや先行するもので大木式様相を持つものである。5・12は出土例の珍しいもので北隆系の土器と思われ時期は先行する。

石器は覆土より40点、床面より63点計103点と多量に出土している。覆土の内訳は打製石斧27点、大形石匙1点、石錘2点、敲打器6点、特殊敲打器4点、床面63点の内訳は打製石斧13点、磨製の定角石斧・蛤刃石斧各2点と乳棒状石斧1点、大形石匙2点、石錘2点、敲打器3点、特殊敲打器6点、磨石1点、特殊磨石3点、凹石2点、石皿1点、横刃形石器1点、石礮2点、円形搔器2点、不定形石器19点、ハート形石器1点である。外に覆土より剥片46片、床面より剥片44片、黒耀石の石核1点が出土している。

(酒井 健次)

20) 第22号住居址 (第68・79図 図版21)

遺構 (第68図 図版22)

当住居址は大半を第19号住居址によって切られ、床面をわずかに残しているだけである。プランには隅丸方形を呈し、大きさは6.0×5.8mを測ると思われる。

炉は第19号住居址の炉の西にあり長方形の石組炉と考えられ、東側は切られている。炉石は全く残っていない。大きさは外形1.8×1.2m、内形1.2×0.8mである。炉の位置から推測して住居址の主軸はN-28°-Wと思われる。北側に周溝がみられる。支柱穴はP₁・P₅・P₇・P₁₀の4本である。



第79図 第VII地点第22号住居址床面出土石器 (1/3)

遺物 (第79図)

遺物は当然ながら少ない。

土器は破片のみで復元できるものはない。1は大形の深鉢形土器の口縁である。

時期は曾利Ⅱ式期に比定される。

石器は不定形石器4点が床面より出土したのみである。

(気賀沢 進)

22) 第23号住居址 (第76・80図 図版43)

遺構 (第76図)

本住居址は第21・27・28号住居址によって切られている。床面と埋甕(第80図-18)のみが検出されただけであり、そのプラン・大きさ・主軸方向は不明である。

遺物 (第80図 図版43)

前述のとおり、3つの住居址によって切られているため、遺物は極めて少ない。

3は鉢形土器の口縁部で、隆帯による山形文を連続させ、その中に突刺文を連続させている。

9は細い平行沈線を地文として施し、その上に沈線で蛇行文を懸垂させている。

16は連続爪形文を2本横走させている。

18は埋甕である。胴下半部を欠く。口唇部には渦巻文を有する突起をもち、その間を隆帯による波状文を横位に施している。口縁部は隆帯によってワラビ手文を施し6分画させている。その中には沈線による渦巻文を配するものとワラビ手文を配するものがある。頸部には沈線を横走させている。胴部はサラサラ状の細い平行沈線を地文とし、その上に沈線によるワラビ手文・蛇行文を懸垂させている。色調は暗褐色を呈し、胎上に砂粒を多く含む。焼成は良好である。

19は埋甕内より検出された深鉢形土器の底部で、全体に縄文を施すが、底部より5~6cm上はへらで磨き縄文を消している。表面は明茶褐色、内面は暗茶褐色を呈している。

埋甕は曾利Ⅱ式期に比定され、総じて同時期のものである。1・2・16・17は先行するもので1・3は新道式期のものである。

石器も少なく覆土より、打製石斧7点、小形匙1点、特殊敲打器1点、不定形石器1点の10点と剥片12片が出土しているだけである。

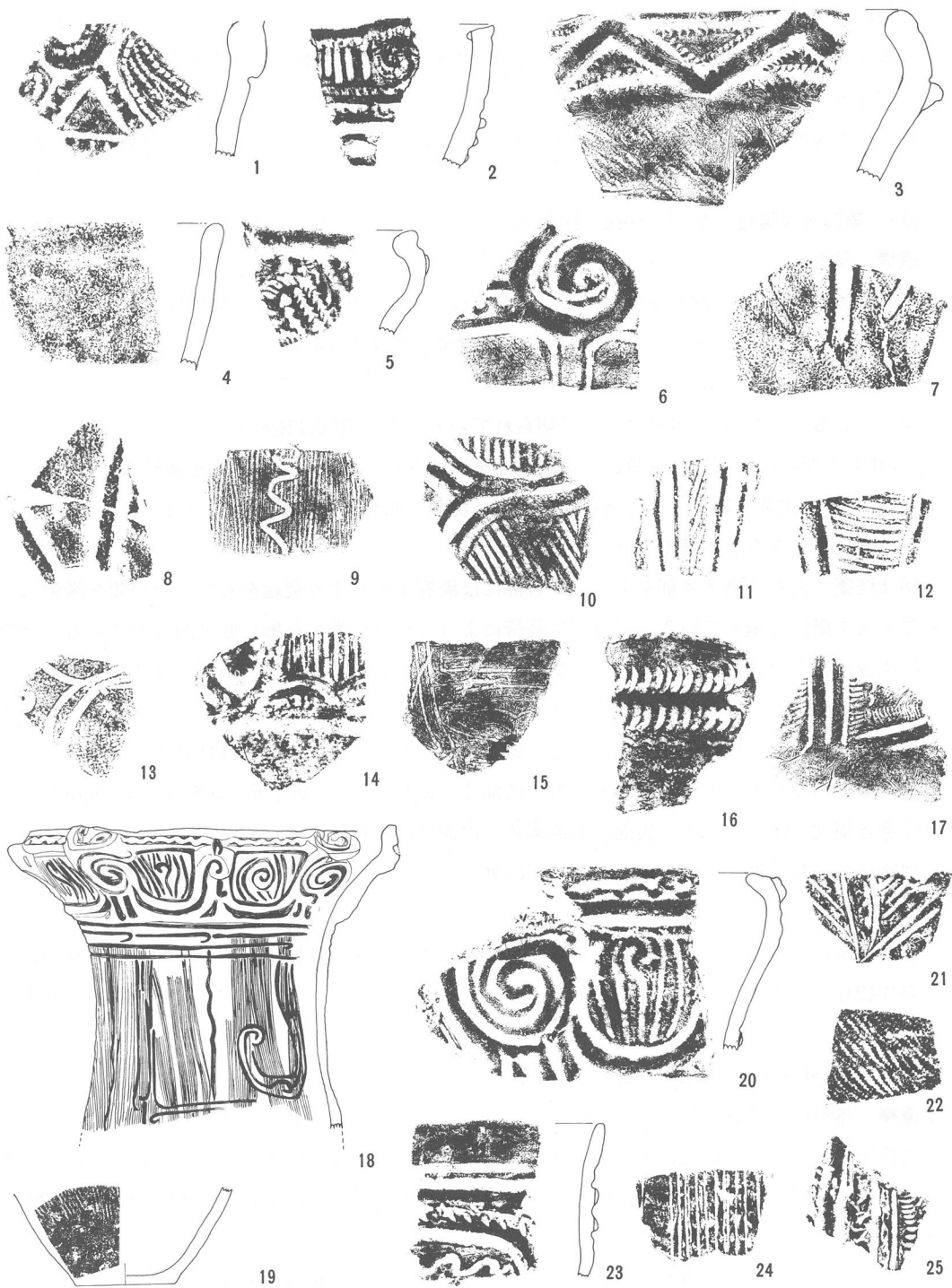
(酒井 健次)

23) 第24号住居址 (第81・82図 図版25)

遺構 (第81図 (図版25))

当住居址は第25号住居址に大半を貼床をしてつくられている。貼床はロームをわずかにしきタキもあまり固くなく北側の範囲ははっきりとつかめなかった。第25号住居址との床面差は20cm前後である。

プランは不整の円形と思われるがはっきりしない。大きさは東西約6.0mを測る。



第80図 第七地点第23号住居址出土土器
 (18、19は1/6他は1/3、1~17は覆土、18・19は埋甕20~25は床面)

炉は北東寄りに位置し、楕円形に掘りくぼめた地床炉である。大きさは50×40cm、深さ15cmを測る。

主柱穴は6本と考えられるが5本しか発見できなかった。いずれもやや浅いものである。

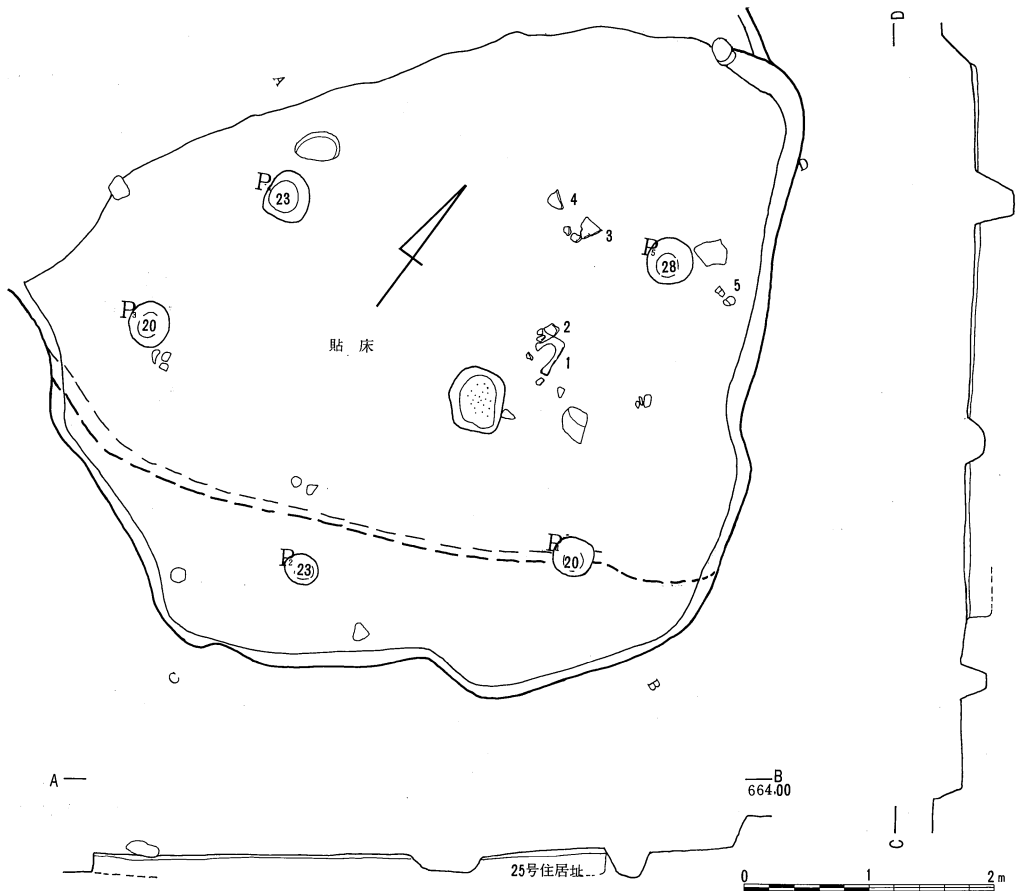
炉の北側に土器が集中して出土している。さらP₅の東壁ぎわに石錘4点がまとまって出土している。

遺物 (第82図)

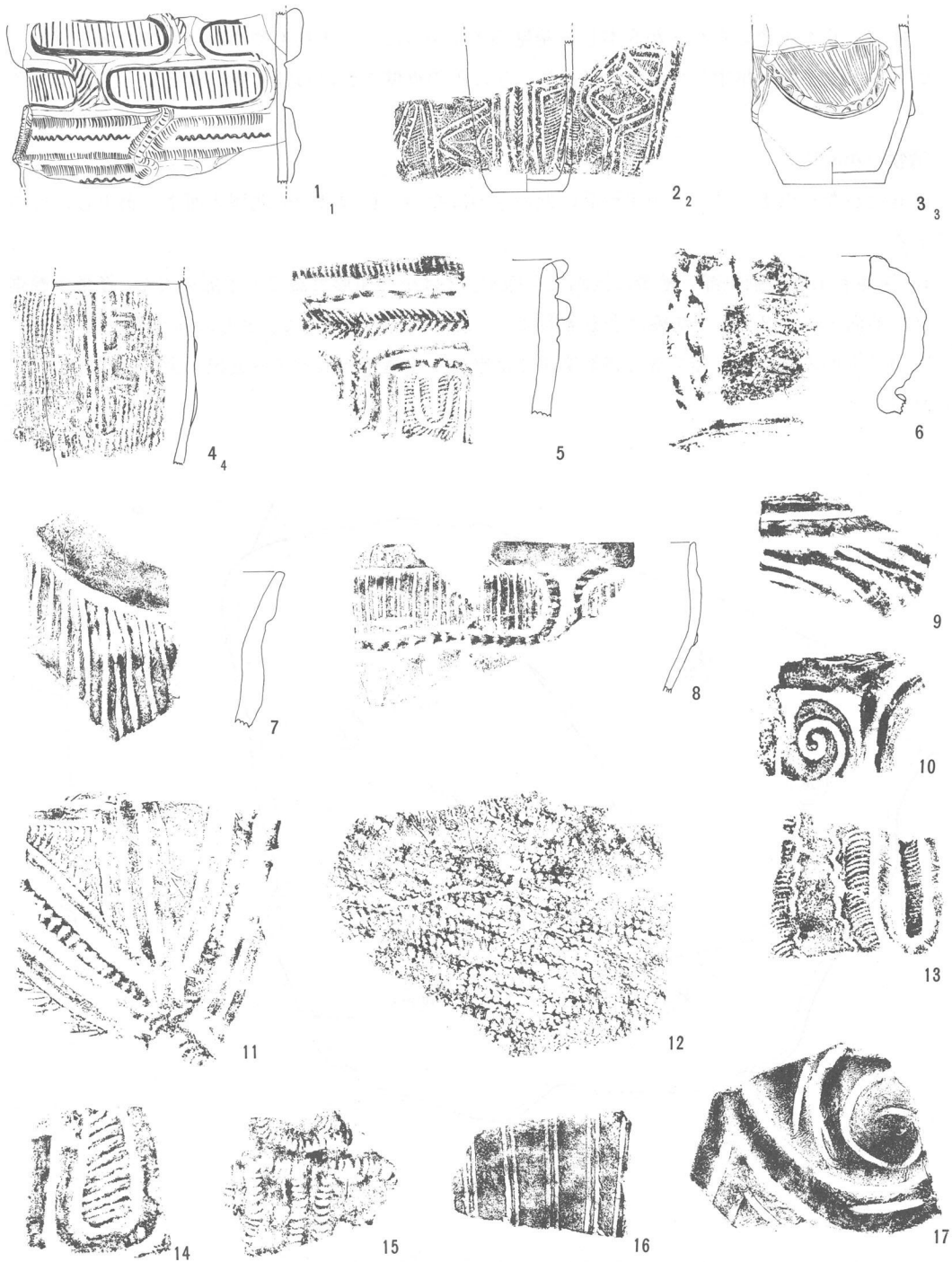
土器はかなり出土しているが完形品に近いものはない。1~4は炉の北側床面より出土したものである。

1は深鉢形土器の胴中央部で横帯に区画文を施す。2は小形筒形土器で上半部を欠く。隆帯を懸垂させて器面を縦に2分し、沈線による菱形又、三叉文などで充慎する。ともに固く焼かれている。

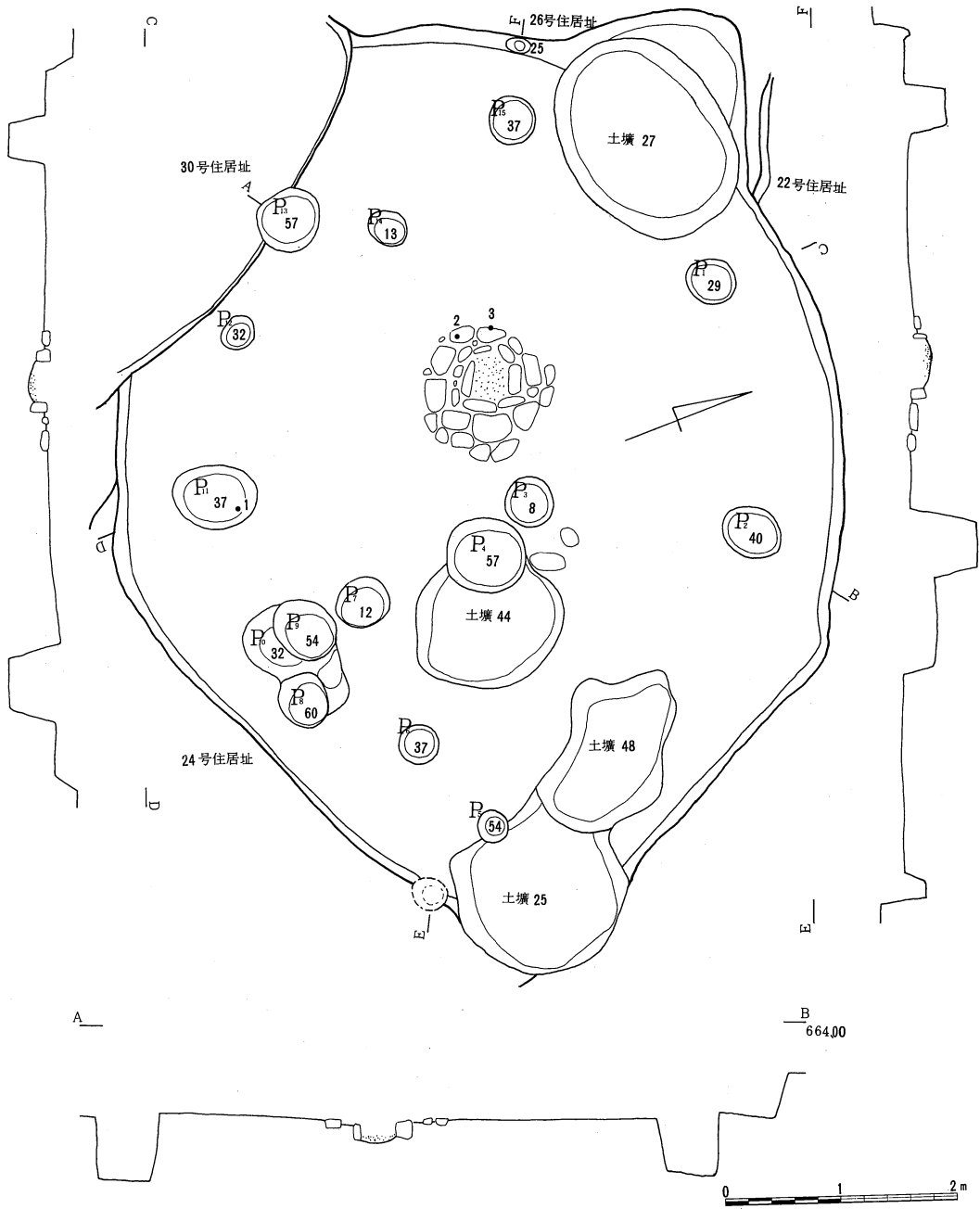
3・4は小形の深鉢形土器で3は楕形文を4は懸垂する隆帯と縦走る連続刺突文で器面が埋められる。



第81図 第七地点第24号住居址実測図 (S=1/60、5は石錘4点)



第82図 第七地点第24号住居址床面出土土器 (1~4は1/6他は1/3、小数字は出土位置)



第83图 第七地点第25号住居址实测图 (S=1/60)

時期は7のように井戸尻式的要素を持つものもあるが、総じて藤内II式期に比定される。

石器は覆土より6点、床面より26点、外に覆土より4片の剥片と黒耀石の石核1点、床面より剥片54片が出土している。

覆土6点の内訳は打製石斧2点、敲打器1点、特殊敲打器2点、特殊磨石1点、床面は打製石斧5点、石錘5点、敲打器3点、特殊敲打器4点、磨石1点、不定形石器8点である。

(気賀沢 進)

24) 第25号住居址 (第83・84・85・86・87図 図版26・44)

遺構 (第83図 図版26)

本住居址は、第13・14号住居址の南にあり東半分は第24号住居址に貼り床されていた。西側は第30号住居址によって切られている。床面差はわずかで5cmほどである。

西と東の一部が土壌によって壊されているが、プランは長楕円形で、規模は7.5×6.2mを測り、大きなものである。主軸方向はN-73°-Wである。

壁に直に近く西及び北側では30cm、南側で20cm前後である。ロームを固くタタキしめた床面は炉周辺がくぼくなっている。

炉は中央西寄りに位置し、60×50cmの方形の石組炉の周囲に石をきれいに敷き並べた珍しいものである。炉体は自然石を縦長に用い、周囲は平盤な石を横長にすえ、その間には小石をつめ、西一重、東側は二重となっている。全体は円形を呈し、115×105cmの規模である。炉石を重複して並べる例としては市内では丸山南遺跡より3例発見されている。時期は井戸尻期末から曾利期初頭にかけてのものである。

柱穴は6本か8本かはっきりしない。土壌が4基確認されている。

P₁₁の内部より小形深鉢土器(第85図-6)がさらに西側の炉石上より第85図-7・8が出土している。

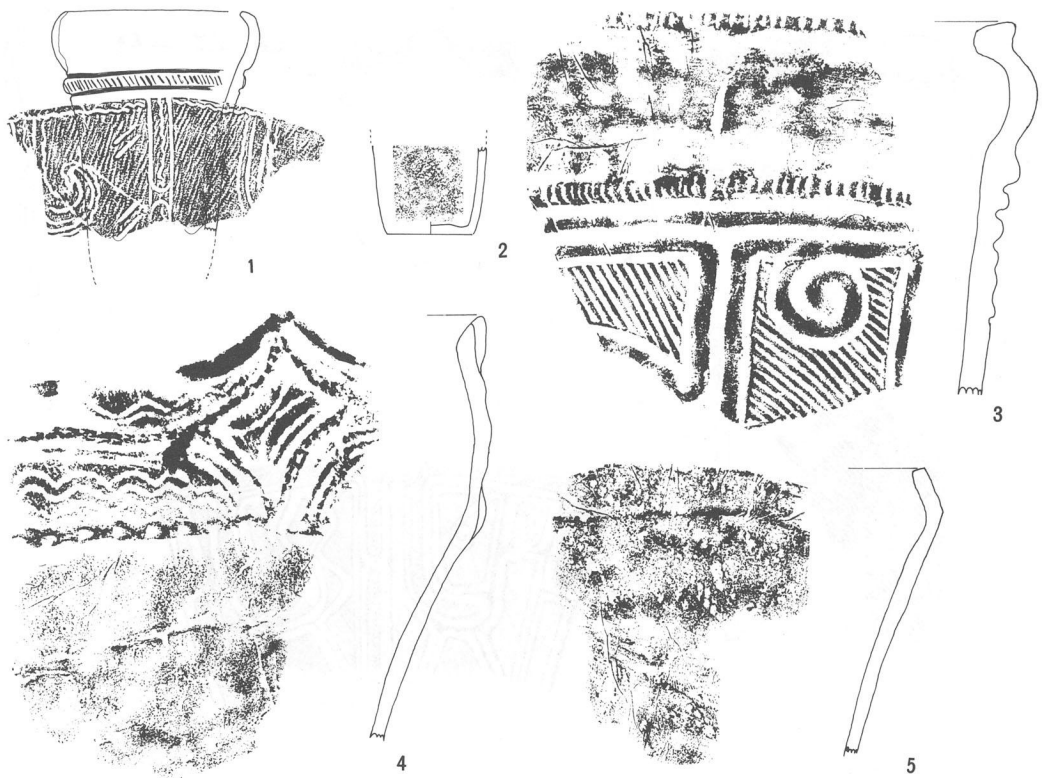
遺物 (第84・85・86・87図 図版44)

土器は多く出土しているがそのわりに復原できたものは6・7のみで少ない。第84図は覆土85・86・87図は床面出土のものである。

4は大形土器の口縁部で結節状浮線文と連続刺突文等によって装飾されている。

6はP₁₁より出土したもので、薄手作りではげ易い。7は小形の筒形土器で底部を欠く。くの字に内屈する口縁部は片面に連続爪形文を持つ山形把起3個を連続させている。頸部に刻みを持つ隆帯をめぐらしそれから垂下する人体文やワラビ文を配して内部は方形区画文・菱形文が充慎している。胎土には細かい長石を含んでいる。丹念な磨き、施文のシャープな優品で諏訪地方からの移入品であろう。

8はやはり筒形土器で、口唇は肥厚し2条の連続爪形文を持つ隆帯が横走り胴部は縄文が施される。



第84図 第Ⅶ地点第25号住居址覆土出土土器 (1・2は1/6他は1/3)

10は深鉢形土器の把手で表は蛇を抽象化し裏はみみずく形である。

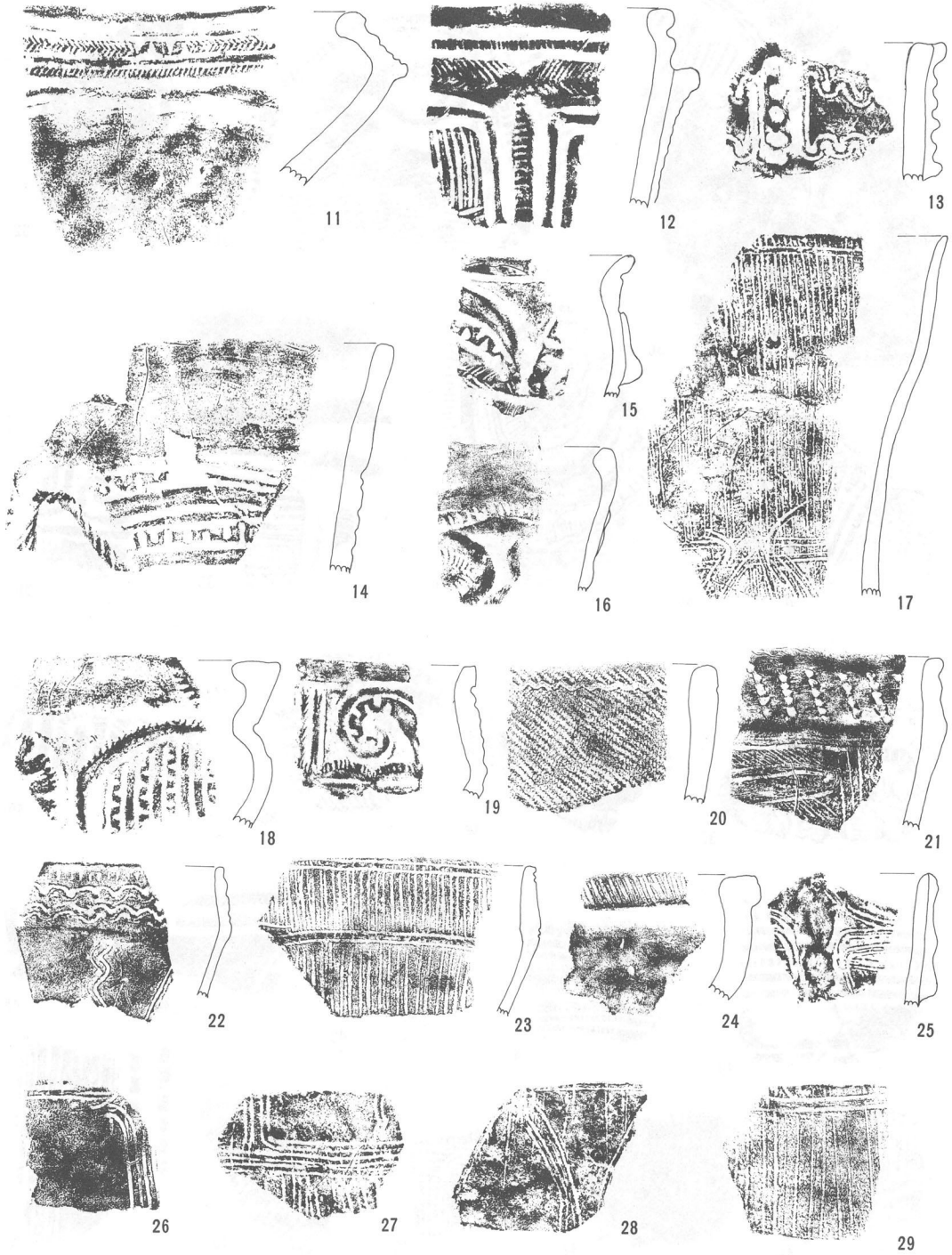
総じて藤内Ⅰ式期に比定できるであろう。

石器はすべて床面出土のもので41点出土している。内訳は打石斧14点、磨製乳棒状石斧2点、大形石匙、小形石匙各1点、石錘、横刃形石器各2点、敲打器8点、石礮1点、不定形石器10点である。外に剥片59片が出土している。

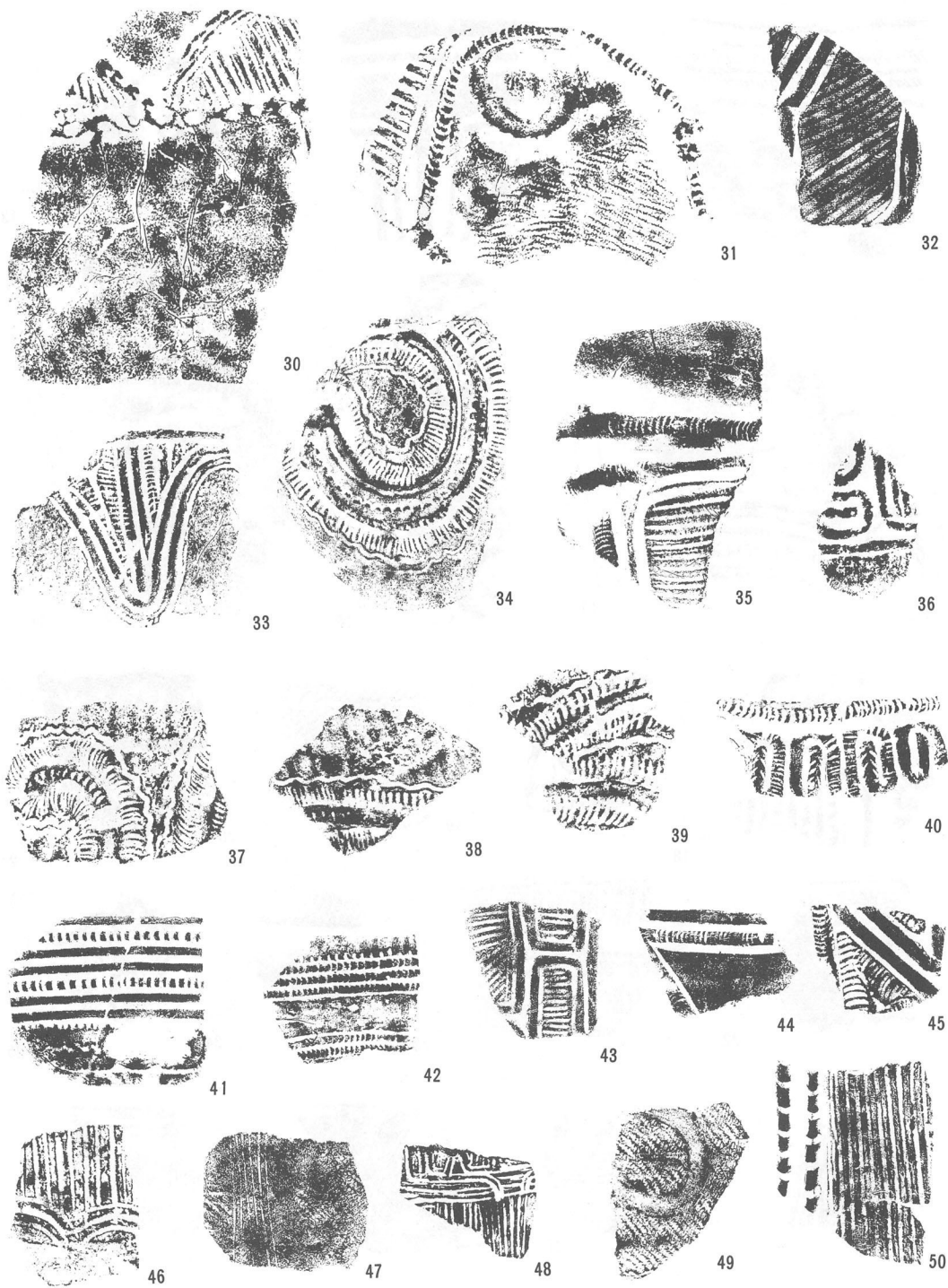
(気賀沢 進)



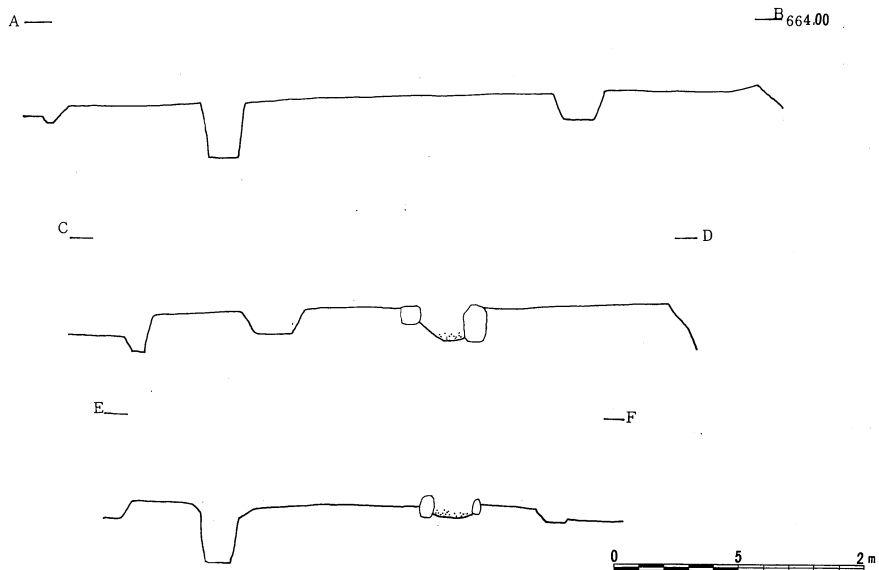
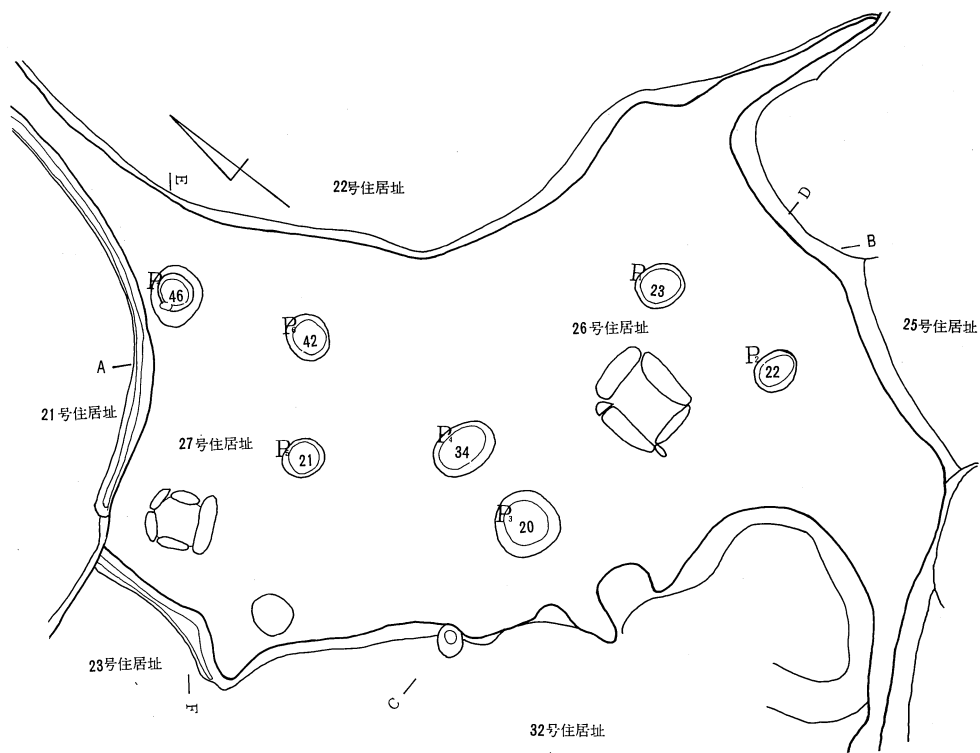
第85図 第Ⅶ地点第25号住居址床面出土土器（6～9は1/6他は1/3、小数字は出土位置）



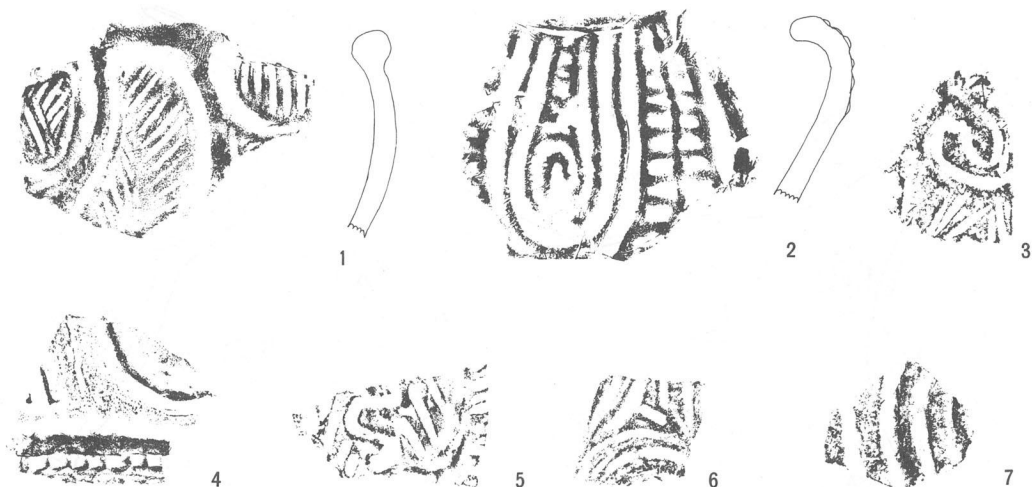
第86图 第七地点第25号住居址床面出土土器 (1/3)



第87图 第七地点第25号住居址床面出土土器 (1/3)



第88图 第VII地点第26号·27号住居址实测图 (S=1/60)



第89図 第VII地点第26号住居址床面出土土器 (1/3)

25) 第26号住居址 (第88・89図)

遺構 (第88図)

本住居址は第22号・25号・30号・32号住居址に切られ、北西側で第27号住居址と同一レベルの床面でつながっており切合い関係は不明である。

炉は方形の石組炉で70×60cmを測る。細長い自然石を4個用い間に小石を2個つめている。西側は横長に石をすえている。柱穴はP₁・P₄など考えられるが定かではない。

遺物 (第89図)

土器・石器とも少ない。図示したものは深鉢形土器の破片である。1・2・4は曾利I式期、3・5・6は曾利II式期に比定できる。

石器は床面より打製石斧5点、敲打器、磨石、横刃形石器各1点の8点である。他に剥片9片が出土しているのみである。(気賀沢 進)

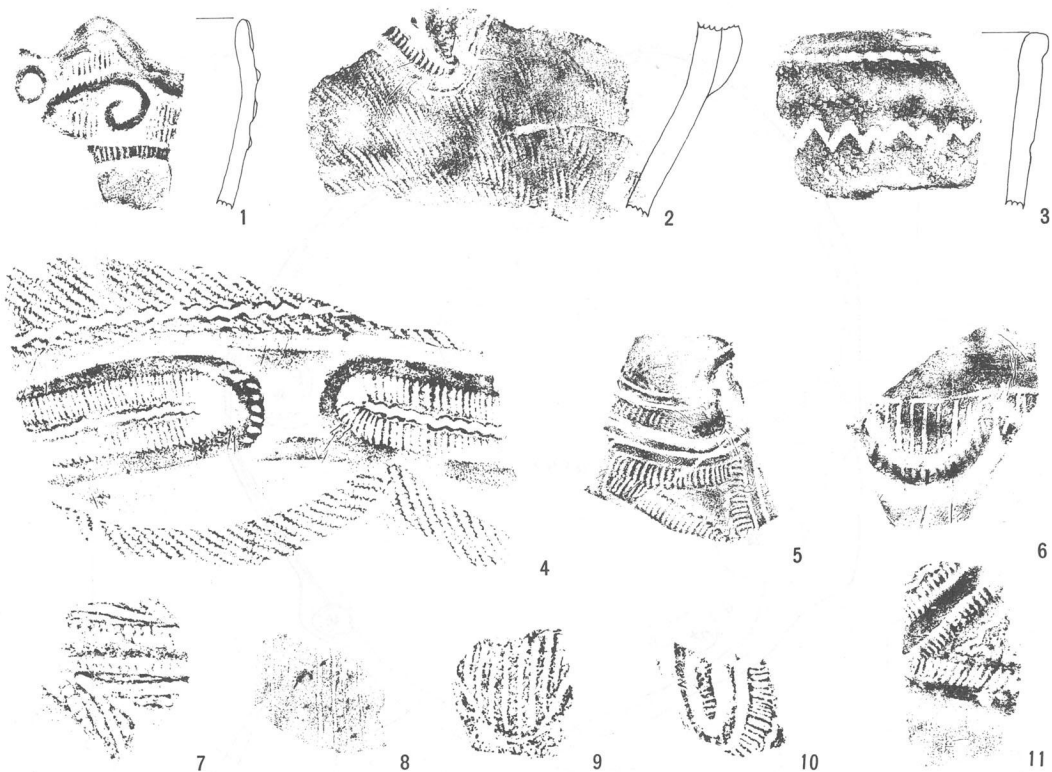
26) 第27号住居址 (第88・90図)

遺構 (第88図)

第26号住居址の西側に続いて炉と床面が確認されたもので、第21号・22号・23号・32号住居址によって切られている。

炉は変五角形の石組炉である。南側は細長い自然石を他はやや小さな自然石を用いてすべて縦長にすえている。掘り込みは浅く10cmほどである。

P₆・P₇は柱穴と考えられる。



第90図 第VII地点第27号住居址床面出土土器 (1/3)

遺物 (第90図)

本住居址も出土遺物は少ない。

4は隆帯部に縄文を施したもので藤内期に同様の手法がみられる、時期は新道式期から藤内式期の移行期である。石器は打製石斧1点が床面より出土しているだけである。 (気賀沢 進)

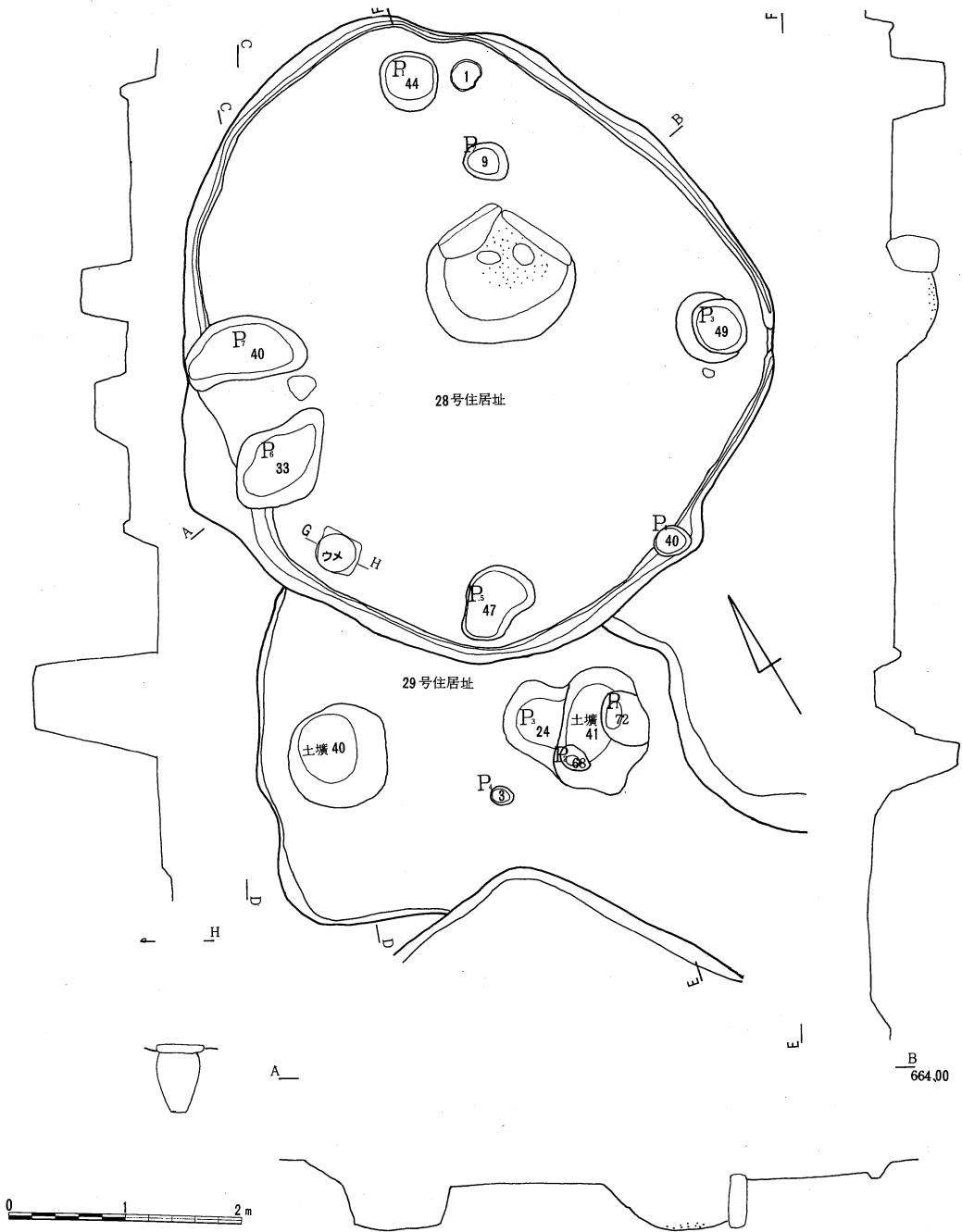
27) 第28号住居址 (第91・92・93・94図 図版27・29・44)

遺構 (第91図 図版27・29)

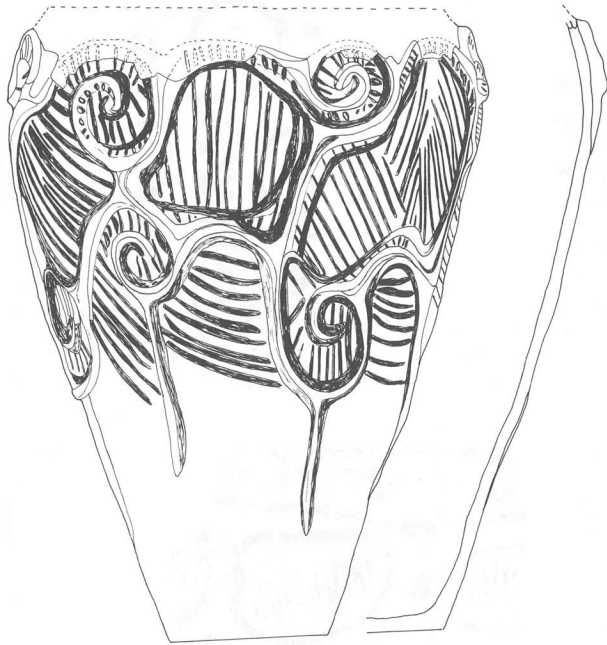
当住居址は第21号住居址の南にあり、東側で第23号・32号住居址、南側で第29号住居址を切っている。第23号住居址との床面差は20cm前後を測る。

プランは東側がせばまるがほぼ楕円形を呈し、5.5×5.0mを測る。主軸方向はN-72°-Eである。

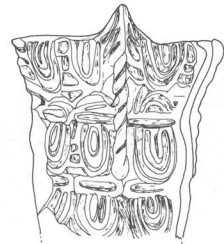
壁は直に近く、壁高は25cmほどである。床面はロームをタタキしめているがあまり固くない。炉は中央北寄りに位置し方形の石組炉で炉石は一部抜きとられている。外形1.2×1.2m、内形



第91図 第七地点第28号・29号住居址実測図 (S=1/60)



2 1



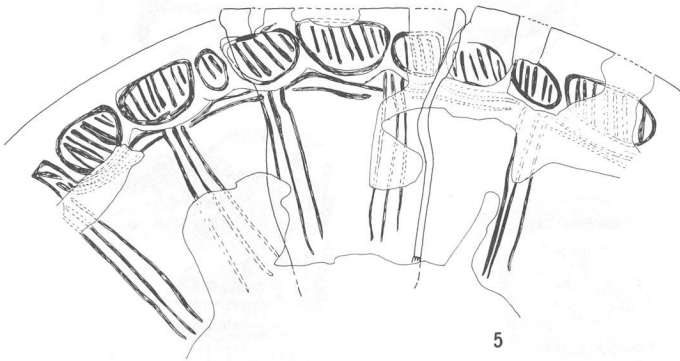
3



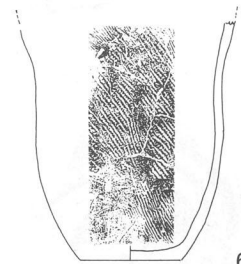
1



4

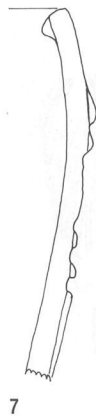
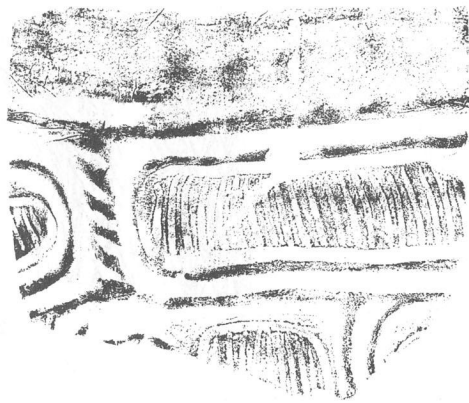


5



6

第92図 第七地点第28号住居址床面出土土器 (1/6、1は埋甕)



7

8



9

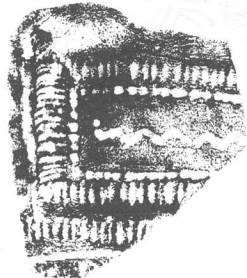
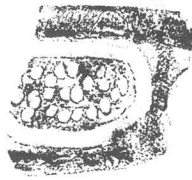
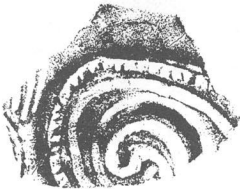
10



11

12

13

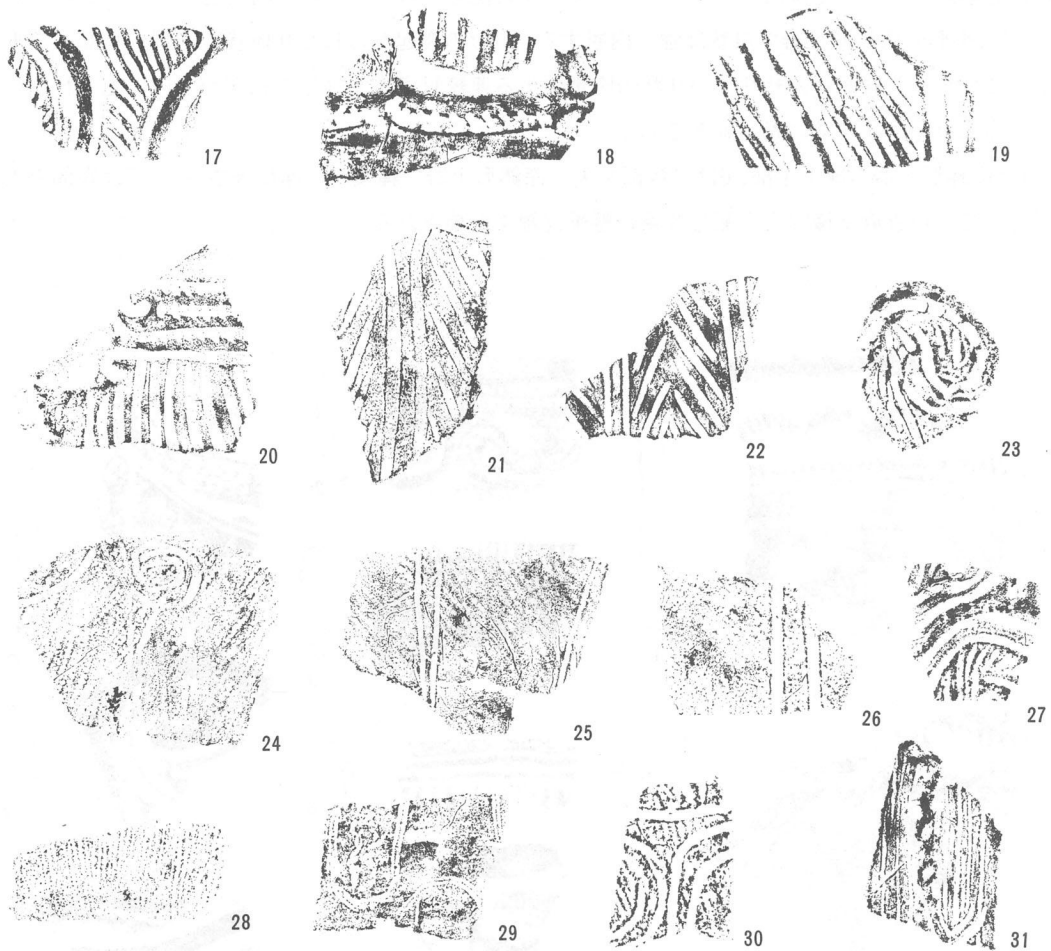


14

15

16

第93图 第VII地点第28号住居址床面出土土器 (1/3)



第94図 第VII地点第28号住居址床面出土土器 (1/3)

0.7×0.7m、深さは40cmで丸底風となる。北と東の残存する炉石は縦長にすえられている。

柱穴は $P_1 \cdot P_3 \cdot P_5 \cdot P_7$ の4本と考えられる。

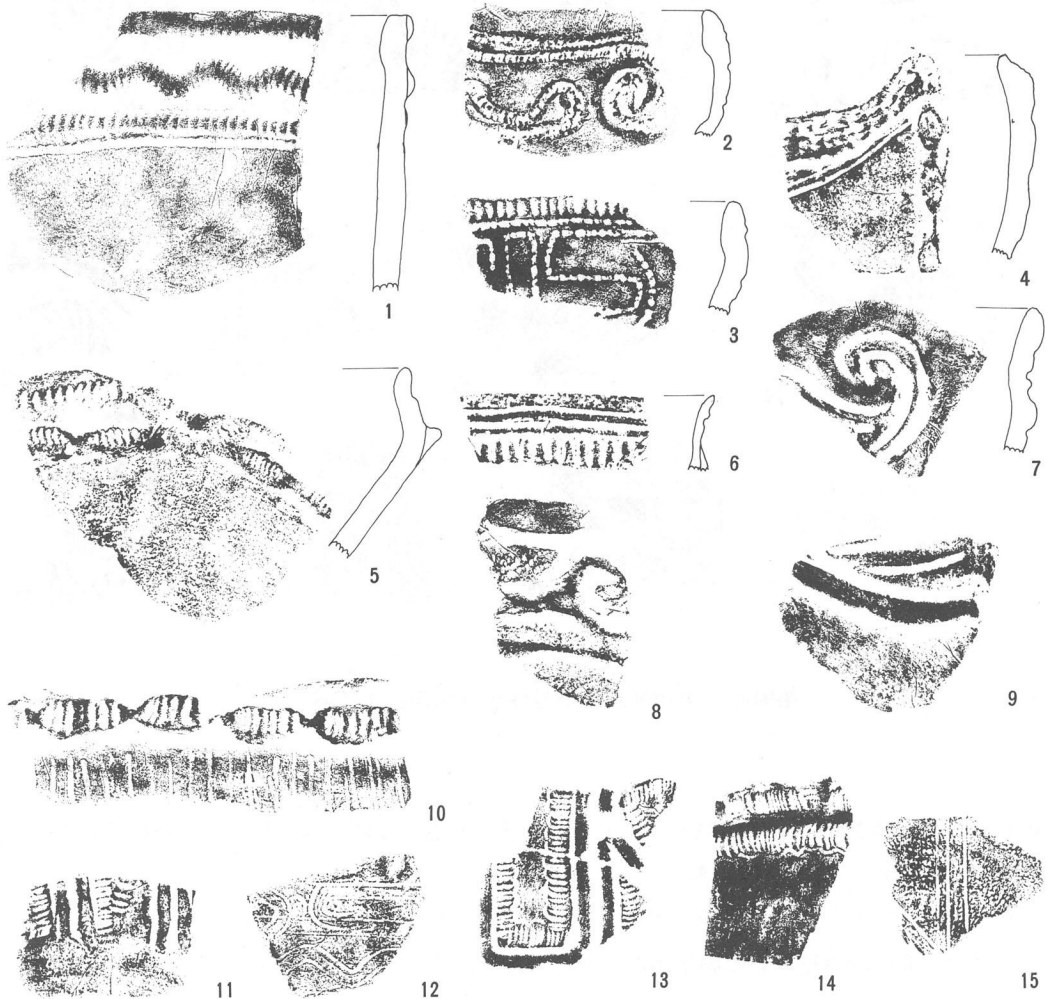
P_5 と P_7 の真ん中壁ぎわに正位の埋甕(第92図-1)がある。4角形の平盤な石がのせられていた。さらに炉の北 P_1 の東壁ぎわに胴下半部を欠く深鉢形土器(2)が床面をわずかに掘りくぼめてすえられていた。第21号住居址にも同様の出土状態がみられ注目されるものである。

遺物(第92・93・94図 図版44)

土器は多量に出土している。1は埋甕で口唇部を欠く甕形土器である。ワラビ手文を主に施す隆帯はわきを指で押圧され断面は山形状をなしている。胴下半部は無文である。暗褐色ないし黄褐色に固く焼かれ、一部に炭化物の付着がみられる。

2は北壁に近く床面にすえられていたもので、口唇は肥厚し無文でその下部に2条の隆帯をめぐらし懸垂隆帯によって器面を4分し、綾杉文と蛇行沈線が埋めている。暗褐色に固く焼かれている。3は小形の深鉢形土器で口唇は強く内屈する。山形の突起からねじり棒状の隆帯が胴部まで垂下し2分された器面は、せり上がり状の隆帯による連続U字文やはしご状文が3段に施されている。赤褐色を呈し非常に固い焼きである。

4は深鉢形土器の胴下半部、6は口縁部を欠く深鉢形土器で縄文が全面に施される。5は底部を欠くもので、口唇直下楕円文を配し3条の懸垂沈線文が施される。



第95図 第七地点第29号住居址床面出土土器 (1/3)

16は新道式期のものである。3・9・10は他の土器より古い様相を持つが総じて曾利Ⅱ式期に比定できるであろう。

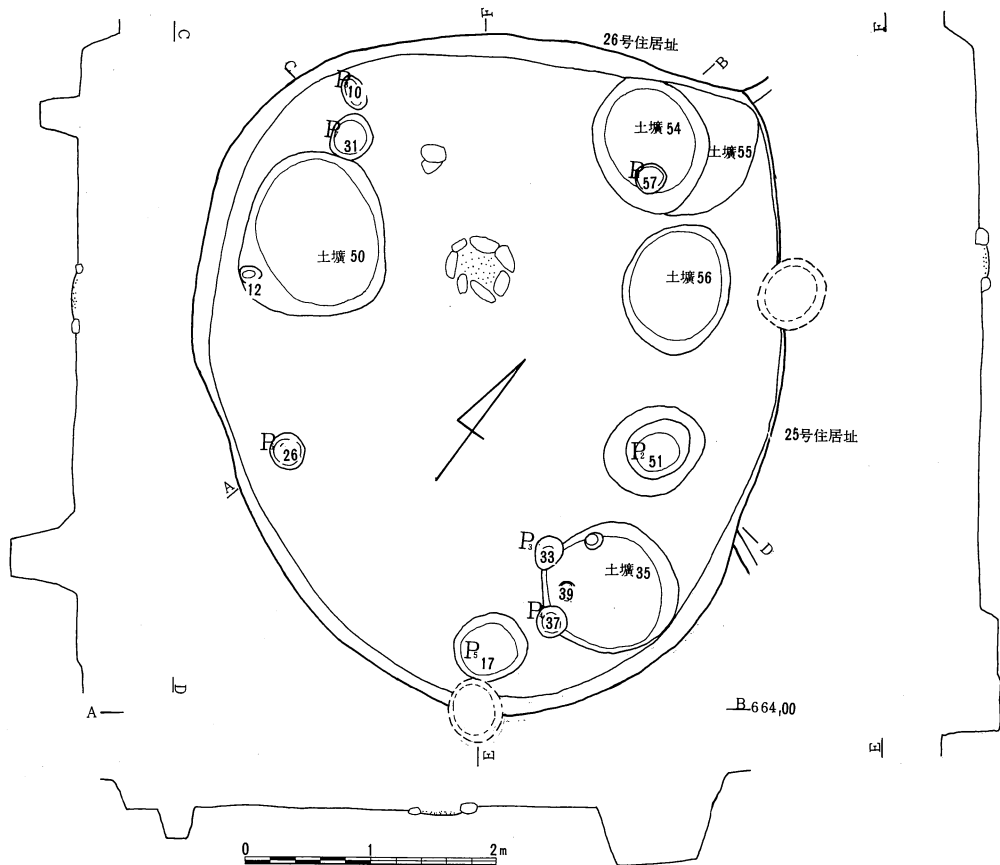
石器は床面より49点出土している、剥片が175片、硬砂岩の原石3点が確認されており注目される。内訳は打製石斧24点、磨製乳棒状石斧1点、敲打器12点、特殊敲打器3点、磨石・横刃形石器各1点、不定形石器7点で、敲打器の多い点は剥片の多さと併せて興味深い。(気賀沢 進)

28) 第29号住居址 (第91・95図)

遺構 (第91図)

当住居址は第28号・32号・33号住居址によって大半を切られ、西側の壁と床面が検出されただけである。また土壇2基が掘り込んでいる。

壁は西側のみで20cmを測る。ロームの床は固くタタキシめられている。



第96図 第Ⅶ地点第30号住居址実測図 (S=1/60)

遺物 (第95図)

出土遺物は少ない。土器は破片のみで復元できるものはない。

文様構成的には藤内式的なもの(11・13)もみられるが、新道式期に比定できるであろう。

石器は床面より19点、剥片が26片出土している。内訳は打製石斧11点、大形石匙1点、石錘2点、横刃形石器3点、不定形石器2点である。(気賀沢 進)

29) 第30号住居址 (第96・97図 図版28・45)

遺構 (第96図 図版28)

当住居址は第32号・35号住居址の東側に位置し、東で第25号住居址、北で第26号住居址を切っている。南東部は一部第31号住居址によって貼床されている。プランは北西部がやや開いた楕円形で、大きさは5.3×4.6mを測る。主軸方向はN-28°-Wである。

第25号住居址との床面差は5cmとわずかで、第26号住居址との差は25cm、第31号住居址とは25cmである。壁はゆるやかで壁高は30cm前後である。床面はほぼ平坦でロームをタタキしめ良好である。炉は中央北西寄りに位置し、円形の小形な石組炉である。炉石はすべて横長にすえられている。土壌が掘り込まれ柱穴ははっきりしないが、5本と思われる。

遺物 (第97図 図版45)

土器は少ない。1は胴部と口唇部をわずかに欠くもので、屈曲底のどっしりとした土器である。肥厚する口唇部は無文でその下部につば状隆帯をめぐらし垂下する隆帯は力強くマジカルな文様



第97図 第VII地点第30号住居址床面出土土器 (1は1/6他は1/3)

を描いている。固く焼かれた絶品で移入品であろう。他はすべて小破片である。

藤内 I 式期に比定される

石器は覆土より打製石斧 3 点、磨製定角石斧 1 点の 4 点が、他に剥片 5 片が出土している。床面より 22 点の石器と剥片 25 片と黒燿石の石核 5 点が出土している。内訳は打製石斧 9 点、石錘 1 点、敲打器 3 点、石錐が 1 点、不定形石器 7 点が出土している。 (気賀沢 進)

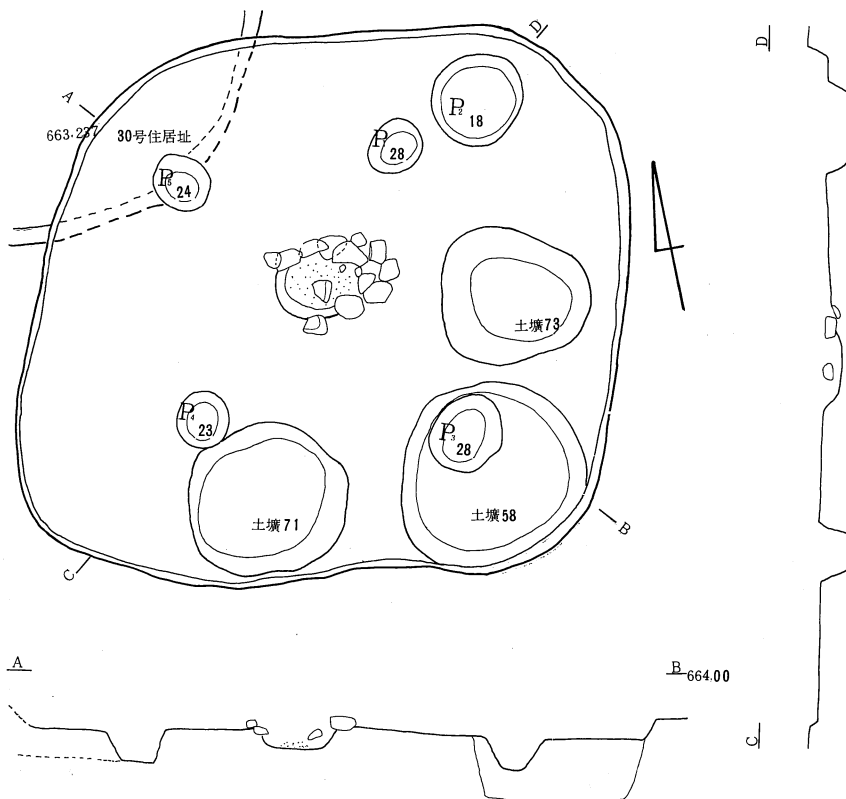
30) 第31号住居址 (第98・99図 図版25)

遺構 (第98図 図版31)

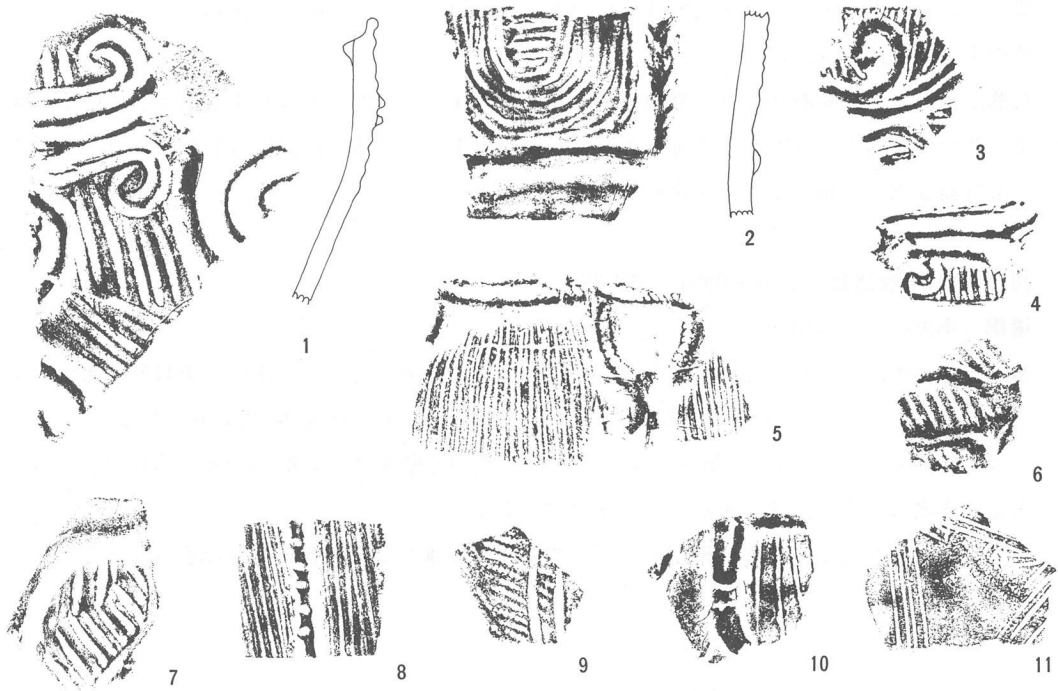
本住居址は第24号・41号住居址とともに集落の内側に位置している。南には第41号住居址があり切っている。北西部はわずかに第30号住居址に貼床している。床面差は25cmである。

プランは隅丸方形で4.4×4.7mを測る。壁はゆるやかで壁高は北・東は15cm、南側は低く5cmである。床面はわずかにタタキがみられるだけである。

炉は中央わずかに北寄りにあり楕円形の炉穴の周囲に無雑作に自然石をおいた感じである。大き



第98図 第七地点第31号住居址実測図 (S=1/60)



第99図 第七地点第31号住居址床面出土土器 (1/3)

さは90×70cmで、南西部は炉石がない。柱穴は4本と考えられる。P₃は土壌58を掘り込んでいる。

遺物 (第99図)

遺物は少ない。土器はすべて破片である。文樣的にやや古い様相を持つものもみられるが、総じて曾利Ⅱ式期に比定される。

石器は床面より不定形石器8点が出土しているのみである。

(気賀沢 進)

31) 第32号住居址 (第100・101・102・103図 図版29・30・45)

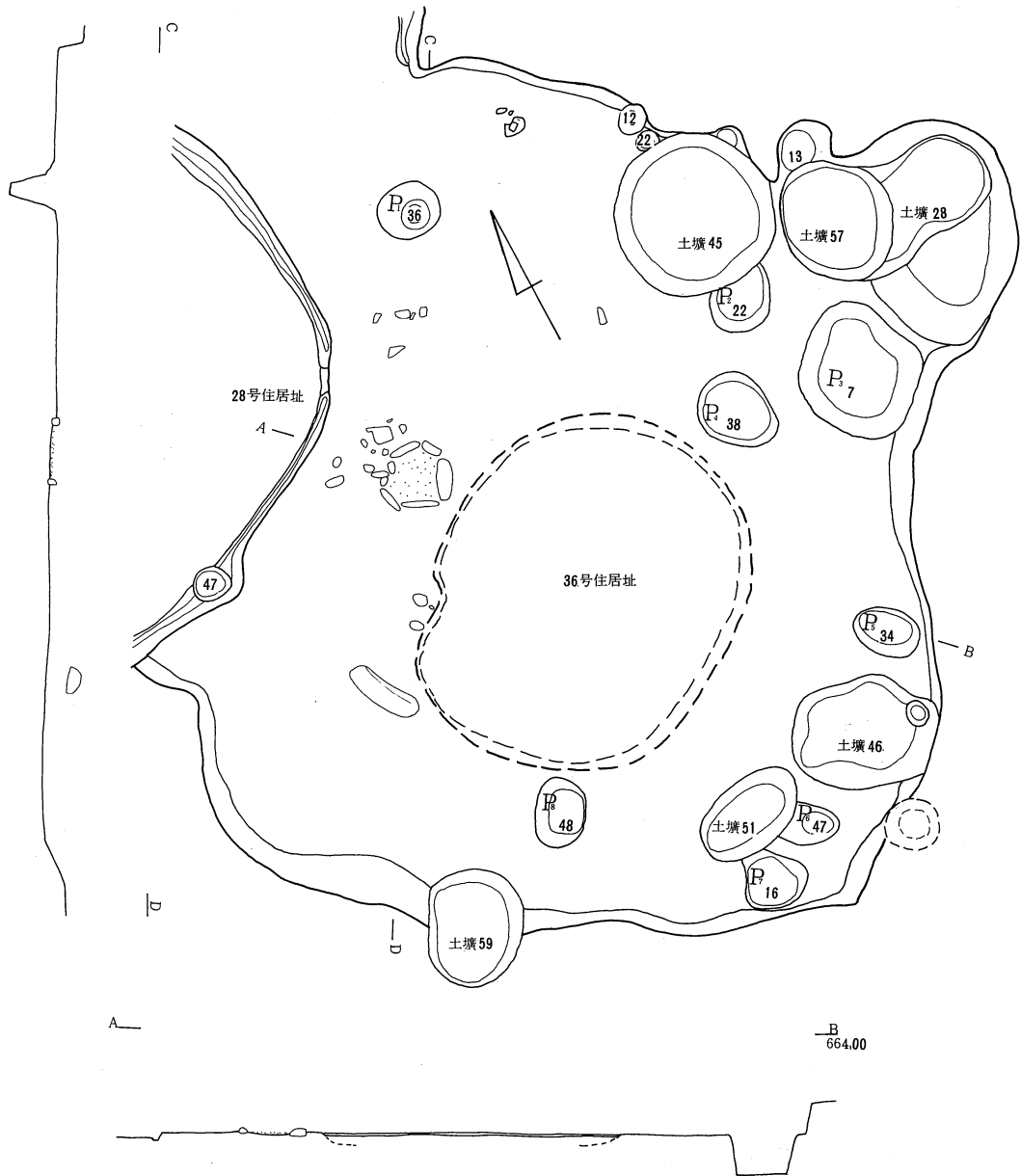
遺構 (第100図 図版29・30)

本住居址の北西部は第28号住居址によって切られ、南西部では第29号住居址を切っている。北側床面は第23号住居址と同一床面で壁はない。南側は第35号住居址と重複している。貼床的なものは認められず第35号住居址を切った形となっているが、土器形式からみると逆転現象となっている。土壌が多く掘り込んでいる点も貼床の確認を難しいものとしたと考えられる。さらに炉の南側には第36号住居址があり貼床をしている。床面差は10cm弱である。

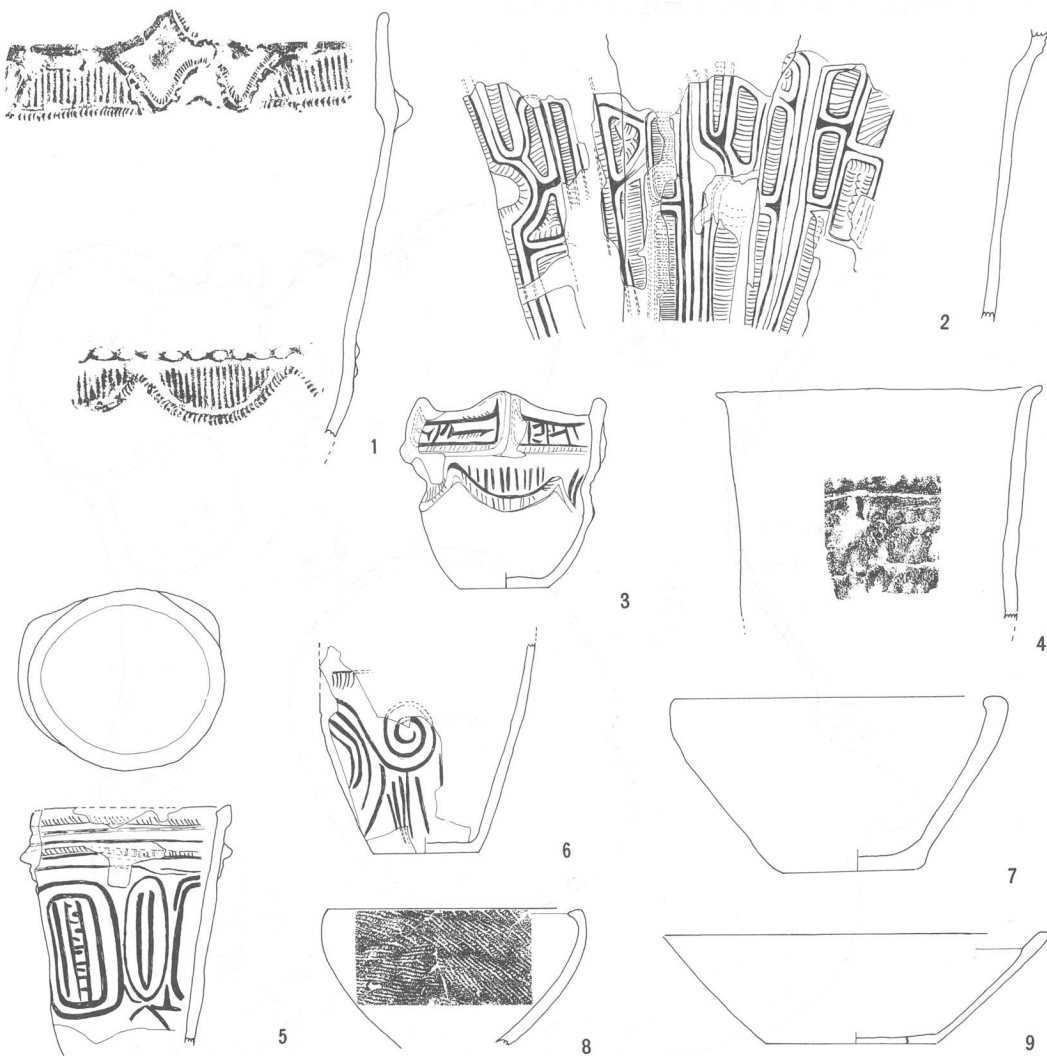
プランははっきりしないが、隅丸方形に近いものである。推定6.5×6.0mを測る。床面は固くロームをたたきしめている。主軸方向はN-40°-Wである。

炉は細長い自然石を用いて六角形を呈している。小形なもので50×60cmで掘り込みは浅い。東側はやや幅広な石を横長にすえている。

柱穴はP₁・P₄・P₈など考えられるが何本かは不明である。
 炉の北側床面に土器が集中して発見されている。



第100図 第VII地点第32号住居址実測図 (S=1/60)



第101図 第VII地点第32号住居址床面出土土器 (1/6)

遺物 (第101・102・103図 図版)

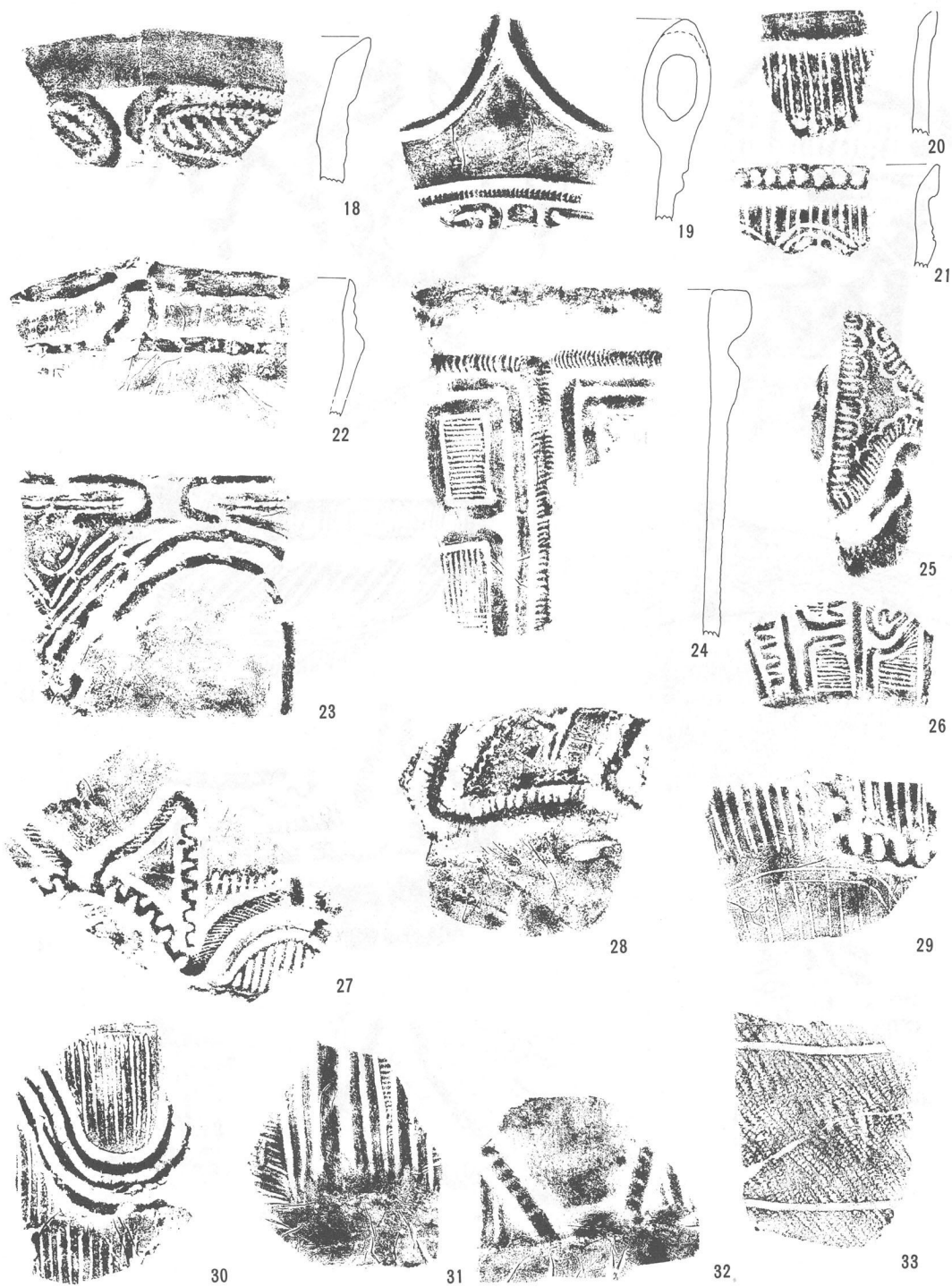
土器は多量に出土しているが完形に近いものは3のみである。

1は大形深鉢形土器の一部で直立する口縁は4個の突起を持ち隆帯による楕形文が付され下半部楕形文までは無文部を形成する。

2は筒形土器の胴部。縦位区画文で飾られる。3は小形の壺であろうか。やや寸づまりの感がある。7~9は小形の浅鉢形土器で8は全面に縄文が施される。3と5は砂粒と大きな雲母片を多量に含んで赤褐色に焼かれ一見して同一胎土によって制作されたことが知れる。



第102图 第七地点第32号住居址床面出土土器 (1/3)



第103图 第Ⅶ地点第32号住居址床面出土土器 (1/3)

破片も大形のものが多い。11の粘土紐による装飾技法は第Ⅰ地点第4号住居址、第Ⅶ地点第35号住居址例と同様のものである。文様構成的には最も古い様相を持つと考えられる。

16・18・28は新道式的様相をみせるが総じて藤内Ⅰ式期に比定される。

石器は覆土より5点、床面より31点が出土している。外に覆土より剥片13片、床面より70片出土している。覆土5点の内訳は打製石斧2点、敲打器3点である。床面は打製石斧9点、磨製乳棒状石斧・大形石匙・石錘各1点、敲打器2点、横刃形石器と石錐1点ずつ、不定形石器15点である。

32) 第33号住居址 (第104・105図)

遺構 (第104図)

本住居址は第32号・35号居址の西側にあり、北側にて第29号住居址を切っている。西にて第34号住居址と同一レベル床面でつながっている。南東部が土壌によって掘り込まれてははっきりしないが隅丸方形のプランと考えられる。規模は推定4.4×4.2mを測る。主軸方向N-31°-Wと考えられる。

壁はややゆるやかで20~25cmを測る。ロームをタタキしめた床面は固くほぼ平坦である。炉は西寄りに位置し、70×60cmに深さ10cmほど掘りくぼめている。地床炉でなく炉石を持っていたものと思われる。柱穴は定かでない。

遺物 (第105図)

出土土器はあまり多くない。すべて破片で復元できるものはない。

1・4は深鉢形土器の口縁部である。2は複合口縁で大きな爪形文を連続的に施す。21は小形の筒形土器で薄手づくりで細沈線による幾何学文様が配される。16・17は土製円板である。新道式的様相もみられるが、総じて藤内Ⅰ式期に比定できようであろう。

石器は覆土より24点、床面より21点出土している。外に覆土より剥片102片、床面より剥片2片と黒耀石の石核1点が発見されている。覆土24点の内訳は打製石斧9点、大形石匙・石錘・磨石各2点、敲打器7点、特殊敲打器・横刃形石器各1点である。床面の内訳は打製石斧1点、敲打器2点、横刃形石器1点、石錐2点、不定形石器15点である。 (気賀沢 進)

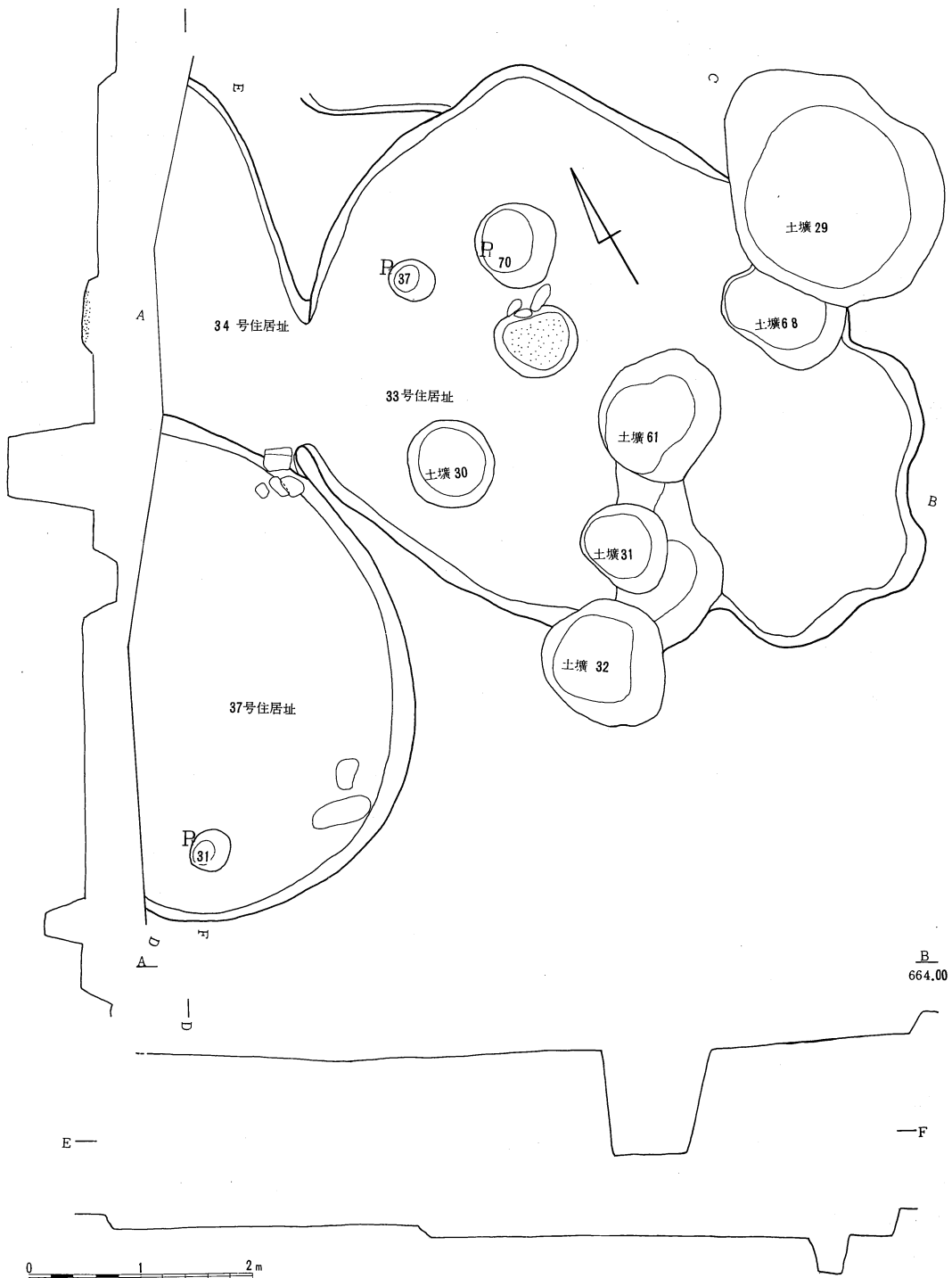
33) 第34号住居址 (第104図)

遺構 (第104図)

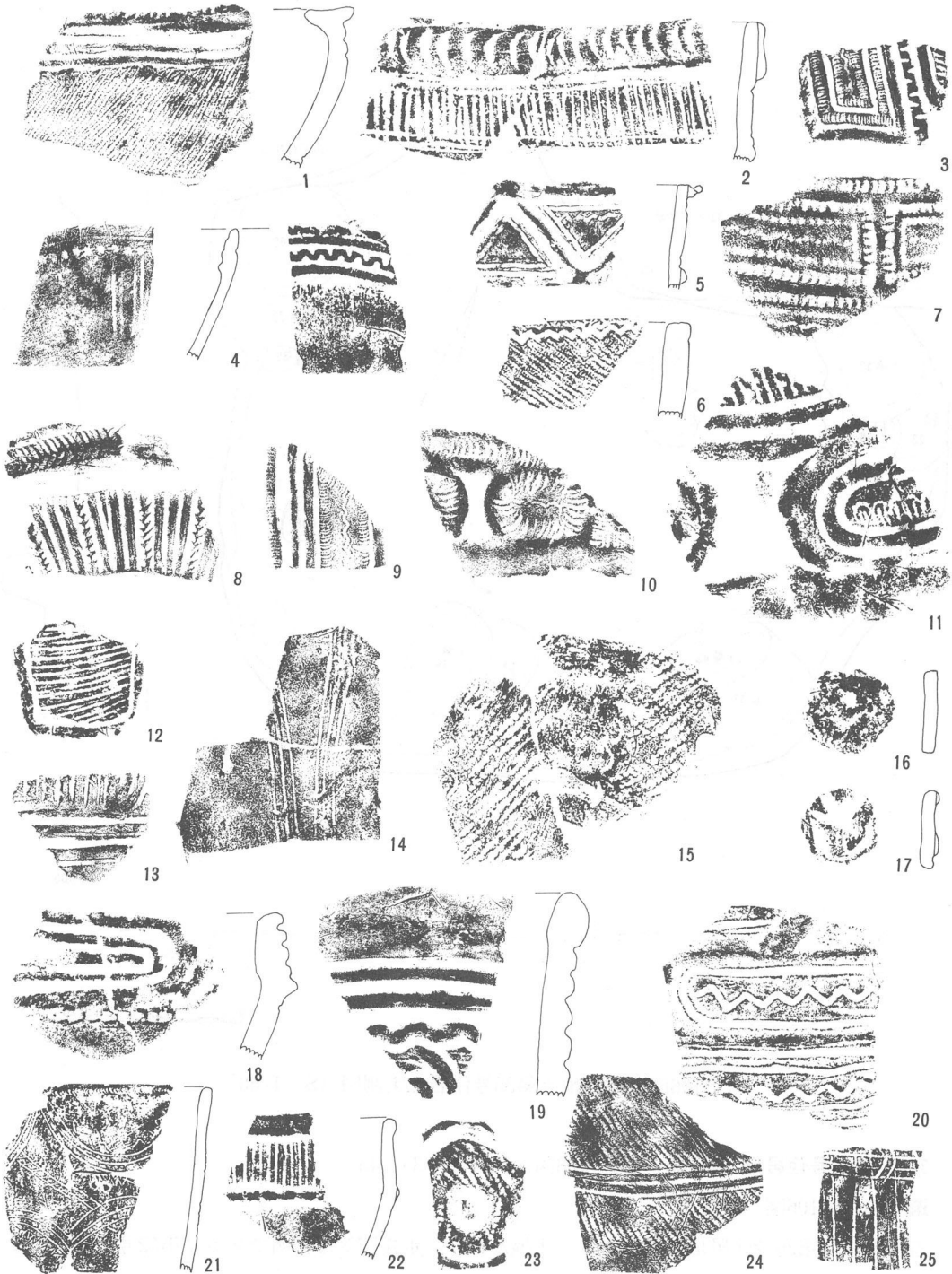
第33号住居址の西にあり、同一レベルの床面でつながっている。南は第37号住居址によって切られ、西側は調査区域外であるが、開田のため壊されていると思われる。全体の4分の1ほどの床面のみが検出されただけである。

遺物

出土遺物は極めて少ない。中期中葉期に比定される小破片がわずかに覆土より出土している。石器はまったく出土していない。



第104図 第33号・34号・37号住居址実測図 (S=1/60)



第105図 第七地点第33号住居址出土土器及び土製品 (1/3, 1~16は覆土、他は床面出土)



第106図 第七地点第35号住居址実測図 (S=1/60)

34) 第35号住居址 (第106・107・108図 図版29・35・45)

遺構 (第106図 図版29)

当住居址は第30号住居址の西にある。土壇があり、重複関係は不明である。第32号住居址によって切られている状態をみせているが、土器の時期からすると逆転現象である。顕著な貼床面は認められなかった。土壇の掘り込みによる影響も考えられる。

北東部には壁がみられずガラガラと第30号住居址の壁外へ続いている。残存状態から推測して

楕円形のプランを持つと考えられる。大きさは長軸6.2mである。壁はゆるやかで壁高は20cm前後である。

床面は炉に向かってやや傾斜しタタキしめられ良好である。土壌が切り込んでおり、柱穴は定かでないが、4本であろうか。

炉は床面をわずかに掘りくぼめた石組炉で、一部炉石がない。方形を呈し、大きさは外形80×70cm、内形50×40cmである。

遺物 (第107・108図 図版35・45)

土器は多く出土している。

1は炉のわきから出土したもので、鉢形土器で、胴下半部を欠く。内湾する口縁に隆帯によるワラビ手文抽象文を持った小突起を2箇所配し、頸部に隆帯をはわせ、球状にふくらむ胴部に連続刺突文が器面全体に縦走される。

2・3は炉の南床面に横倒しで出土している。2はいわゆる

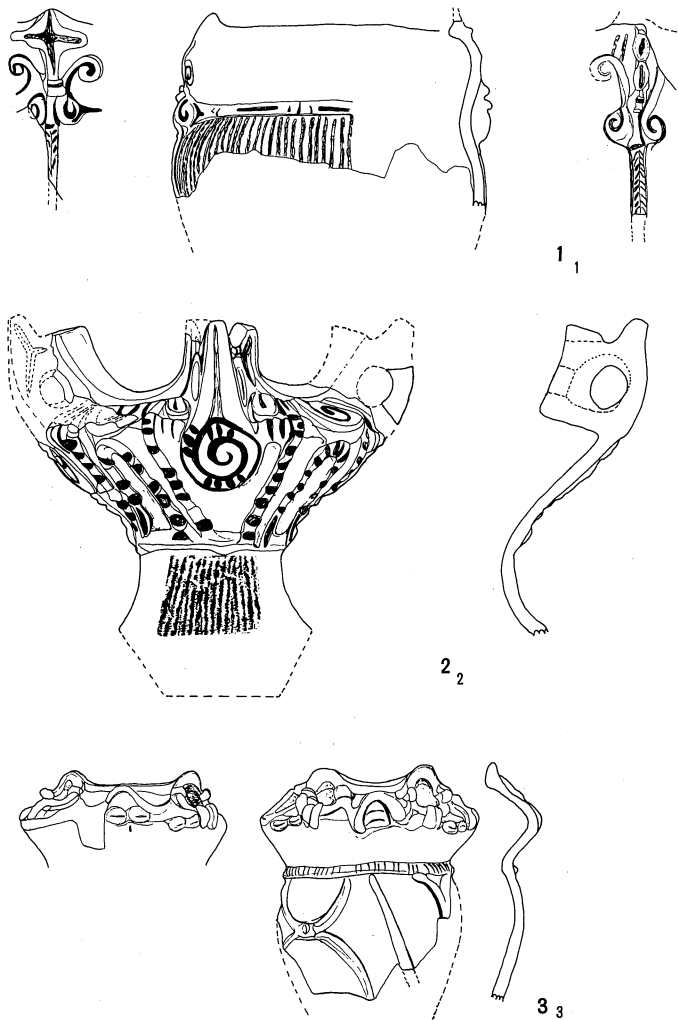
塔形把手を4個持つ豪華な土器で、残念ながら把手の一部と底部を欠いている。底部は屈曲底であろう。強く内屈する口縁には大きな刻みを持った隆帯を用い口唇部には半肉彫り手法がみられる。強くくびれる頸部から外反する胴部には縄文が全面に施される。細かい長石と雲母をわずかに含んで赤褐色に固く焼かれている。

3は小形の深鉢形土器で胴下半部を欠いている。内湾する口縁には突起4個をやや方形に配し、その下部には粘土紐を曲線状に施し指頭状文が施される。一箇所人面を模している。くびれる頸部に刻みを持つ隆帯をはわせ、胴部にはやはり粘土紐によるU字文等が施される。第I地点第4号住居址、第VII地点第32号住居址出土例と同一手法の土器である。

5・8・13は浅鉢である。

時期は11・12などやや後出するものとみられるが、井戸尻I式期に比定されるであろう。

床面より石器32点と剥片76片が出土している。内訳は打製石斧16点、磨製乳棒状石斧2点、大



第107図 第VII地点第35号住居址床面出土土器 (1/6)



第108图 第Ⅶ地点第35号住居址床面出土土器 (1/3)

形石匙と石錘各3点、敲打器2点、特殊敲打器1点、不定形石器5点である。

(気賀沢 進)

35) 第36号住居址 (第109・110図 図版30)

遺 構 (第109図 図版30)

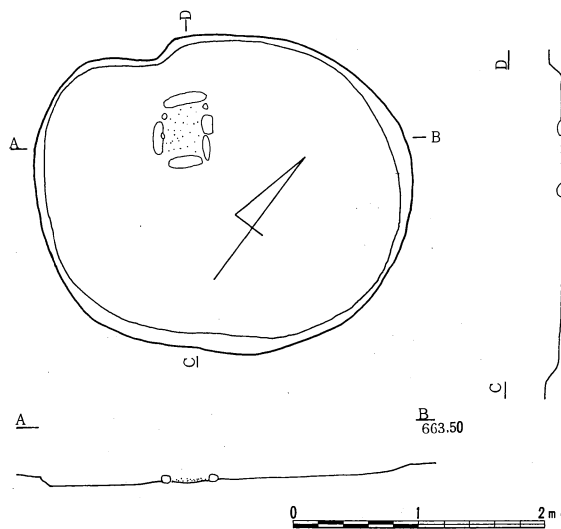
本住居址は第32号住居址の炉の南にあり、全面貼床されていたものである。

床面上に薄く黒色土がみられるが埋没土はローム腐乱土が覆っている。壁は検出が難しかった。

プランは楕円形で3.0×2.5mを測る。床面は部分的にタタキがみとめられただけである。炉は北西部に片寄って位置し変則である。長方形を呈す石組炉で外形60×45cm、内形40×30cmである。細長い自然石5個を横長にすえている。

柱穴はまったく検出されなかった。

第40号住居址も同様な形態を示すもので、特異なものである。集落内における特殊な性格を持つ施設と考えたい。



第109図 第VII地点第36号住居址実測図 (S=1/60)

遺 物 (第110図)

遺構に比して土器は多く出土しているが復原できるものはなくすべて破片である。1は深鉢形土器の把手で、蛇体文を表に施し裏はみみづく状である。3・4・9は浅鉢の口縁部である。3のように新道的要素を持つものもあるが総じて藤内I式期に比定されるであろう。

石器は7点と少ない。内訳は打製石斧・磨製乳棒状石斧・特殊敲打器各1点、敲打器と不定形石器が2点ずつである。他に剥片9片が出土している。

(気賀沢 進)

36) 第37号住居址 (第104・111図)

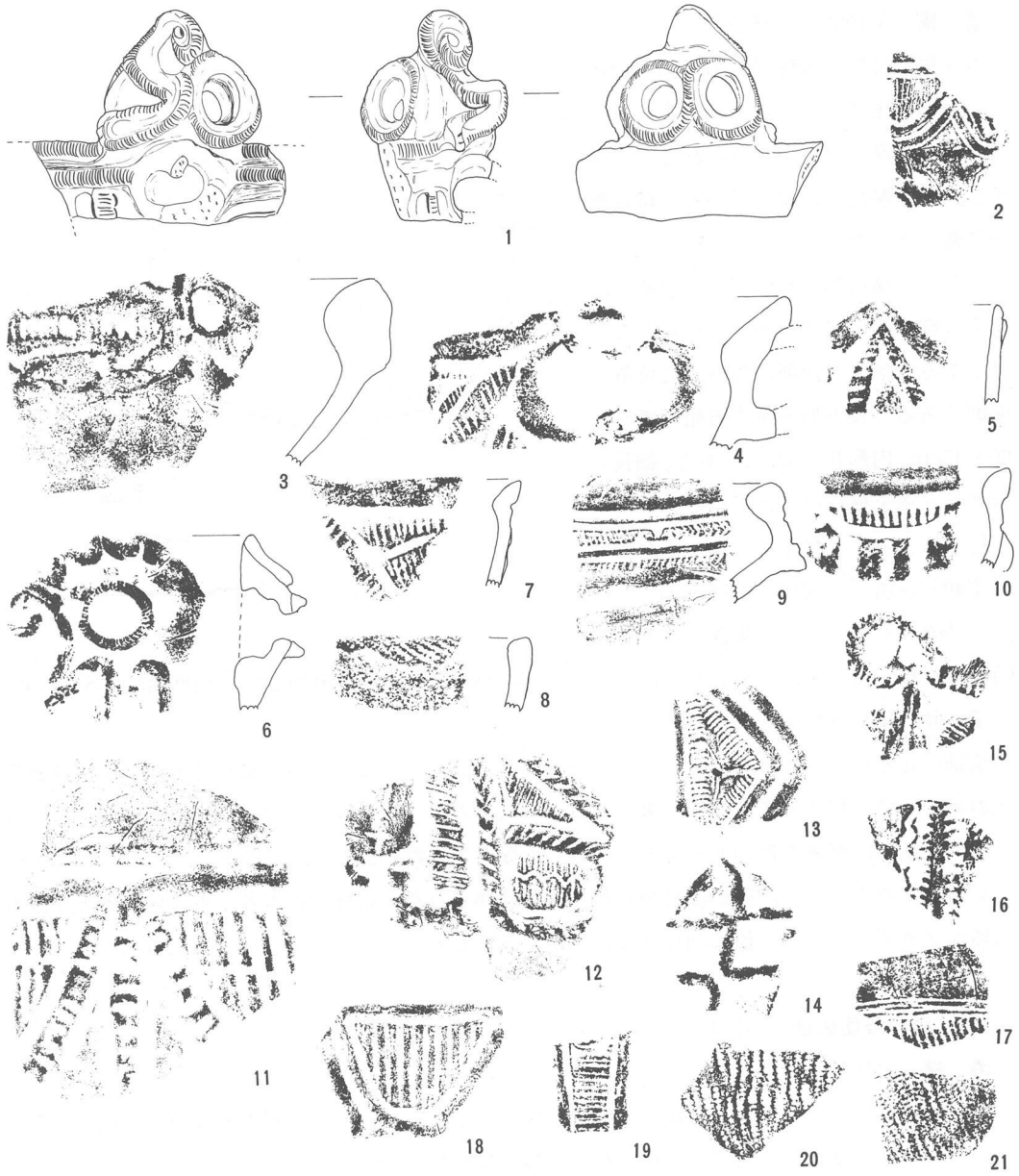
遺 構 (第104図)

第33号住居址の西にあり、北側では第34号住居址を切っている。西側半分は調査区域外となっているが、開田時においてすでに壊されていると思われる。

プランは円形を呈すと思われる。壁高は25cm前後第34号住居址との床面差は10cmほどである。床面はロームを良くタタキしめ固く良好である。炉は発掘部分では検出されなかった。

遺 物 (第111図)

土器は復原できるものはなく、すべて破片である。12は大形の浅鉢形土器で幅広なへら削り痕がみられる。13は山形状の突起部で中空となっている。総じて藤内中期に比定できるであろう。



第110图 第VII地点第36号住居址床面出土土器 (1/3)



第111図 第七地点第37号住居址出土土器 (1/3, 1~9は覆土、他は床面出土)

石器9点と剥片29片、硬砂岩の原石1点が床面より出土している。石器の内訳は打製石斧2点、磨製乳棒石斧・大形石匙・円形搔器各1点、不定形石器4点である。(気賀沢 進)

37) 第38号住居址 (第112図 図版31)

遺 構 (第112図 図版31)

第35号住居址の南西部にあり、集落の最も内側に属する。

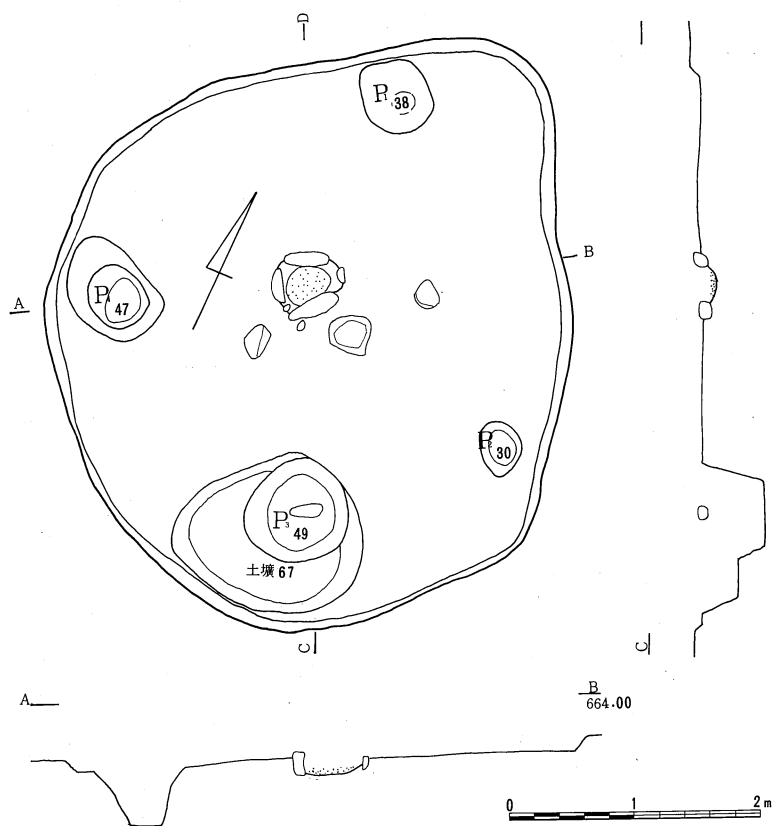
プランは不整楕円形を呈し、北東部が張り出している。主軸方向はN-31°-Wである。大きさは4.5×4.2mを測る。壁はゆるやかで、壁高は東側で15cm、他は10cmほどである。床面は炉周辺に良くタタキが認められるが、周囲はあまり固くない。炉は中央北寄りに位置し、小形の石組炉である。4個の炉石であったと思われるが東側には残っていない。外形は方形で60×50cm、内形は楕円形を呈し、40×25cmである。

柱穴は4本である。P₃は土壌67を掘り込んでいる。

遺 物

土器は曾利I~II式期に比定されるものが10数片出土しているのみである。

石器は大形石匙・石錐・敲打器・磨石・蜂のす石・石皿・石錐・円形搔器が1点ずつの計11点が床面より出土している。他に剥片6片がある。



第112図 第VII地点第38号住居址実測図 (S=1/60)

(気賀沢 進)

38) 第39号住居址 (第113・114図)

遺構 (第113図)

当地点において最も南側に位置するもので他住居址よりやや離れている。西側は調査区域外となるが、すでに開田時に破壊されているものと思われる。プランは隅丸方形であろうか。

壁はゆるやかで壁高は25~30cm前後である。床面はロームをタタキしめ固く中央に向かって傾斜している。

炉は確認されていない。P₂・P₄の2本が柱穴と考えられる。

遺物 (第114図)

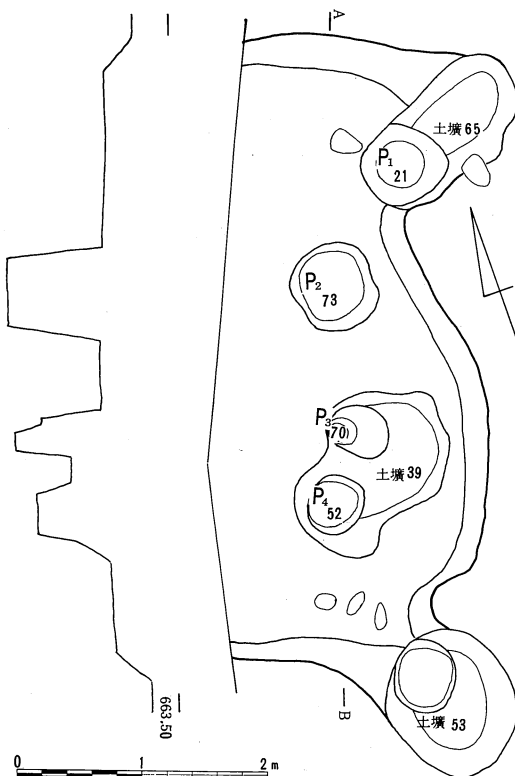
土器は復原できるものはないが、大形な破片がみられる。

5は浅鉢で他はすべて深鉢形土器と思われる。

総じて藤内I式期に比定できる。3は後出するもので井戸尻末~曾利期にかけてのものである。

石器は床面より24点出土している。内訳は、打製石斧12点、磨製乳棒石斧・敲打器各2点、特殊敲打器・彫器・削器が各1点、不定形石器5点である。

(気賀沢 進)



第113図 第七地点第39号住居址実測図
(S=1/60)

39) 第40号住居址 (第115図)

遺構 (第115図)

第35号住居址の南にあり、第36号住居址と同様な性格を持つものである。プランは不整円形と思われ、3.0×2.8mの大きさである。壁はなだらかで壁高は10~15cmである。床面は南西部がやや低くなっており、顕著なタタキはみられない。

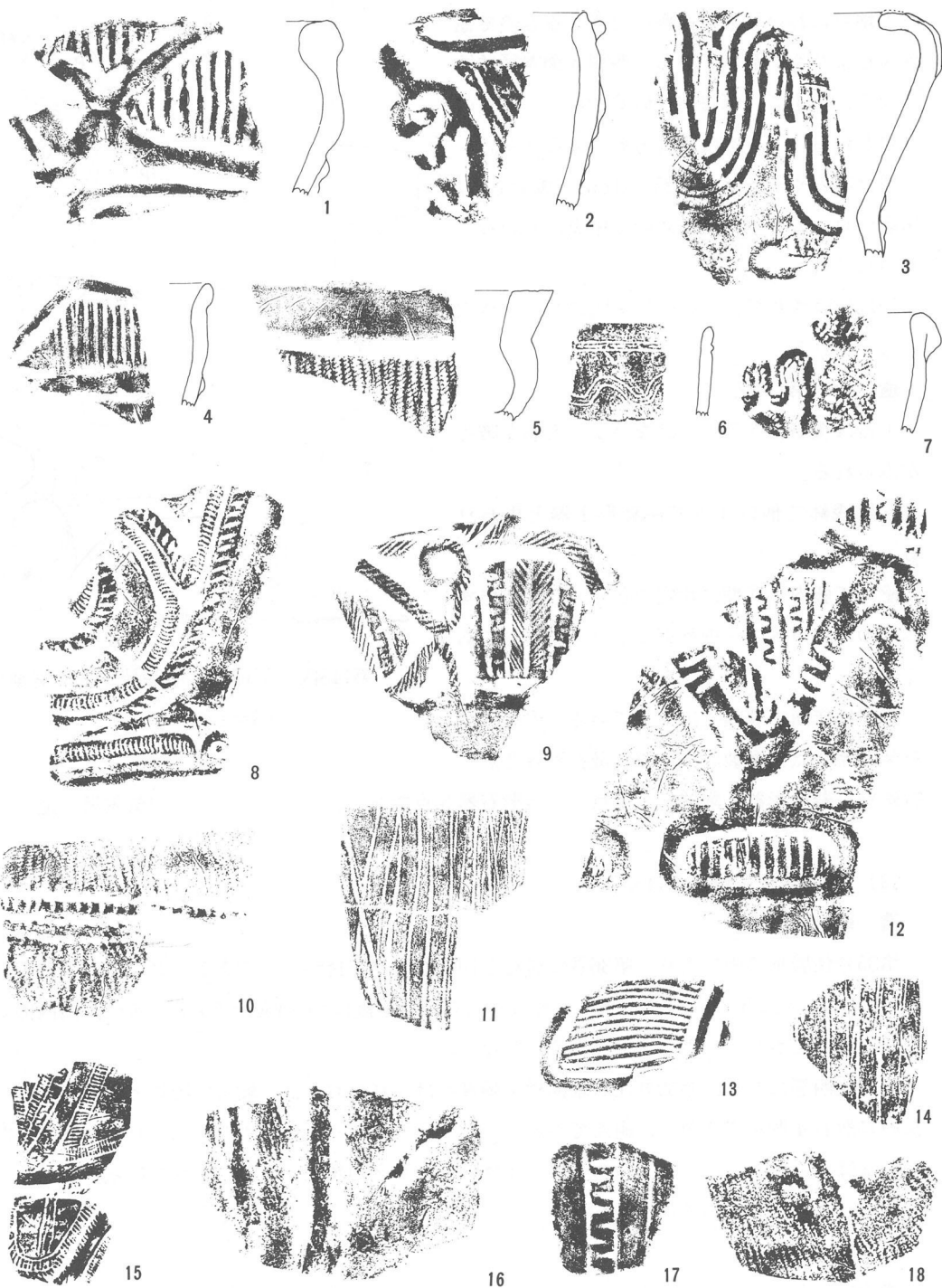
炉は北西部にあり、第39号住居址同様中軸線をはずれており、一般の住居址と異っている。細長い自然石4個を変4角形に組んでいる。ほぼ方形を呈し、外形70×60、内形50×30cmで、掘り込みはほとんどみられない。炉の下には土壇76がありその覆土の上に造られている。

柱穴はまったく検出されなかった。

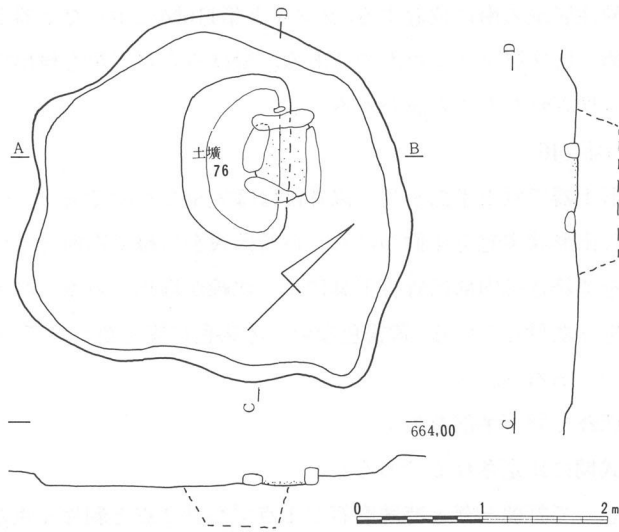
遺物

遺物は少ない。土器は新道期のものが数片出土しているのである。石器は石錘と敲打器・石皿が1点ずつの計3点で他に剥片1片が出土している。

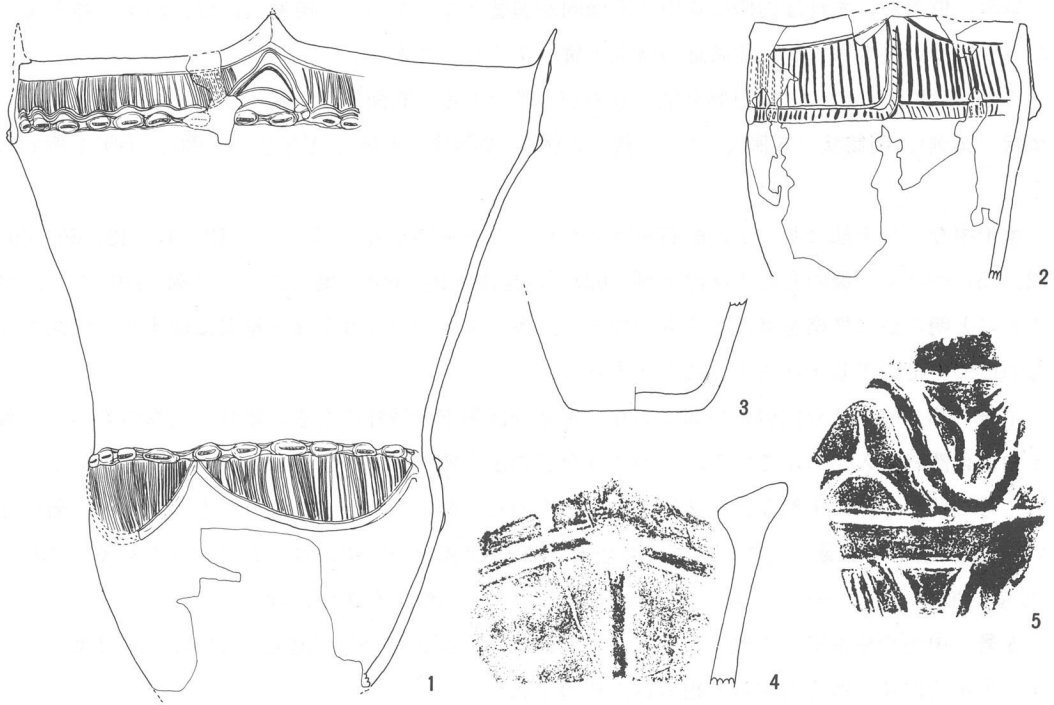
(気賀沢 進)



第114图 第七地点第39号住居址床面出土土器 (1/3)



第115図 第VII地点第40号住居址実測図 (S=1/60)



第116図 第VII地点第41号住居址床面出土土器 (1~3は1/6、4・5は1/3)

40) 第41号住居址 (第116図 図版46)

遺構

本住居址は第31号住居址の南に位置する。タタキと第116図に示した土器が一括横つぶれの状態で出土していたため一応住居址としたものである。壁はみられず炉も検出できなかった。第31号住居址によって大半切られたものと思われる。

遺物 (第116図 図版46)

1は大形の深鉢形土器で胴下半部を欠く以外はほぼ完全なものである。やや直立する口縁はゆるやかな波状を呈し山形状突起を4個つける。口唇は複合口縁で内面そぎ状となる。口唇下に隆帯を合わせ指頭痕を連続させ内部は竹管工具による沈線が埋めている。胴上部は無文帯となり、くびれ下に櫛形文を5個付している。黄褐色ないし赤褐色に固く焼かれている。平出ⅢA系土器の終末に位置するものであろう。

2は突起を持つ深鉢で胴下半部を欠く。

時期は井戸尻Ⅱ式期に比定されるであろう。

石器は土器に混じって打製石斧と特殊磨石が1点ずつ計2点と剥片4点が出土している。

41) 土壌と遺物 (第117・118・119・120・121図 図版32・33・34・46)

縄文時代の土壌は71基確認された。住居址と重複するものが大半で、すべてが単独のものかははっきりしない。中には住居址に付属すべきものもあると思われる。

集落の位置からすれば内側に集中する傾向が顕著となっている。時期的には、出土土器をまったく伴わない例もあるが、住居址の時期と併行するものである。

平面形は円形ないし、楕円形を呈するものが大半である。断面形は皿状(9例)、桶状(19例)、鉢状(26例)、円筒状(6例)、タライ状(8例)、菱形状(1例)、Y字状(1例)、不明1例である。

覆土中ないし上部に明らかに配石を考えられるものを伴うもの(7、12、13、34、43、60、69、72、75)やひすい製の有孔大珠出土例(62)、耳栓出土例(65)、焼土を伴った例(29)などは他のものと明らかに性格を異にするものである。各土壌については土壌一覧表にゆずり、特徴あるものについて以下若干詳述することとする。

1号 第2号・3号住居址の間にあり、東半分は調査区域外である。皿状の大形のもので、覆土中に自然石が入り込んでいる。このような石の出土例を持つものとして15号・37号がある。

7号 覆土中位に平盤な自然2個とこぶし大の石1個による石組みを持つものである。層位はⅥ層-黒褐色土(Ⅲ層)とローム粒の混合土。Ⅶ層-黒褐色土の中にロームブロックを多く含む。Ⅶ'層-Ⅶ層に比べロームブロックが少なくなり、ローム粒をわずかに含む。

9号 中央やや東寄りの覆土上部より土偶の頭部(第121図-8)が出土している。首は丸くつばまり欠損痕がない所からすると組み込み式の土偶かもしれない。

土壙一覧表

番号	位置	平面形	断面形	口径 (cm)	底径 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
1	6-ね	楕円形?	皿状	200×?	110×?	20		打製石斧2、自然石混入。
7	11・12-ね	楕円形	桶状	138×118	100×90	63	新道～藤内	覆土中に配石伴う。
8	7-は (5住)	円形?	桶状	120×?	100×?	100		
9	8-の (5住)	楕円形	桶状	105×83	70×63	87	曾利II	覆土上層より土偶頭部出土。
10	7-ね (4住)	隅丸方形	皿状	135×130	100×110	33		不定形石器1
11	10-の-は (5住)	円形	桶状	125×120	105×100	72	曾利I	石礫1
12	10・11-な (8住)	隅丸方形	皿状	170×135	145×113	23	曾利II	覆土上層に配石伴う。
13	11-な	円形	菱形状	70×63	65×55	43	曾利II	上部に大きな平石その下深鉢完形土器横位埋設
14	10-ぬ	楕円形	鉢状	150×128	110×105	52	曾利	深鉢形胴下半部
15	12-ぬ	楕円形	鉢状	105×68	80×43	20	混在不明	覆土中自然石混入。
16	13-ぬ・ね (10住)	楕円形	桶状	143×123	128×100	65	混在不明	打製石斧2、磨製石斧1
17	15-ぬ 16-ね (12住)	楕円形	桶状	108×82	60×48	75	曾利I～II	打製石斧2、小形石匙1
18	16-ぬ (12住)	円形	皿状	98×83	83×68	10	曾利II	打製石斧3、敲打器1
19	16・17-に (12住)	円形	鉢状	90?×85	60×52	32	新道	大形石匙1、敲打器2、底に平石
20	16-に (12住)	楕円形	鉢状	130×70	100×50	45	曾利I～II	打製石斧、大形石匙、敲打器、特殊敲打器、不定形石器各1深さ20cmのピットあり。
21	16-に (12住)	楕円形	鉢状	118×95	90×63	20	?	石礫1
22	14・15-ぬ (10住)	円形	鉢状	110×105	83×78	28	?	柱穴と重複
23	13- 14-な (9住)	円形	桶状	75×65	50×43	55		
24	15-に (10住)	円形	桶状	108×95	55×45	85	藤内I	打製石斧、敲打器各1、底偏在。
25	21- ね (25住)	隅丸方形	桶状	150?×135	130?×125	60	井戸尻III ～曾利I	48号との切り合不明
26	27-て (20住)	グกลม形	円筒状	95×73	80×58	65	藤内	小形筒形土器覆土中出土
27	24- ぬ (25住)	楕円形	タライ状	180×138	153×110	45	曾利	
28	25- ぬ ね (26住)	長楕円形	タライ状	?×75	?×65	40		底部グกลม形
29	27- 28-ひ (33住)	長楕円形	円筒状	235×180	150×145	75		打製石斧8、土製円板1、覆土上部より深鉢形土器(3個体)覆土ロームブロック多く焼土が一部にある。
30	29-ふ (33住)	円形	桶状	80×80	58×58	70	曾II～III	打製石斧3、磨石1
31	28- 29-ふ (33住)	不整形円形	鉢状	75×75?	58×55	105?		
32	29-へ	不整形円形	桶状	110×110	75×68	103	曾利I～III	打製石斧1、敲打器2
33	24- は ひ (35住)	不整形円形	タライ状	160×150	130×120	35	曾利III	敲打器1、土製円板1、60号と重複
34	23- 24-な (18住)	不整形楕円形	鉢状	105×70	85×55	35		覆土上部に細長い自然石横位
35	23-の (30住)	円形	タライ状	110×104	100×85	35		内部小ピット2、壁外小ピット2

36	29-ま み	楕円形	桶状	105×85	70×68	102?	曾利 I	打製石斧1、敲打器2、不定形石器1、上面隅丸長方形の落ち込みあり。
37	30-み	不整楕円形	鉢状	162×135	138×100	48	新道～藤内	打製石斧1、覆土中に自然石混入する
38	29-め 30	長楕円形	鉢状	180×100	138×75	50	藤内?	打製石斧3、敲打器3、不定形石器1
39	30-も や (39住)	ダルマ形?	鉢状	150×105	105×85	25	曾 I～II	ピット2ヶあり1つは深さ30cm、住居址のピットか。
40	30-は (29住)	隅丸方形	桶状	90×82	55×48	103		
41	28-は (29住) 29	不整長楕円形	皿状	105×75	70×40	28		ピット2あり。
42	29-む 30	円形	Y字状	95×85	65×70	105	混在不明	打製石斧、敲打器各1
43	26-ふ (35住)	長楕円形	桶状	95×55	72×28	65		上部に自然石横たわる。47号との切り合い不明
44	22-ぬ (25住)	不整円形	鉢状	130×115	110×95?	30	藤内	打製石斧、敲打器各1西にピットあり住居址の柱穴か。
45	26-ぬ ね (32住)	円形	鉢状	130×130	100×105	45	混在不明	打製石斧1、大形石匙1
46	25-は (32住) 26	楕円形	タライ状	125×95	100×68	30	?	小ピット1あり。
47	26-ふ (35住)	円形?	タライ状	105×?	90×?	30		打製石斧2、敲打器1、43号との切り合い不明
48	21-に (25住)	不整楕円形	鉢状	155×93	140×65	45		25号との切り合い不明
49	25-ふ (35住)	隅丸長方形	桶状	95×72	78×43	58	井戸尻	
50	25-の は (30住)	不整楕円形	皿状	130×130	106×88	16		外形は不整円形となる。
51	26-は (32住)	長楕円形	タライ状	93×57	75×33	40		
52	27-ひ	不整楕円形	桶状	115×92	78×65	60	藤内 I	
53	30-や・ゑ	楕円形	鉢状	118×93	78×60	45		深さ50cmのピットあり住居址のピットか。
54	24-ぬ (30住)	楕円形	鉢状	110×87	85×65	40		小ピット1あり、55号との切り合い不明
55	24-ぬ (30住)	隅丸方形	皿状	105×?	?	?	混在不明	打製石斧、磨石、凹石各1、敲打器2、54号との切り合い不明
56	23-ぬ 24 (30住)	楕円形	皿状	100×88	85×70	14		
57	25-ぬ 26 (26住)	楕円形	タライ状	110×95	88×75	25		28号との切り合い不明
58	21-は ひ (31住)	不整円形	鉢状	150×135	122×116	52		
59	27-は ひ (35住)	隅丸長方形	円筒状	95×78	82×57	58		打製石斧1
60	24-は (35住)	円形	鉢状	98×95	85×86	(28)	曾利 I～II	敲打器1、底に自然石10個並んでいる。覆土中炭化物多量焼土一部あり。

61	28-ふ (33住)	不整楕円形	桶状	118×100	93×68	95	?	
62	22-ふ	ビン形	鉢状	170×85	118×58	48	曾利 I ?	打製石斧1、敲打器1、ひすい製の有孔大珠北端底より出土 土壌を切っているか。
63	28-み	円形	円筒状	98×93	73×70	72		
64	27-ま	隅丸方形	鉢状	132×128	115×95	18	混在不明	小ピット1個あり
65	30-め	長楕円形	鉢状	145?×78	?×38	38	混在不明	柱穴と重複東側覆土中より耳栓出土
66	27-む	円形	桶状	105×102	68×66	115	曾利	打製石斧1
67	26-ま (38住)	不整楕円形	鉢状	150×135	120×98	25		敲打器1、柱穴と重複
68	28-ふ (33住)	楕円形	円筒状	115×?	92×?	63	曾利III	
69	30-む	楕円形	鉢状	65×50	40×35	25	藤内	覆土上部から壁外にかけて配石あり。
70	27-む	楕円形	円筒状	100×80	75×60	89	曾利 I	
71	22-ひ (31住)	円形	鉢状	132×120	105×85	53		
72	30-め	楕円形	桶状	110×90	70×50	103		覆土上部から壁外に自然2個あり。
73	21-は (31住)	不整円形	鉢状	120×110	?	45		
74	27-み	楕円形	皿状	120×?	65×?	15		70号と重複
75	27-て (20住)	円形?	?	?	80×75	?		底に自然石あり。炭化物が充満し中に炭化粟がみられる。小形深鉢形土器横位出土
76	24-へ (40住)	不整隅丸鉢状長方形		135×88	105×55	32		

12号 中央覆土上位に平盤な石4個を並べている。

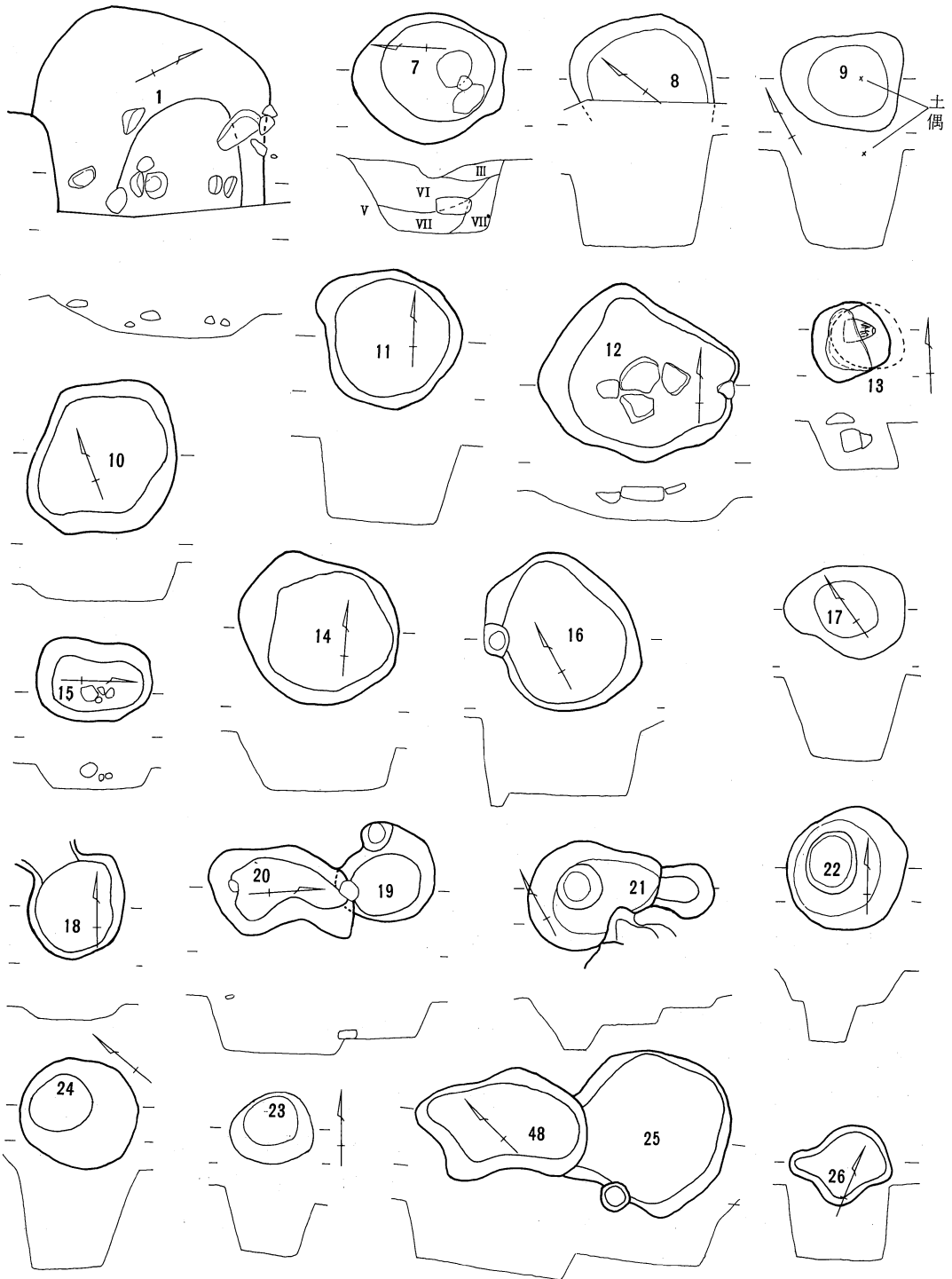
13号 小さな土壌で上部に大きな自然石がすえられその下に小形深鉢形土器完形品（第120図-1）が横位に埋設されている。断面は片側のみ袋状をなしている。

29号 円筒状の大形の土壌で覆土中にはロームブロックを多量に含み、部分的焼土が認められた。内部より3個体の深鉢形土器の一部（第120 図-3・4）と土製円板1個が出土している。人為的な埋戻し例である。

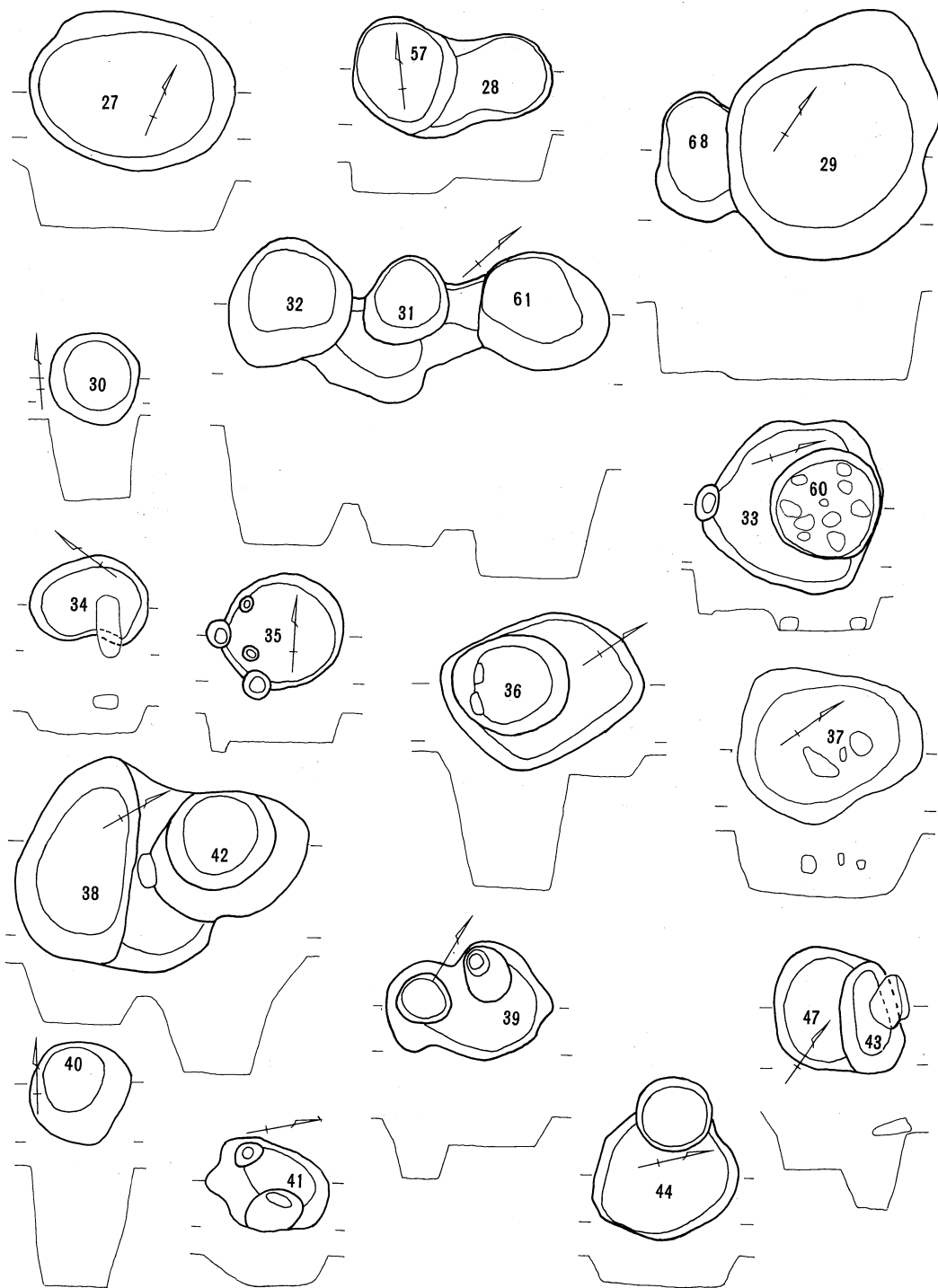
60号 33号を切って円形を呈し、底には自然石が10個敷かれている。覆土中には多量の炭化物と焼土が若干検出されている。

62号 第31号住居址の南にあり、平面形は北側を張出したビン状を呈すもので、65号と類似し他と明らかに違いをみせている。長軸はほぼ真北をさし北側の基部床より5cmほどの所よりヒスイ製の有孔大珠（第121図-12）が出土している。長さ7cm、幅3.2cm、厚さ2.2cmでやや上部に孔がある。孔は8mmと片側7mmで片側より穿孔している。淡緑色を呈し、キズがややあるが優品である。墓的性格を持つ土壌である。

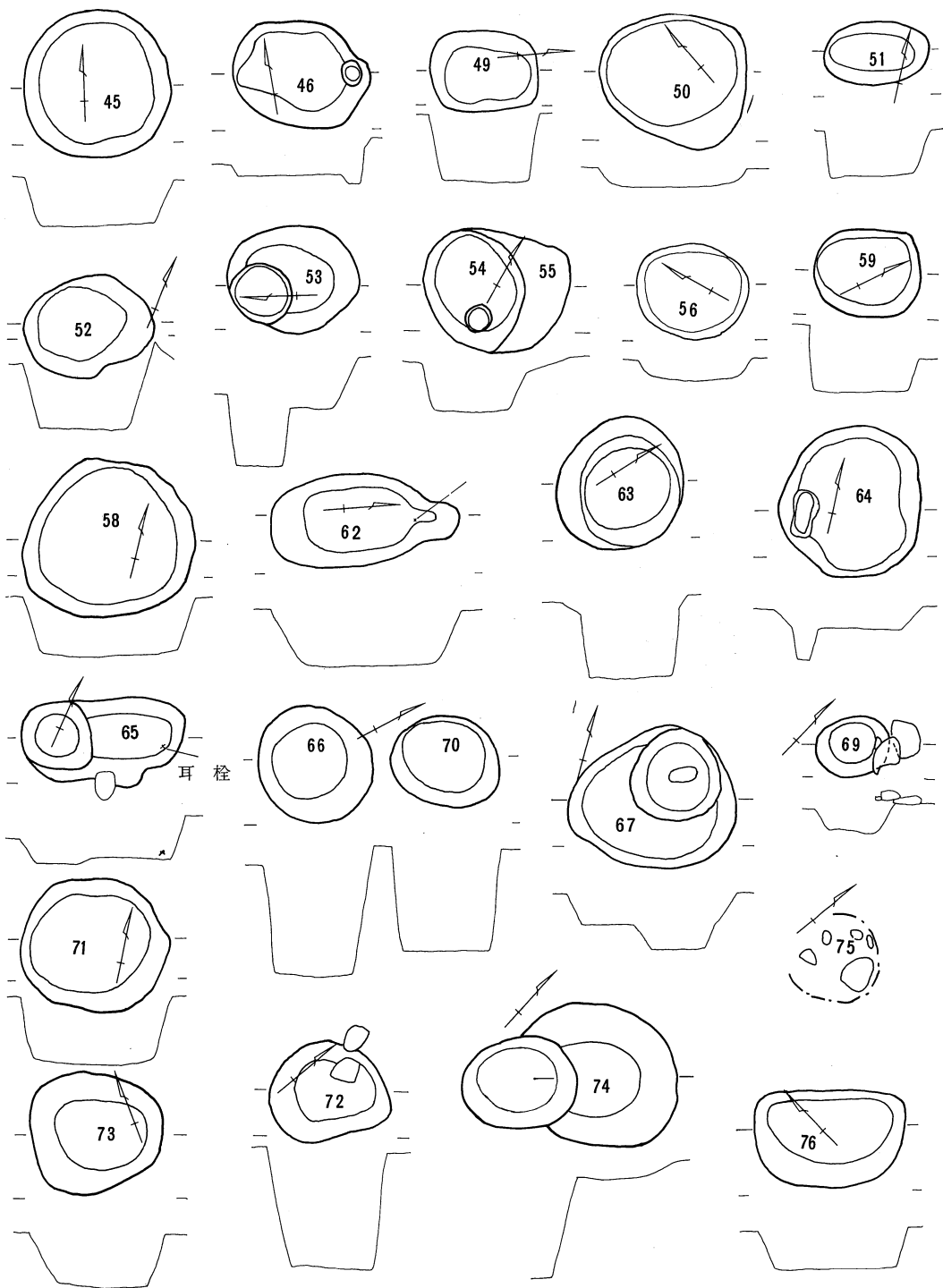
65号 西側がピットにより壊されており、62号同様張り出し部を伴うかは不明である。土壌の東端南壁ぎわの床面よりやや浮いて耳栓（第121図-9）が出土している。残念ながら半分しかないが、いわゆる滑車状のもので、明らかに抉入部を持っている。耳栓としては珍しい例であり、抉



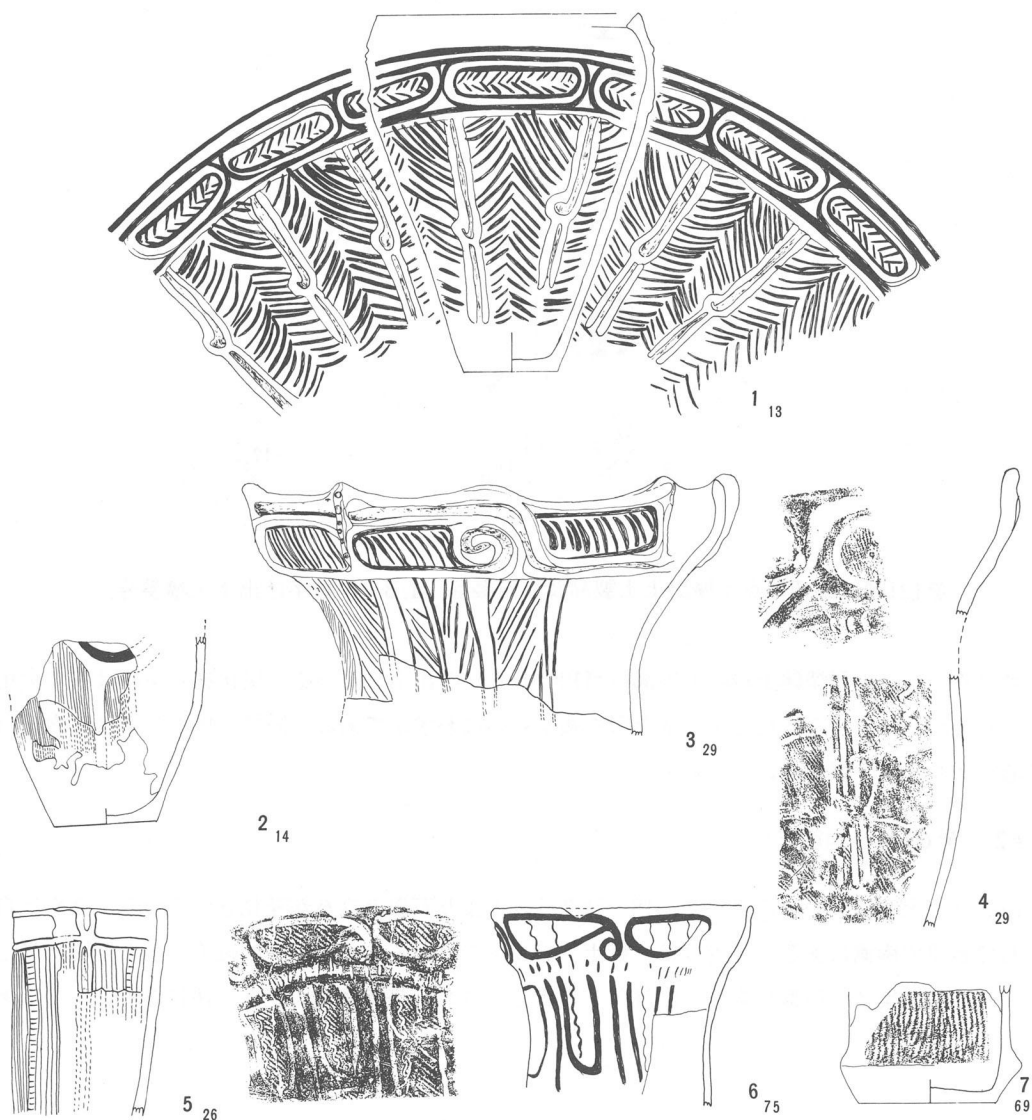
第117图 第VII地点土壤实测图 (S=1/60)



第118图 第七地点土壤实测图 (S=1/60)



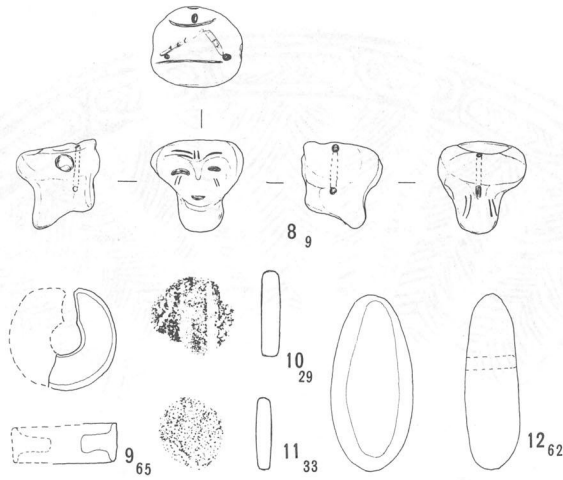
第119图 第VII地点土壤实测图 (S=1/60)



第120図 第七地点土壙出土土器（1/6、小数字は出土土壙番号）

状耳飾りを模した土製挾状耳飾りである。挾状耳飾りは前期に盛行することが知られているが、中期にはみられないものである。伴出土器は中期中葉と後葉のものであり、今後出土例を待ちたい。

75号 本例は第20号住居址の南西壁ぎわにあり、住居址の覆土を掘り込んでいたためプラン、断面形などは確認できなかった。床面より15cmの所に円礫を五つ置いている。上部には炭化物が

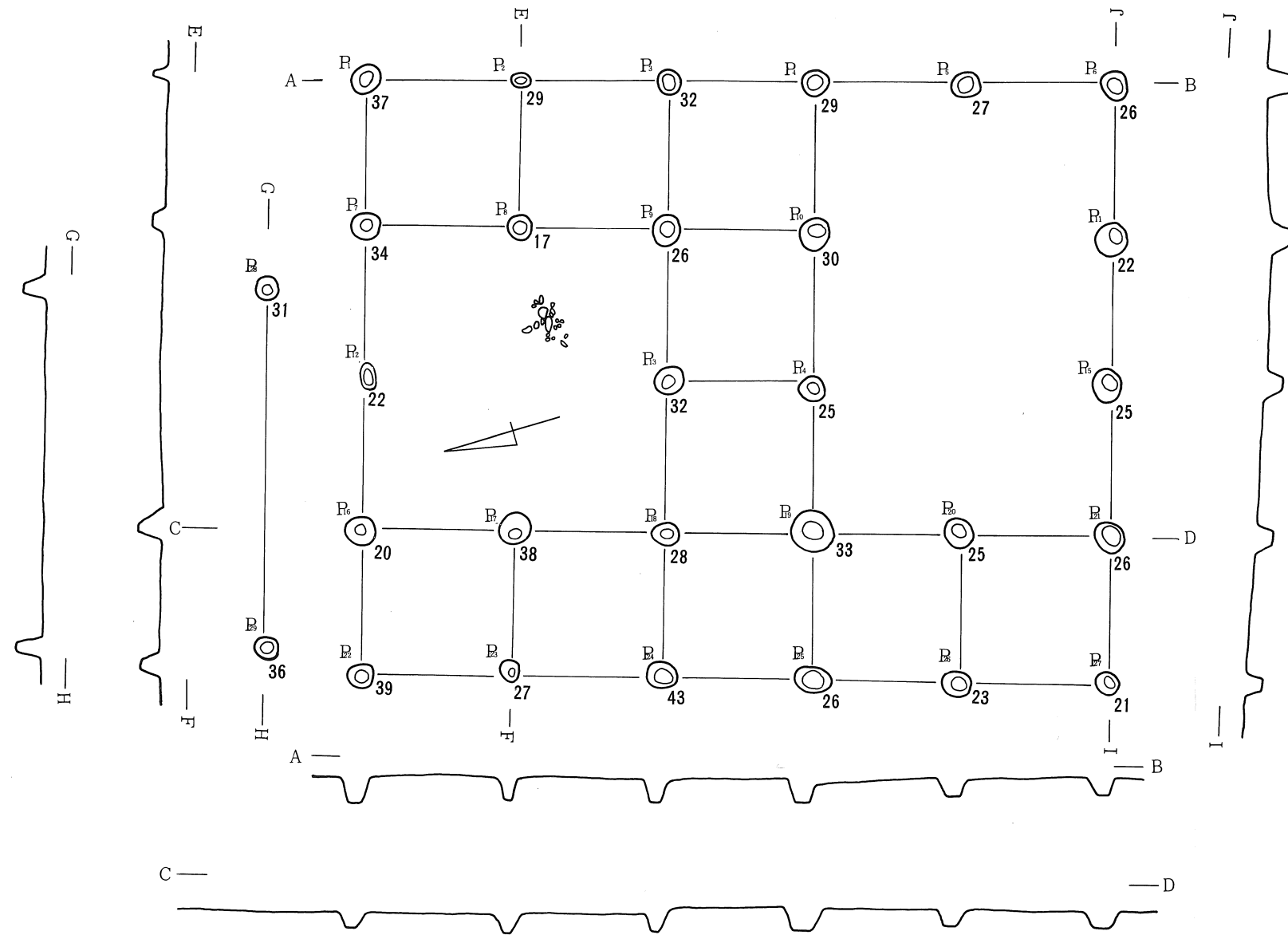


第121図 第VII地点土壙出土土製品及び石製品（1/3、小数字は出土土壙番号）

多量にみられ、小形深鉢土器の上半部（第120図-6）が出土している。炭化物の中には栗の炭化したものが多くさんみられたが完全な形を残すものはわずかである。同様な例としては市内原垣外遺跡より3例が報告されている。

42 その他（図版35）

住居址と土壙以外のものとして、18一はグリットより石皿と立石が発見されている。立石は自然石で石皿の南側にある。付近には、焼土、ピットなどはみられず、住居址や土壙の空白地帯となっていて、集落の内側にあり、広場として考えられる。集落構造の上から注目されるものである。



第122图 第七地点第1号建筑物址实测图 (S=1/80)

3 歴史時代の遺構と遺物

第Ⅶ地点においては、発掘した東西約50m、南地60m約3000平方mの範囲内に、古代、中世、近世の遺物が全面に散布状態で出土し、特に第Ⅲ層黒土層上面に、建物址を示す柱穴址約300基が、発掘区東北限を残して他の大部分に展開した状態で検出され、更に土壇5基、溝状遺構1条も検出された。以下、各項目によって述述したい。

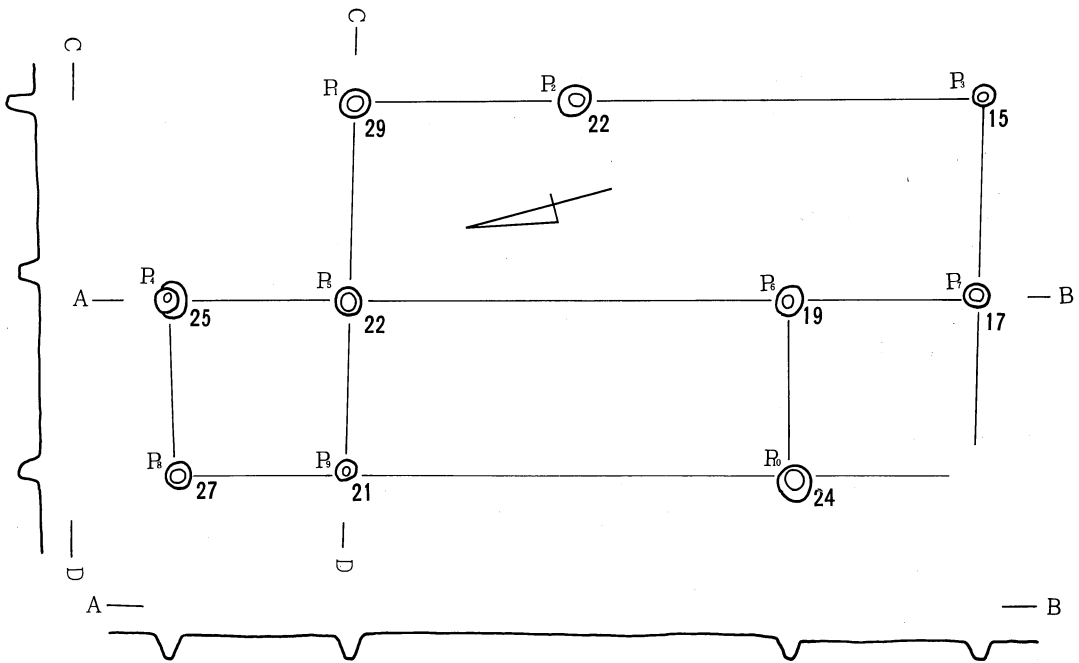
1) 建物址

① 第1号建物址 (第122図、図版36)

グリット (以下gと記す) 20—は、g19—ま。g23—ま。g24—はの範囲に亘る方形に近い掘立柱建物址である。桁行5間、10m。梁行4間、8mを測り、棟方向は南北(N-17°-E)を示す。桁側の柱間は190cmが3間、200cmが2間、梁側の柱間は200cmで4間柱穴の径は30cm内外、深さは26cm内外を測り、各柱とも、後述する他の建物址に比べ均一化し、その配置も整然としている。柱穴の配置状態で見られる特徴として、南東側隅のP₆-P₄-P₁₉-P₂₀を結ぶ長方形24m²の空間A、これに対応する北側のP₇-P₉-P₁₈-P₁₆を結ぶ方形16m²の空間Bが目立つ。空間Aは、柱間は2m規模で北側柱間より大きい。空間Bは中央に集礫群が一基あり、側柱P₇-P₉の北側にP₂₈、P₂₉の柱穴が4.8m間隔で東西方向に直列しており、玄関施設と考えられるものが伴っていることから入口の土間 (作業空間) と推定される。随って「妻入り」の入口が想定される。瓦は全く出土していないので、屋根は板葺きもしくは草葺きの切妻造りと考えられる。敷地内から、瀬戸鉄釉碗 (No.48)。西側一帯から瀬戸鉄釉碗 (No.84)、広東碗とよばれる灰釉染付皿 (NO202、217、224) 等々十七世紀代生産された陶器片が、出土している。また建物の柱間寸法が190cm、200cmが多用されており、190cmは宋尺のほぼ6尺に該当している。恐らく建物尺1間の単位として用いられたものと推定される。

以上のことから、十六世紀後半から十七世紀前半にわたる時期の造営になるものであり、前述の間取りの特徴からみて多人数の収容が考慮されており主殿もしくは、佛教的性格をもった建物と考えられる。

② 第2号建物址 (第123図、図版36) 第1号棟の敷地内に全く内包された小形の長屋形式の建物址である。桁行4間、8m、梁行2間4mを測り、桁側の柱間は190cm-230cm-190cm-200cm、梁側が柱間190cm、210cmと多様である。棟方向は南北(N-15°-E)を示す。東北隅および対角的位置にあるべき柱穴が不明であるが、50年前ケーブル中沢基地建設時であったため攪乱が部分的に行われていることが原因である。柱配置は、棟の南北線からみて2分される東側と西側の梁柱の間隔は30cmの差があり、東西の屋根幅に差をもった切妻造りと思われる。なお、東側の梁柱間が主体となる配置で210cmを測り、これは大宝令小尺の約7尺に該当することから、これが1間の単位に該当しようか。さすれば、190cmは6尺4寸、230cmは7尺8寸弱を算し、令小尺の単位が用いられたと考えられる。総体に、簡素な長屋形の切妻式の建物であって、仮屋または倉庫と



第123図 第VII地点第2号建物址実測図 (S=1/80)

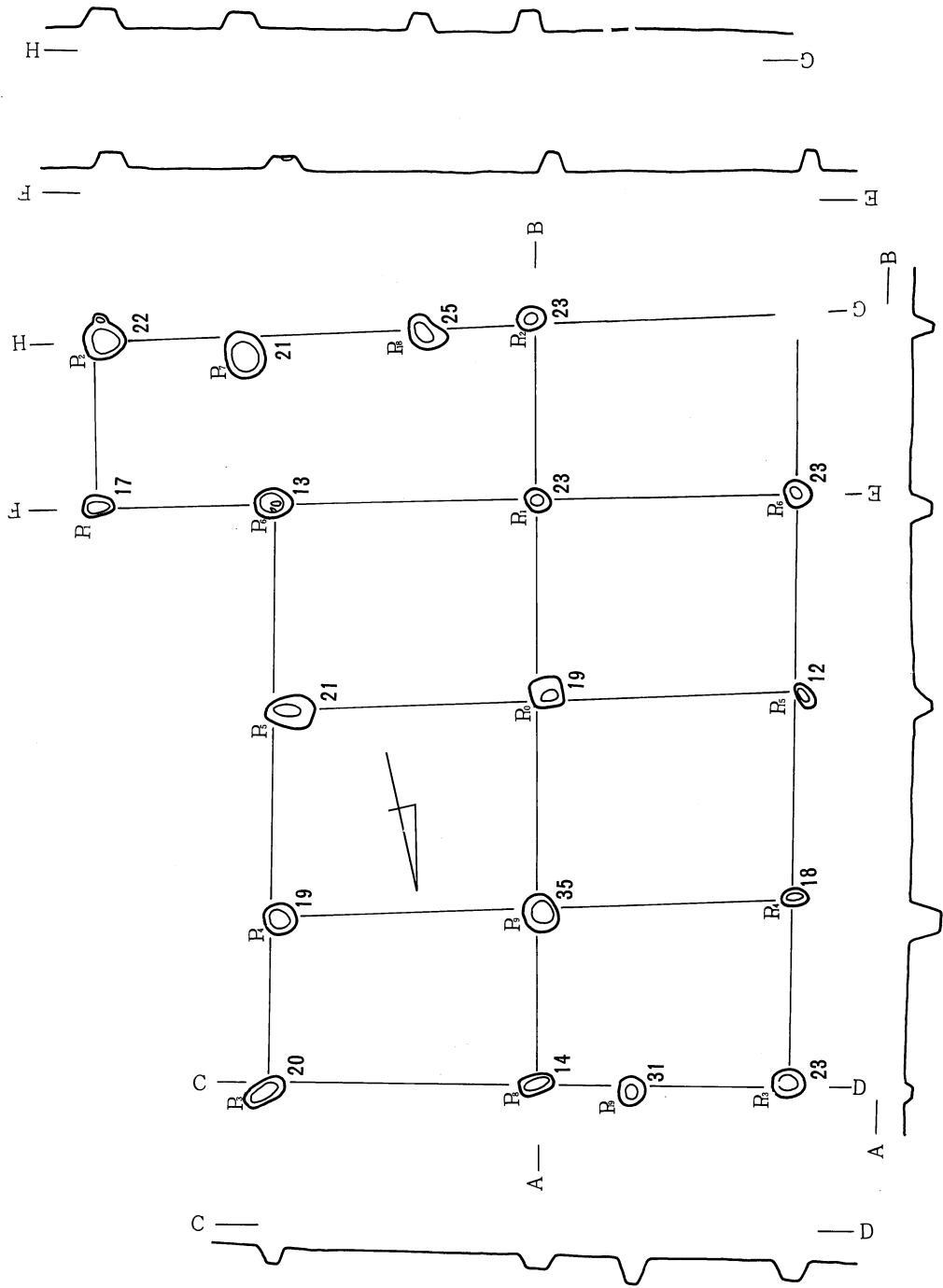
して架設されたものであろうか。土座形式の床が想定される。時期的には後述の第3号建物址と併設され、建物の西側付近から、表採された古瀬戸灰釉鉢等があり、十四世紀前半期と推定される。

③ 第3号建物址 (第124図 図版36)

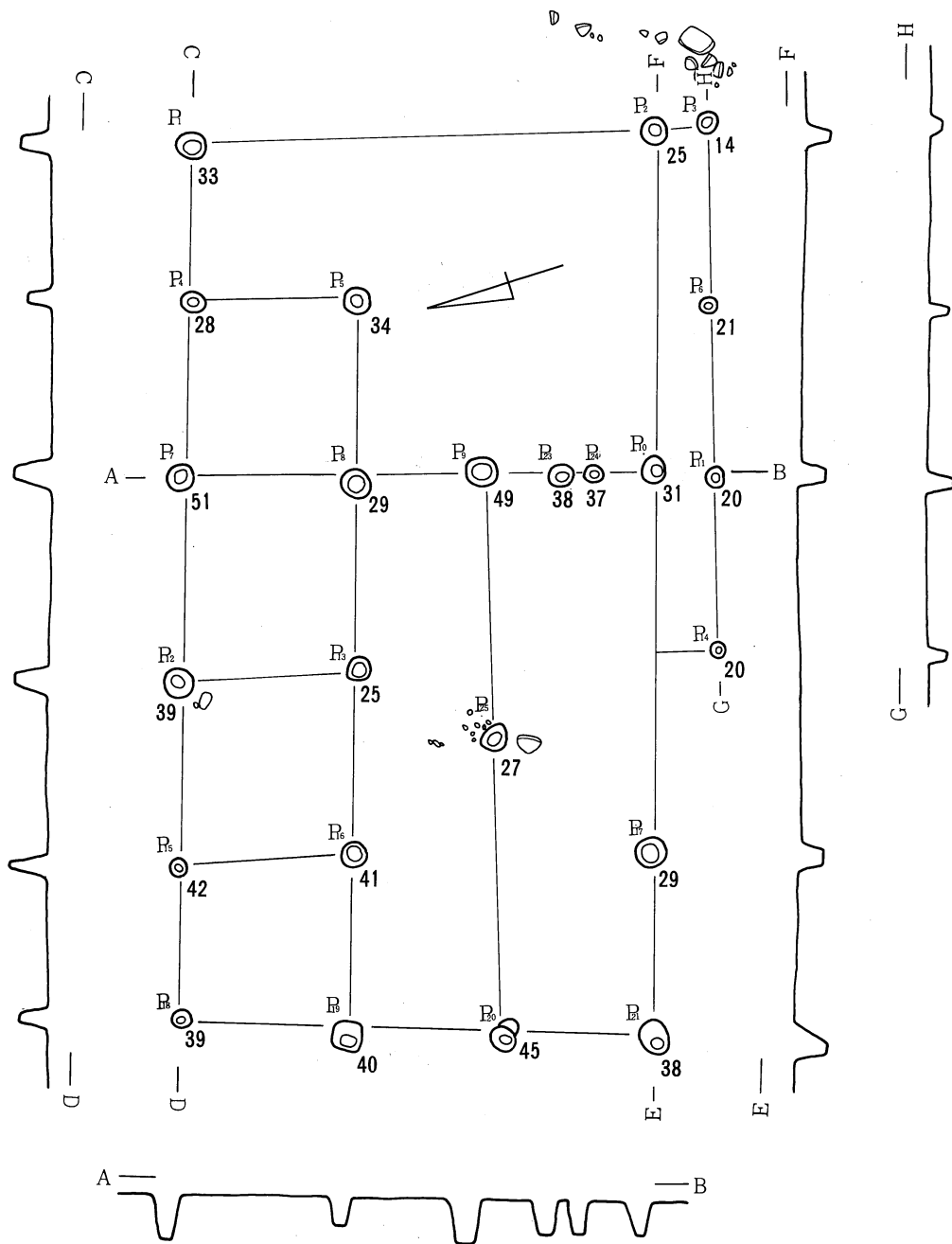
第1号および第2号の建物址に並行し、その東側に位置する柱穴列址である。桁行4間680cm、梁行2間6mを測り、桁側柱間は190cm—230cm—230cm—190cmで、梁側柱300cmを測る。ほぼ方形プランに近く、南東限に、P₁—P₂—P₇—P₈の柱間190cmの張り出し部が付設されているが、4間×2間の方形に近い規模を持つ南北方向の棟を持つ切妻形家屋と推定される。

但し、中央の棟側230cm梁側300cmの柱間で構成される4室と北側190cmの柱間は2間×3間の建物で、令小尺、10尺強、7尺強、6尺4寸が用いられ、中世も古い時期の造営と推定され、南側の桁行190cm柱間の張り出し部は付設と考えられる。

建物敷地の西側からg19—ひ第III層内から古瀬戸灰釉鉢底部、南東側から古瀬戸灰釉鉢(15—ふ)底部、東北側から古瀬戸灰釉卸皿(14—に)等が出土しており、十四世紀前半の掘立柱式の住居址と考えられ、西側に位置する第2号建物址と、3mの間隔で並行していること、同規模の第6号址や、東接する第8号竪穴式建物と同時的に存在した可能性が高い。



第124图 第七地点第3号建筑物址实测图 (S=1/80)



第125图 第VII地点第4号建物址实测图 (S=1/80)

④ 第4号建物址 (第125図 図版36)

第1号建物址の北側に、6m余の間隔をもった長方形プランを呈する掘立柱式建物址である。桁行は東西方向で5間980cm、梁行は3間530cm、柱間は桁側柱で西隅から190cm—210cm—210cm—210cm—170cm、梁側柱で190cm—170cm—170cmを測り、多様である。棟は東西方向で、二重梁の使用が推定され、棟通りの間仕切りをもつ切妻形の妻入り様式であろう。即ち東側のP₁—P₂—P₁₀—P₇の範囲の長方形空間20.14m²は入口の土間、棟直下のP₂₉—P₁₉、P₉—P₂₀の細長い空間13m²は土間で中心通路であり、北側棟通りの部分割3室後に1室拡張され、南側に幅180cm長さ6.2mの仕切りのないあげ床の室が想定される。

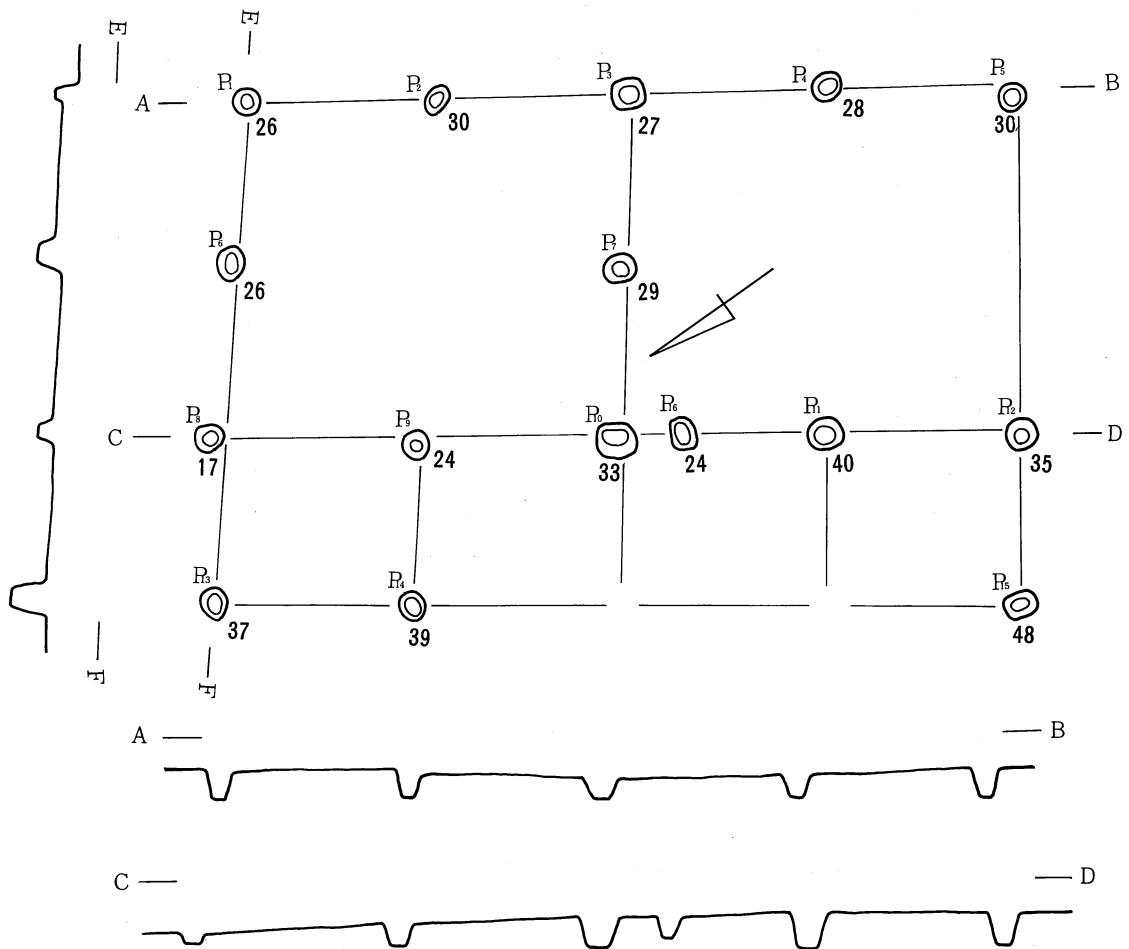
南側桁方向の外側の小柱列は幅70cm長さ570cmを測り、付設されて縁側の束柱と考えられる。南面する縁側である。柱間寸法には190cm、210cmが多く、190cm宋尺の6尺強であるから1間単位と思われる。さすれば210cmは6尺7寸強であり200cmは6尺4寸弱である。棟通りの間仕切りが目立つ点や、敷地内から古瀬戸灰釉針口縁部 (No.19)、古瀬戸灰釉碗 (No.150) 古瀬戸灰釉瓶子片を点用した器 (No.20) 等が出土していることからみて十五世紀後半の時期における東西棟の長屋形の切妻造りで「併列型」に近い間仕切りが注目される。位置、方向性からみて第1号建物址と関係が濃い

⑤ 第5号建物址 (第126図 図版36)

第5号址は、第4号址の北方約10mに位置する柱穴列群の中に検出された掘立柱式建物のひとつである。桁行4間850cm、梁行3間550cmを測り、桁柱5本、梁柱4本、径35cm深さ30cm内外で構成されるが、側柱3本、内部の柱2本が未検出で、計15本の柱穴で構成される。柱間は中央桁の北より210cm—210cm—210cm—200cm。北側梁は西より3間とも180cmを測る。梁柱間は、江戸時代の6尺に相当し梁柱間は同じく7尺に相当する。柱の配置は西端の桁柱列と入側柱列の構成する4間(各3.8m²)は間数仕切りと思われ、東端の桁柱列P₂₆—P₅、入側柱P₈—P₁₂の構成する長方形の空間(15.1m²)は中央梁柱で仕切られているが作業場の空間と考えられ、土間である可能性が高い。或いは仕切られた北側の空間は生活的機能を持つかも知れない。入口は南側妻入りと考えられる。いわゆる「併列型間敷切り」設計の施された南北棟N—38°—Eの切妻造の屋根をもつ農家の住宅と思われ、敷地内から、瀬戸灯明皿(No.234)美濃鉄釉鉢(No.87)同碗(No.179)瀬戸灯明皿(No.225)。同天目茶碗(No.64)等18世紀代の瀬戸焼美濃焼陶片が出土している。前述の建築方量や建物構造等に見られる特徴及び、これらの遺物出土状態からみて、十八世紀前期の農家の住宅として妥当性が認められる。

⑥ 第6号建物址 (第127図 図版36)

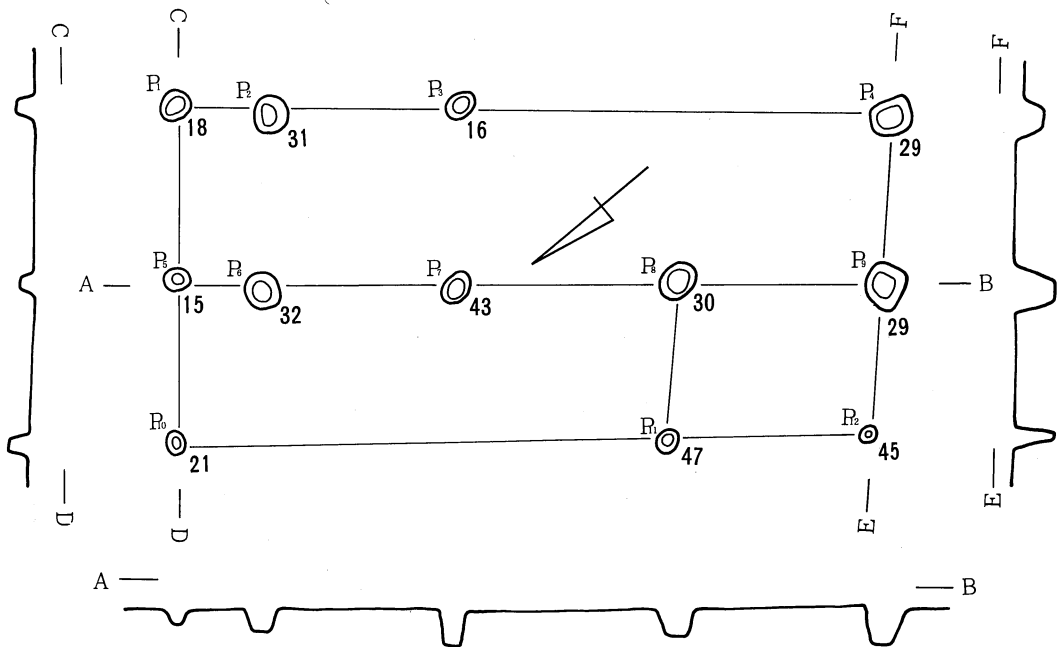
第5号建物址とほとんど切り合った形で検出された掘立柱柱列址である。桁行3間750cm、梁行2間350cmを測り、南北方向の棟(N—40°—E)を持つ長屋形の建物である。桁柱間は北から100cm—180cm—210cm—230cm—210cm、梁柱間は西から170cm—190cmを測り柱間は多様である。柱穴は15個の所、西側柱2本、東側柱1本が未検出で計12本分で構成される。柱穴の大きさは、



第126図 第VII地点第5号建物址実測図 (S=1/80)

平均で径35cm内外、深さ35cm内外を測る。北側梁柱間は100cmと狭いが妻側の底の柱の可能性が強くP₂—P₆の柱が桁北端であるかも知れない。さすれば桁行は6.5mとなる。

柱間の長さの基準は、多様であるが210cmが最も多く、令小尺7尺強でありこれが基準と思われる。中心部の桁柱間230cmは同じく7尺7寸となりこの点第2号建物址および第3号建物址と同じ基準が用いられており、しかも第2号建造物址とは全く同じ形式をもつ南北棟の長屋形式で梁柱間は二間で大小と分かれ、半片流れの切妻造屋根が想定できる点共通している。建物の外側北側から、古瀬戸天目茶碗口縁部 (No.49)。古瀬戸灰釉鉢 (No.50)、西側外側から古瀬戸灰釉鉢胴部破片 (No.31)、同灰釉平碗等十四世紀の陶片の出土が見られた。恐らく十四世紀前半期の建物で掘立柱式切妻造の長屋様式をもつ土座形式の簡素な建物で、仮屋の機能が推定される。



第127図 第VII地点第6号建物址実測図 (S=1/80)

⑦ 第7号建物址 (第128図 図版36)

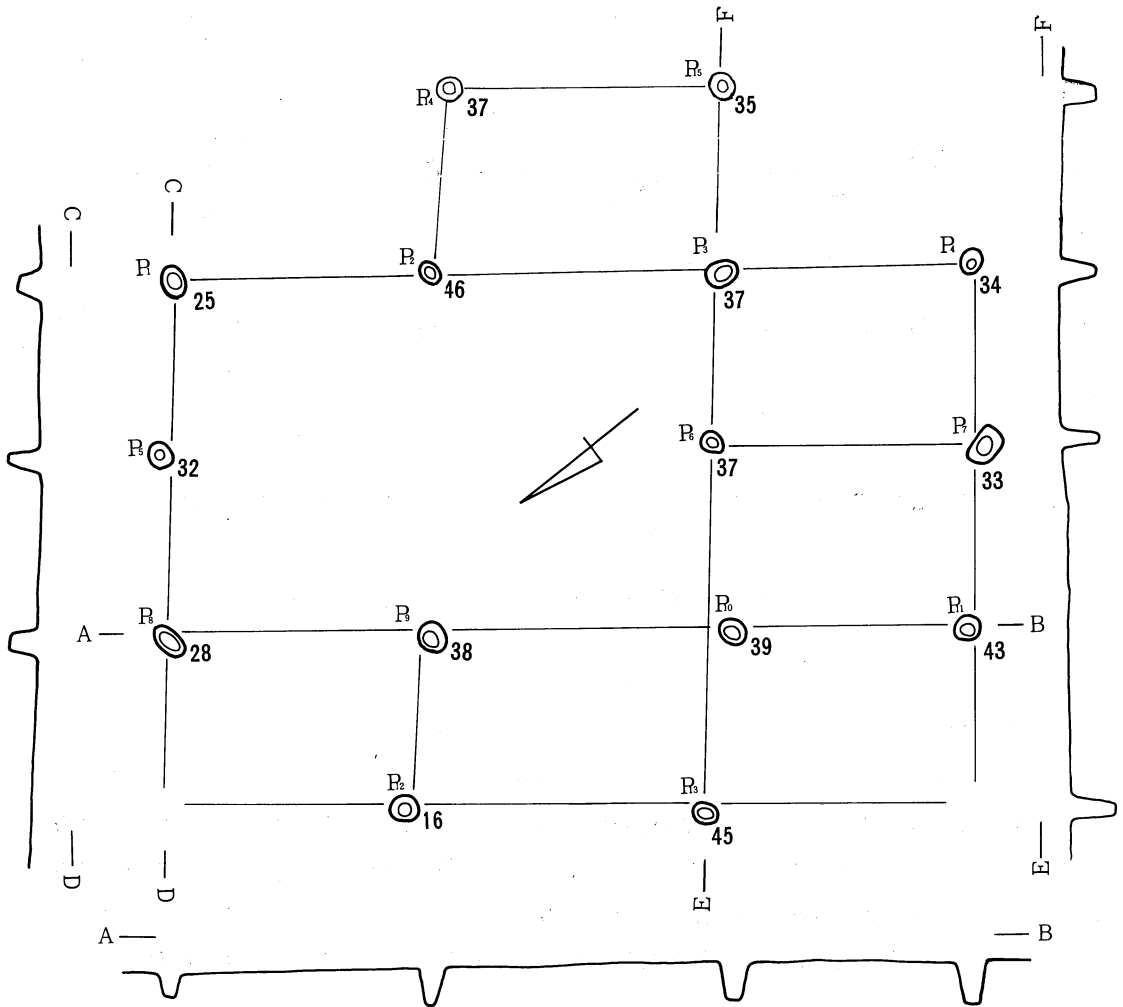
第7号址は発掘区最北端に位置し第5号建物址西側桁柱線と60cmの間隔で西側にほぼ並行もしくは半雁行する形で検出された掘立柱柱列址である。桁行3間、860cm。梁行3間570cmを測り柱間は桁柱北より280cm—300cm—280cm、梁柱は西から3間各190cmを測る。長方形プランで柱は16本のところ、西側の南端及び北端の柱は未検出である。これは、発掘区の境界外にあり、北及び西側の土手形成のために攪乱または欠失した部分である。また東側の入側柱1本が欠除している。

以上の平面形から南北棟(N-40°-E)の切妻造りの南面する住宅が想定される。棟は二重梁が使用されたものと考えられる。

柱間に使用された長さの主体は、桁間柱に統一使用されている280cmは宋尺の9尺弱、梁柱間の190cmは宋尺の6尺強で一間単位を示す。中心部の300cmは、江戸期の約10尺である。柱穴径は25cm—35cmで若干差が認められるが平均して約30cm。深さは30cm—50cmを示し平均で37cmを示す。

家屋内部に間仕切りが見られ、西側と南側に5.3m²の空間5が鍵形に並列する。東北部の方形22m²は作業場的な機能を持つ土間床で他は上床(オエ)に相当する。現在の古民家形式の「広間形」の祖形と思われる。

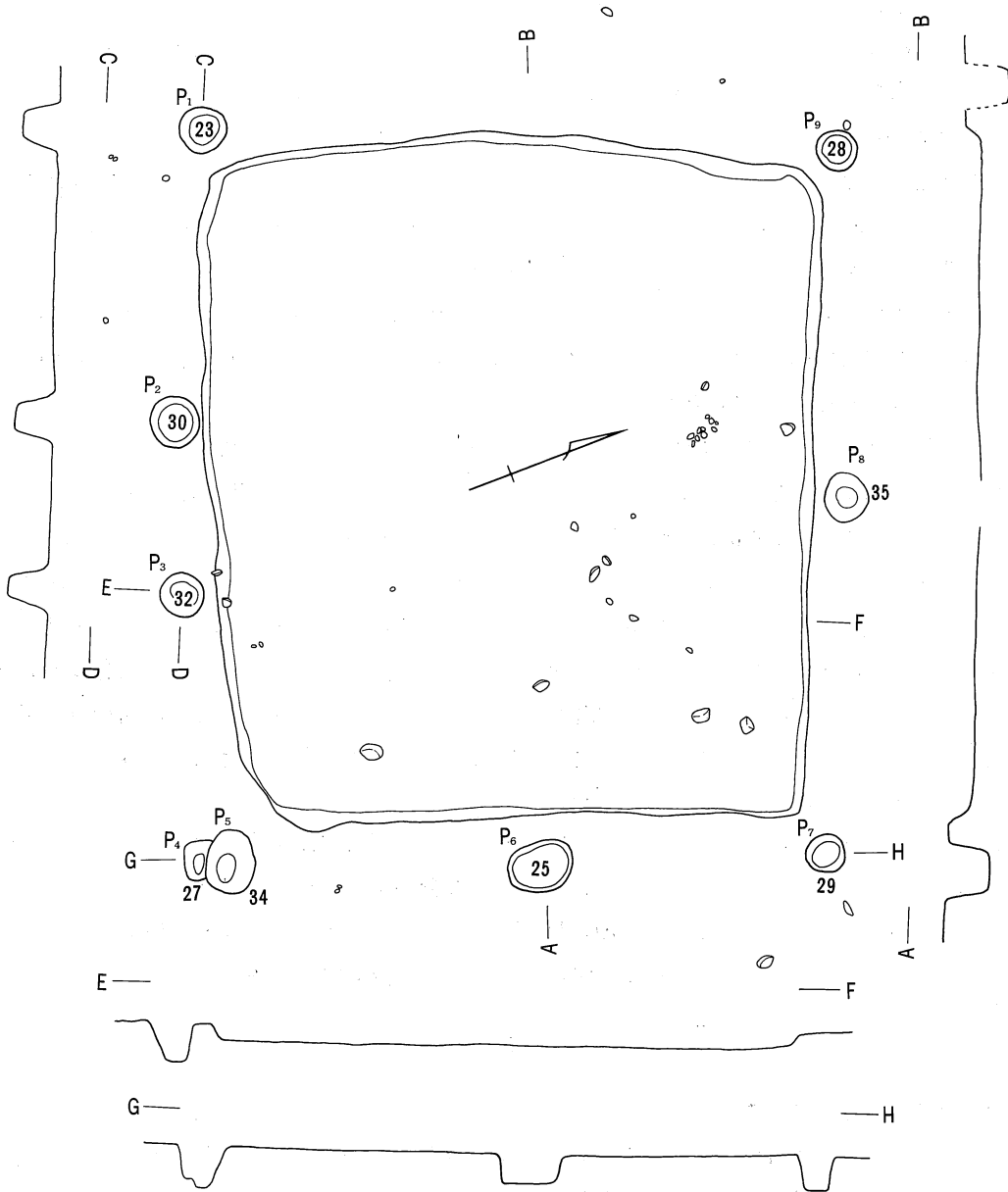
出土遺物は、数地内から、美濃鉄釉鉢(No.147)、同碗(No.124)。同壺等が出土し、北側瀬戸



第128図 第VII地点第7号建物址実測図 (S=1/80)

鉄釉碗 (No.50)、美濃鉄釉播鉢 (No.129)、同碗 (128)、等十七世紀後半及び十八世紀前半に至る陶片が混在していた。

なお附設の柱穴がある。P₂—P₃の東方に1.9mの間隔をもってつながる径25cm内外の柱穴2個が南北方向に300mの間隔をもってP₂ P₄と並行することから入口の庇施設が想定される。したがって全形からみて南北棟の入母屋造、茅葺の屋根をもつ平入り、で内部は広間形の木造家屋が想定できるのである。



第129图 第VII地点第8号建物址实测图 (S=1/60)

⑧ 第8号建物址 (第129図 図版36、37)

本址は、発掘当初「第6号竪穴址」と仮称されたが、中世に所属することから第8号建物址と改めた。位置はgr11.13—な.ねの範囲で、第3号建物址と5mの間隔をもつ。北側は溝状遺構が東西に走り、床面下層に縄文第10号住居址が検出された。

プランはほぼ方形で主軸はS—72°—Eを示す。大きさは南北500cm、東西520cmを測る。床面は北側が貼り床で、固くたたきしめられ良好である。壁は直に近く現高は10cmであった。

柱穴は $p_1 \cdot p_2 \cdot p_3 \cdot p_4 \cdot p_5 \cdot p_6 \cdot p_7 \cdot p_8 \cdot p_9$ が確認され、いずれも、周壁の外側50cmに配置され径は30cm前後であるが、 $p_6 \cdot p_5$ は50cm前後で他のものよりも大きい。深さもやはり30cm前後である。主柱穴は $p_1 \cdot p_2 \cdot p_5 \cdot p_6 \cdot p_7 \cdot p_8 \cdot p_9$ で p_4 は支柱、 p_3 は副柱、修理柱であろう。全形は北側桁で2間570cm西側桁で520cm、東西側2間、500cmを測る。

柱間は北側柱が各285cm、南側柱が240cm—250cm、西側は無柱だが250cmか。東側で240cm—260cmを測るが、250cmが基準となろう。250cmは律尺(唐小尺)のほぼ7尺に該当し、鎌倉期に盛行した単位で恐らく長さ1間を示すものであろう。

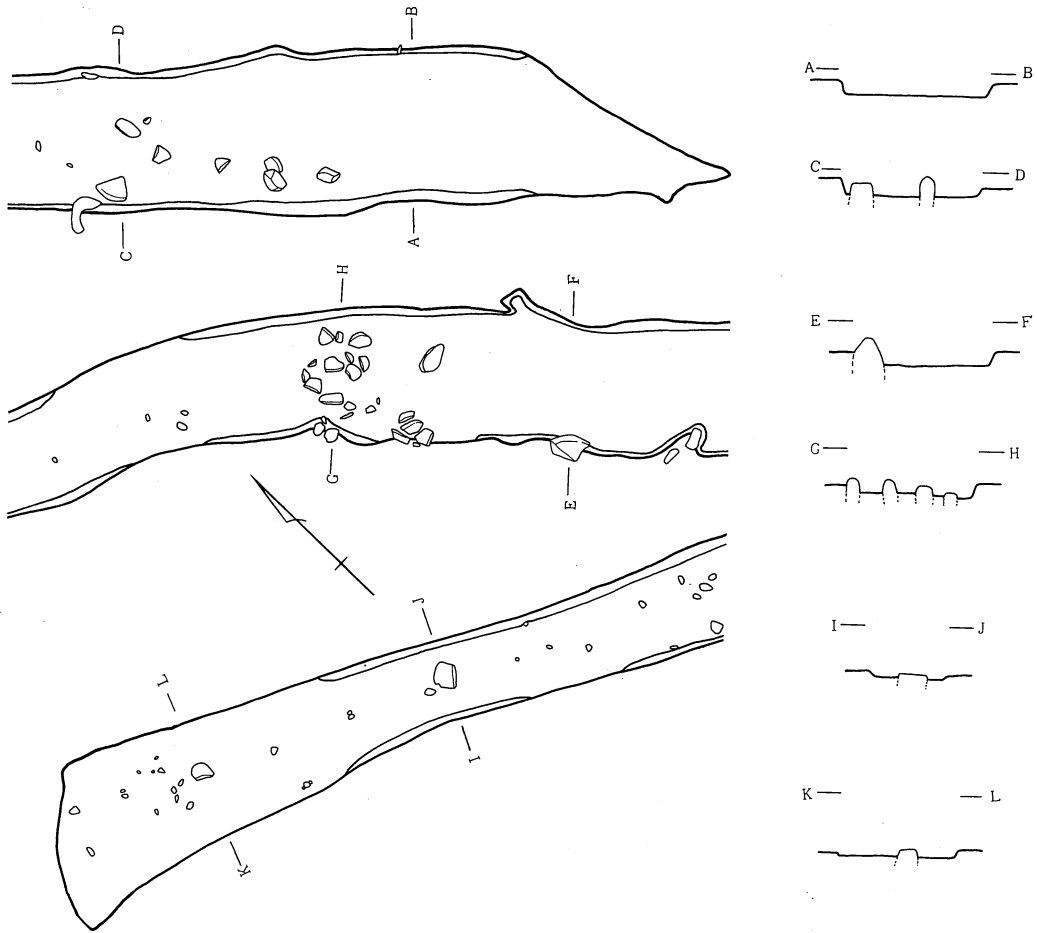
竪穴址内には炉址・土壙等遺構はなく、住居址内を仕切っていたとみられるものもない。生活した痕跡が全くないことから倉庫ではないかと推定される。入口は柱の間隔から $p_2 \cdot p_3$ の間と考えられる。また、床面の南西部に小礫が散在していた。出土した遺物からみると、竪穴内部出土のものは数少なく陶片3点である。まず山茶碗口縁部破片(第132図2. No.3)であるが、13世紀前半期の三河瀬戸一带の製品と見られる。東壁隅床面上から出土した。また同図No.5の古瀬戸灰釉卸皿が北壁近くの床面上から出土した。14世紀代の瀬戸窯産である。床面近くの第III層覆土中から瀬戸天目茶碗底部(同図10. No.40)が出土した。16世紀代の製品である。また同図19の灰細灯明皿が覆土中から出土した。19世紀代の製品である。数少ない遺物で時期も異なるが山茶碗を伝世品と見れば古瀬戸灰細卸皿の時期14世紀が妥当である。

また建物址の構造を前述した柱穴及竪穴の法量からみると鎌倉期に盛行した寸法が用いられたものと認めることができることや、加えて、位置が第3号建物址に東接しており、南側の主柱 P_2 と P_3 は入口の施設と考えられ、南面する東西棟の寄棟屋根を想定されることなど、西面する第3号建物を主屋とし、これに付設された倉庫の機能をもつ竪穴式建物で第3号建物址と同時期即ち14世紀代を示していると考えられる。

⑨ 他の柱列址について

以上、掘立柱式柱列群の中で、建造様式の分明した建物址7軒と竪穴式建物1軒について詳述したが、これ以外の柱列址群が数多く存在する。即ち第1号址、第4号址の西側一带に23穴、第4号址北側に23穴、第3号址の北部から東部にかけて21穴、第5、第6号址の南東から西部の近くに21穴、等認められたが前述のように本地点がケーブル施設の櫓建設工事が昭和初年に行われ、その後、開田工事もあって浅いながら地表の削平等もありそのための攪乱部も認められ柱穴の検出も完全になし得ないうらみがあり柱穴址の配置の検討に若干の支障を来し構造化不能のものが多い。したがって、未確定の掘立柱建物址4~5棟分が存在したと見る事ができる。発掘区内

からは瓦等は全く一点も出土せず、礎石も認められない。ただし、第3号建物址の東部および南部に自然石平石（約径70cm厚さ25cm内外）が約11個散在したり、集中していたが、全く配置の規則性は認められず、恐らく畑耕作によって移動されたものと思われる。当初の配置は恐らく礎石として機能していたものと推定される。発掘区出土の陶片は十三世紀代から十八世紀代にわたっており、恐らく前述の各建物と同時代の建物が存在すると推定されるのである。（林 茂樹）



第130図 第七地点溝状遺構実測図 (S=1/60)

2) 溝状遺構 (第130図 図版36)

本遺構はグリット12一ぬより、第6号住居址の北側を通り、第2号土壇までつづいている。第8号建物址の北側で「く」字に若干南に曲り、全長は15.7m、最大幅1.2m、最小幅0.65mを測る。また深さは15cmである。

溝の中には所々に人頭大の石が点在し、特に中央部に集中していた。

遺物は縄文土器の小片、陶器の細片が検出されただけであった。いずれも摩耗した小片、細片であり、本遺構の時期を確定するまでには至らなかった。

但し本遺構の構造からみて前項の掘立柱式建物址群の間に切りこまれており、更に北側部分には水田造成により欠失し、中世陶片のみを出土し、建物址の存在が推察された500m²の部分があり、この中世—近世集落址の分布の東西中軸線の途中まで設定され末端部に土壇2号址・3号址・4号址が設けられていること、またこの下層に縄文期住居址第2・9・11号址が存在したこと、若干ながら、中世陶片を伴っていたことなどからみて、これを中世の建物址への導水溝と推定することができる。自然湧水の全くない高燥な台地という状況証拠を加えての推定である。

(酒井 建次)

3) 土壇 (第131図 図版38)

遺物が内部よりまったく伴わないが、覆土の状態が縄文時代の土壇と明らかに相違をみせ、III層黒色土が充満している所から5基を歴史時代の土壇とした。

2号・3号・4号土壇は溝状遺構の西はし、1~4号建物址と8号建物址の中心的位置にある。5・6号土壇は5~7号建物址西側にありやはり建物址の中心的位置にある。5・6号土壇は縄文時代の住居址の覆土を掘り込んでつくっている。

形態的には2~4号は長楕円状を5・6号は矩形を呈している。

伴出遺物がないためはっきりとしたことはいえないが、位置・形態からみると2~4号土壇は1~4号・8号建物址に、5・6号は5~7号建物址に付属すると考えるのが妥当であろう。

以下各土壇の概略を記す。

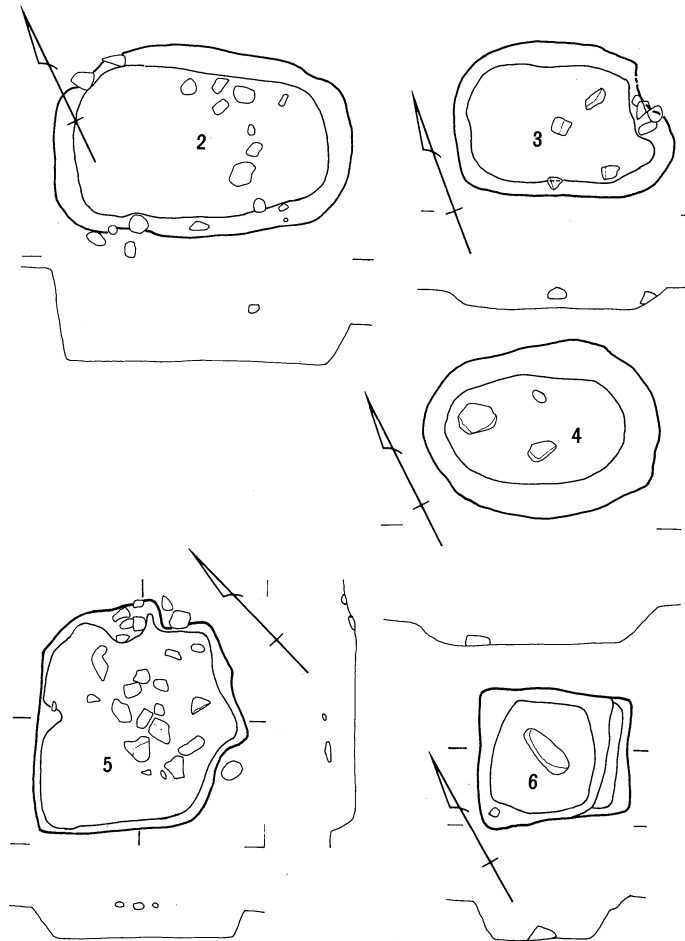
2号土壇 240×150cmの長楕円形でタライ状を呈す。覆土上部に礫がみられる。

3号土壇 175×120cmの不整楕円形で皿状。覆土中に礫混入する。

4号土壇 190×140cmの楕円形で皿状。底に自然石3個あり。

5号土壇 180×150cmの方形で鉢状。覆土上部に礫多量にある。

6号土壇 100×100cmの方形で鉢状。底に大きな自然石1つある。

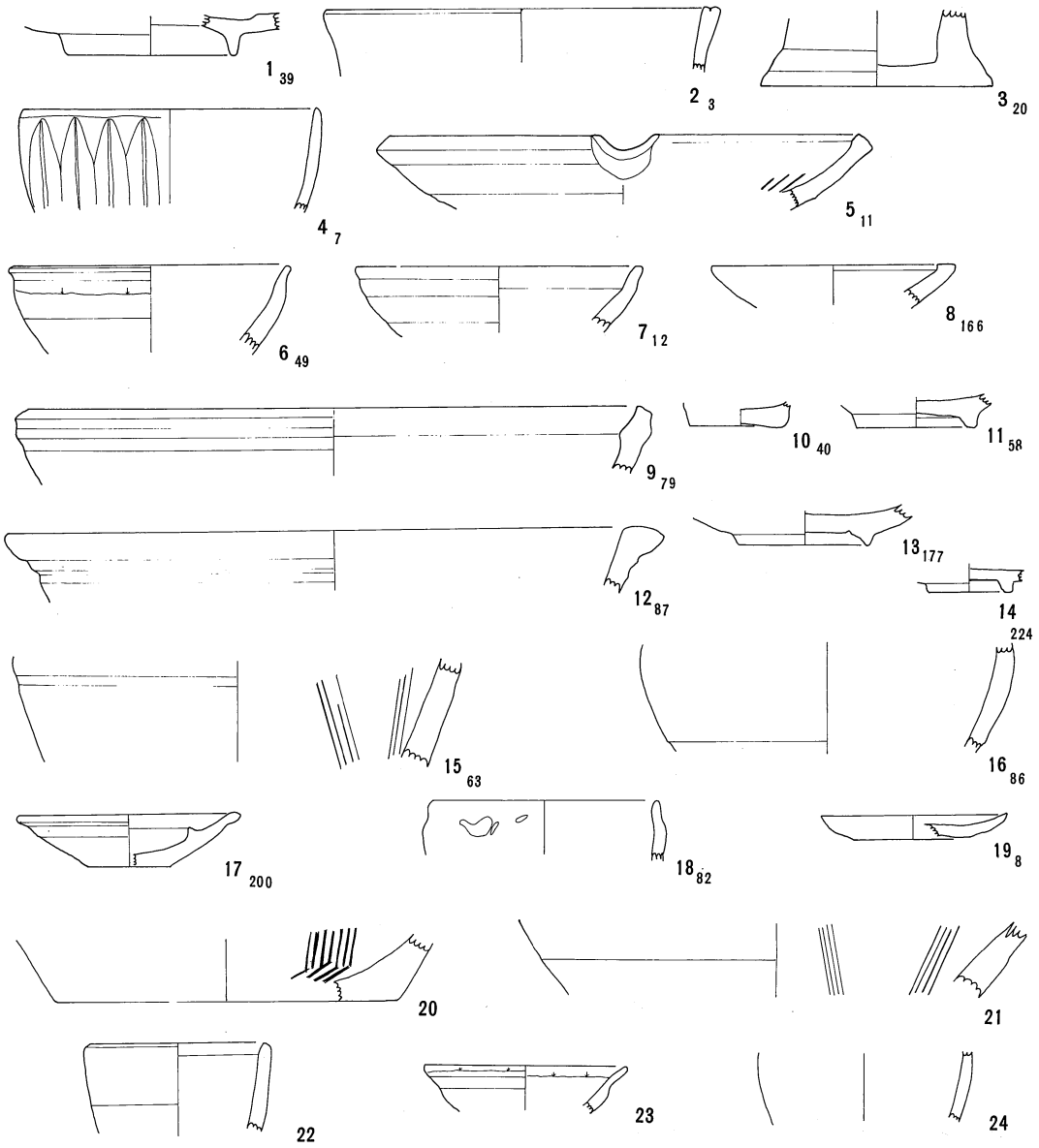


第131図 第VII地点歴史時代土壙実測図 (S=1/60)

4) 遺物 (第132、133図 巻頭図版)

陶磁器 (第132図 巻頭図版)

陶器片は、現代陶磁器片を除いては総数216片が出土した。出土は発掘区全面にわたって散布していたがその密度の濃い地点は、前述した掘立柱柱列址とその周辺および西端部 (50m×10m) 一帯である。西端部に多かったのは、過去における開田工事の折、北西にやや傾斜する原地形を若干削平し東端部付近の第III層黒土層の当時の地表部の土を西端部へ運び、水田基盤を造成したものである。陶片の主要包含層は第III層上半部であるが、水田基盤の第II層内に包含されているものもあった。



第132图 出土陶磁器实测图 (1/3)

陶片類の総数は、216片を数えたがすべて細片であって全形を復元し得るものは皆無である。

時期別分類すれば(A)古代および中世陶器が37片。(B)近世陶器が179片で2:8の比率を示す。(A)においては、平安時代、須恵。土師器片5点、灰釉陶器4点計9点。中世に属するものでは前期4点、中期19点、後期6点、計29点で中期が多い。近世に属するものでは、17世紀代16片、18世紀代163片で18世紀代が8割を占める。そのごく1部を第132図に示し若干の説明を加える。

第132図1。灰釉陶器の段皿底部である。高台径7cm、高さ8mm、その断面は、逆U字形、胎土は灰白色でやや黒みをおびる。底部内外は無釉、他は全面、内外ともやや淡緑色の灰釉が施されている。光ヶ丘第1号窯製品で、碗3点が共伴している。11世紀前半期に属する。

2. 山茶碗こね鉢口辺部破片で他に碗破片2点を共伴した。胎土は灰白色で堅致な焼成で表面にロクロ痕が認められ調整は良好である。口縁部でやや外反し、わずかに膨む口縁は二重口縁で、口唇部に1条の沈線が構造する。口径16.4cm、器壁5mmを測る。13世紀の製品である。

3. 古瀬戸灰釉瓶子の底部断片である。底径9.5mm、底器壁7mm、胴器壁10mmを測り、全形は高さ31cm、肩、胴部最大幅22cmが推定される。外面は底の胴部立ち上り全面に緑黄色の灰釉が施され数条の流れが厚く認められ底部は外、内面とも施釉される。胴立ち上り高さ3cmで切断され、断口面は磨研されている。恐らく再利用されたものであろうが用途不明である。

4. 青磁碗の口辺部破片である。他に微片2点がある。器壁の厚さ4mmの口縁、僅か内湾し、口径100mmを測る。表面は口唇下部から幅12mmの剣先状蓮弁文を並列した彫塑施文がありその上に淡緑青色釉が厚さ1mmで施され、砧青磁様の美しい色調をもつ竜泉窯系の製品である。

5. 古瀬戸灰釉卸皿である。口径19.0cmを測り口唇の1部に内径2cm長さ2cmの注ぎ口が付けられている。黄灰色が底部の卸し目ぎわまで施されている。14世紀代の製品で、同類品の鉢、碗破片等が8点出土し、中に底部内面に鉄釉を施したもの、無釉底部が糸切底のものがある。

6. 古瀬戸天目茶碗の上部断片である。口径68mm器厚6mmを測るが口唇下部で4mmなどに薄くなる。口唇下部まで褐色鉄釉が施されその胴部は黒色釉がかけられている。15世紀産である。

7. 古瀬戸灰釉の平碗口縁部破片である。口径12cmで外面にロクロ痕があり淡緑釉である。

8. 古瀬戸灰釉の卸皿口縁部破片で淡緑色釉が外面および内面卸し目際まで施される。全体に細かな貫入が認められる。口径10cmを測る。7と共に15世紀の製品で同類5点が出土した。

9. 古瀬戸鉄釉の鉢で、口縁下部が厚くなり内面に鏝状帯がつけられている。胎土は密な白色を呈し、内外面ともに厚い鉄釉が施され鬼板状を呈する。口径25.3cm。大窯焼成で美濃窯製品。

10. 瀬戸天目茶碗の底部のみである。底径38mmを測る削り高台で底面にロクロ痕がへらで削磨されている。薄く鉄釉が施される。内面底部は天目釉が厚さ1mmほど施され黒色と褐色を呈す。瀬戸系の大窯焼成によるもので、9と共に16世紀半ばと思われる。同時代製品の瀬戸灰釉碗2点、天目茶碗1点が出土したが大部分大窯製である。

11. 瀬戸鉄釉碗の底部で、底径48mmでロクロによる削り高台がある。外面は施釉なく内面に黒色、褐色を呈する天目釉が施される。17世紀代の美濃窯製品であろうか。

12. 美濃鉄釉鉢で口径17cmを測る大形品である。口唇部外折して厚く外面にロクロ整形痕を残す。内外面ともに厚い鉄釉を施し暗褐色の鬼板状釉面を整えている。18世紀代の製品。

13. 瀬戸灰釉の碗底部のみの断品で底形5cmの削り高台で削り痕が深い。外面は高台外周まで深緑色の貫入の多い施釉があり、内面は全面施釉されるが貫入が目立つ。17世紀瀬戸窯製品。

14. 染付筒形碗磁器の底部のみ。径3.5cmの削り高台に径7cm内外の平底が整えられている。器壁3mmを測り薄い器体全面に淡灰青色の釉が施され底部中央に7弁の丸い花紋、高台周辺に二重輪が染付される。同類2点がある。「カントンワン」と呼ばれる華南地方産で17世紀代の製品である。

15. 美濃鉄釉播鉢で口唇部を欠く胴部断片で口径18cm内外を測る。器厚10mmで全体に薄く鉄釉が施され外面の口縁下部に幅6mmの浅い沈線をめぐらす。播り目上に施釉される。18世紀代。

16. 瀬戸鉄釉鉢の胴部破片で口径15cmを測る。器壁6mmとやや厚く高台外周まで厚い褐色鉄釉が全面に施される。17世紀代の瀬戸窯産で同類の碗が10点出土した。

17. 瀬戸灰釉灯明皿の破片で底部が有段となり、外面を除き内面全面に灰色釉が施される。外面に煤が著しく付着している。同類同形品が7点出土している。18世紀後半の製品。

18. 美濃鉄釉茶碗の口縁部断片だけ黒色天目釉が全面に施されその上に白釉が点滴状に施される。器面の凹凸が著しく俗に「げんこつぢゃわん」と呼ばれるもので19世紀半ばの美濃窯製。

19. 瀬戸灰釉灯明皿の半欠品で口径7.5cmの小皿形である。内部全面に灰釉が施され外縁まで施釉される。底部に炭化物が付着している。17世紀瀬戸窯製品であろうか。

○図版スペースの関係上、第七地点以外の地点から出土した陶磁片を掲載したので説明したい。

20. 鉄釉播鉢の底部破片で第六地点のg36一す第三層から出土した。底径14cmを測り、内部の播り目沈線の間隔は密接し、底部にロクロ削り痕を残し胎土は灰白色を呈す。器の内外全面に薄く鉄釉を施す。18世紀美濃窯産で、湧水地点の周辺にあり、南側崖上に第5号建物址があり関係が深い。

21. 古瀬戸鉄釉播鉢の胴部破片で暗褐色の鉄釉が全面に施され、内部の播り目は4条1単位で上部で4cm間隔で施される。この楕目幅は10mmを測る。17世紀美濃窯製と思われる。東原gr43一せ出土

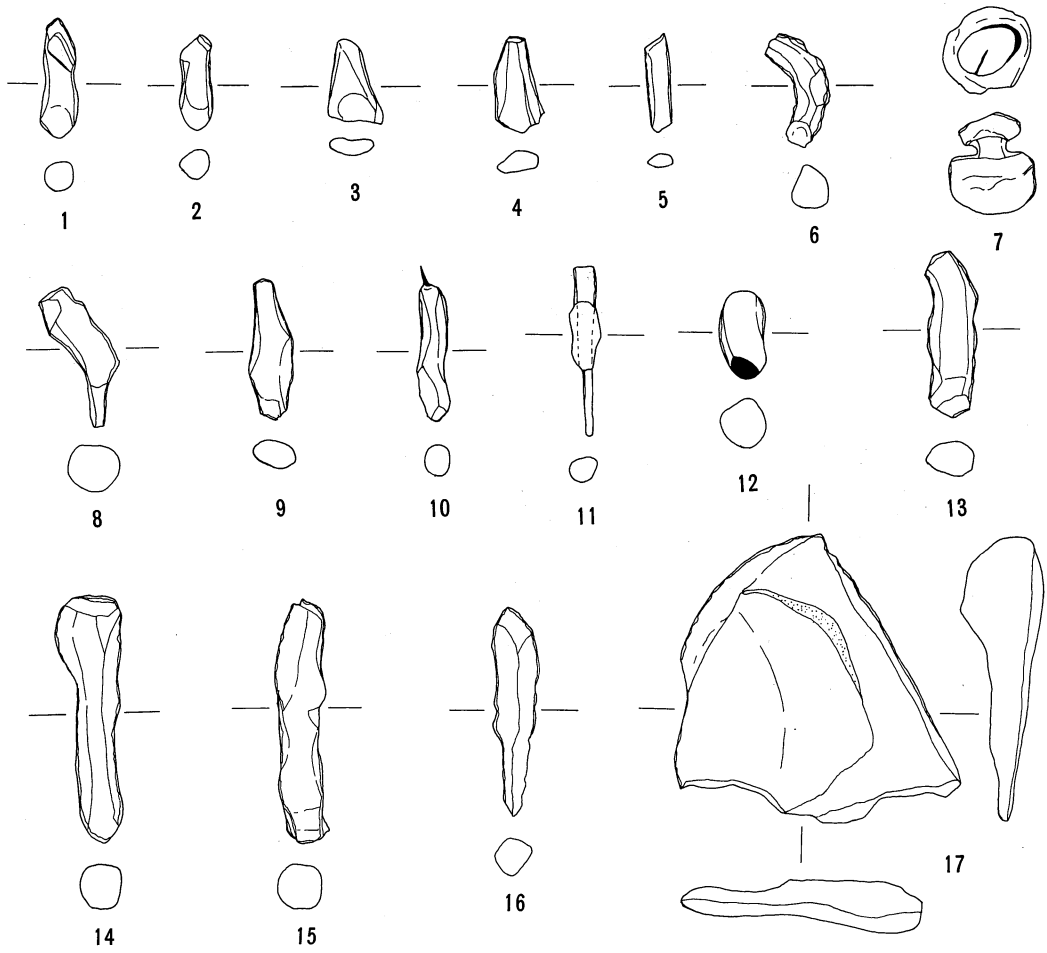
22. 古瀬戸鉄釉香炉の口縁部破片で口径72mmを測り、胴部立ちあがり直立に近く、内部は施釉なく、外面全面に淡緑色の灰釉が施されている。口縁下部に一条の細沈線が横走する。15世紀製品。

23. 古瀬戸緑釉皿の口縁部破片である。口径7cmを測り胎土灰黒色で口唇部の内外面に緑色灰釉が施されるのみである。ロクロ整形痕が顕著である。15世紀製品で東原地点gr40一とより出土。

24. 古瀬戸鉄釉茶碗の胴部破片で器厚5mmで口縁部に向ってやや内湾する。胴部径88mmを測る。薄い鉄釉が内外面ともに施されている。15世紀代の瀬戸窯産で、22、23と共に東原地点gr22一かから出土。

この実測図以外にある逸品の二三について付記しておく

巻頭図版上段左端。口縁部破片(No.182)白磁碗第Ⅱ類に属するもので器壁3mmを薄く淡緑色の明るい釉が全面に施されている優美な器面である。口縁部はやや内湾ぎみで口唇は膨みいわず「玉ぶち」が整えられている。当地域では初出の逸品である。



第133图 第七地点出土金属製品実測图 (1/2)

また、18世紀後半の瀬戸窯産でいわゆる「しぶかみで」の茶碗口縁破片（No.205）がある。泥褐色の鉄釉が灰黒色の胎土の上にかかりその上に白色釉が不規則に横走る。第Ⅶ地点出土である。

金属製品（第133図）

本地点から出土した金属製品は総計50点で鉄製品49点、青銅製品1点に分けられる。鉄製品のうち腐蝕が新しく現代製品と見られるもの19点を除外して残りは30点であった。その30点のうち、鉄滓が13点、鉄器17点と分類された。以下実測図（第133図）により述べる。

中世、近世の遺物と思われるこれらのものは、包含土層の第Ⅲ層黒色土層が酸性のためか、極めて腐蝕が進み、その形状の不明確なものが多く、原形の判別が困難であった。

1～2は細い棒状を生ずるが、断面が方形を呈し鉄鏃の茎断片であろうか。3、4、5は扁平で鉄板状を呈する。6は環の断片で直径4cm内外を呈し、馬具の繋ぎ環と思われる。7は、連結用の環であろう。やはり馬具の一部か。8、10、11、は原形は断面四角形と思われ、鏃の茎断片と推定される。9、16は小形鉄鏃のやじり本体であろう。13、14、15は原形断面が方形を呈し角釘の断片と推定される。17は底辺6cmの三角形状であるが底辺の部分は断裂しており、厚さ13mm内外の鉄板製品で、頂点部は厚さ20mmで1段と厚いがその機能は不明である。

鉄滓は大きなもので6cm×4cm×4cmを測り（重量52g）。小形のもので3.5cm×2cm×1.5cmを測り（重量18g）のものでその中間形が多い。色調に赤褐色を呈するものと黒褐色を呈するものとに分けられる。青銅製品は長径4cmのハート形を呈し極めて薄く縁が反り、矢立の蓋と思われるが時期不詳である。（林茂樹）

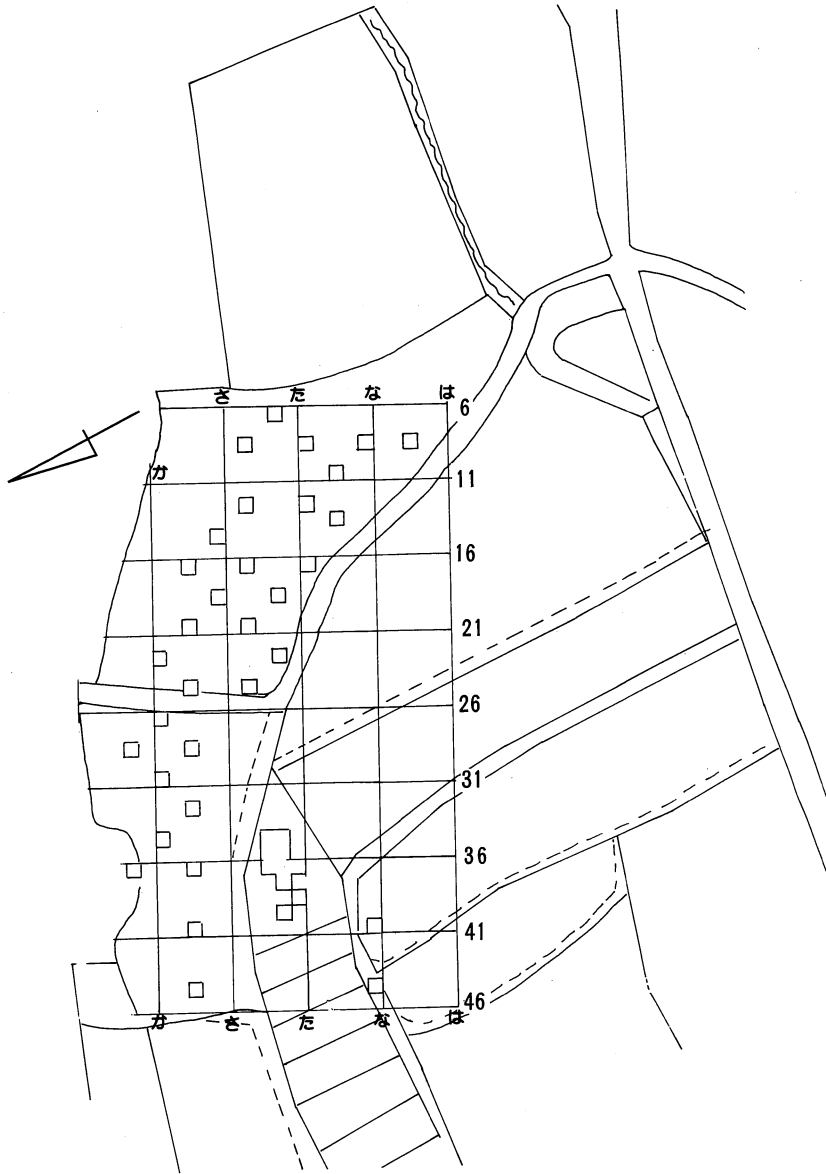
出土陶器一覧表

番号	出土場所	名称器形	部位	製作年代	挿図 番号	備考	番号	出土場所	名称器形	部位	製作年代	挿図 番号	備考
1	14-ぬIII	山茶碗	口縁	13C			44	19-ひIII	天目茶碗	胴	15C		
2	17-ほII	土師器環	胴	9C			45	19-たII	鉄釉碗	底	17C		
3	19-ちII	山茶碗	口縁	13C			46	21-しIII	鉄釉碗	底	17C		
4	29-ぬ	須恵器環	胴	11C		糸切底	47	22-そII	天目蓋	口縁	18C		
5	29-にII	灰釉碗	口縁	12C		光ヶ丘1号 窯式	48	22-ふIII	鉄釉碗	胴	17C		
6	29-ぬ-II	須恵器甕	胴	9C		線状叩文	49	23-しIII	天目茶碗	口縁	15C	6	
7	27-に-III	青磁	口縁	13C	4		50	28-さII	鉄釉碗	口縁	17C		
8	8号建物址	灯明皿	1/3個体	18C	19		51	27-ちIII	天目茶碗	胴	18C		
9	10-にIII	灰釉折縁皿	口縁	16C		大窯	52	27-はII	天目茶碗	胴	18C		
10	14-てII	灰釉鉢	口縁	15C初			53	28-ひII	鉄釉碗	底	17C		
11	14-にIII	おろし皿	口縁	14C	5		54	28-つII	天目茶碗	口縁	18C		
12	16-すII	灰釉平碗	口縁	15C	7		55	29-ねIII	天目茶碗	底	16C		大窯
13	18-しIII	灰釉鉢	底	14C		古瀬戸中期 様式	56	29-ぬII	天目茶碗	胴	18C		
14	19-のIII	壺	底	18C			57	29-にII	天目茶碗	胴	18C		
15	19-ひIII	灰釉鉢	底	14C		古瀬戸中期 様式	58	表採	鉄釉碗	底	17C	11	
17	20-せII	壺	口縁	18C			61	15-つIII	鉄釉鉢	胴	18C		
18	21-つII	碗	胴	18C			62	18-ひII	土師器埴	胴	11C		
19	22-ねIII	灰釉鉢	口縁	14C		古瀬戸中期 様式	63	23-しII	播鉢	胴	18C	15	
20	24-なI	灰釉瓶子	底	14C	3		64	23-すII	天目茶碗	口縁	18C		
21	24-ちIII	碗	口縁	18C			65	25-そII	鉄釉碗	胴	18C		
22	24-ふIII	灰釉鉢	胴	15C初			66	25-すII	鉄釉壺	胴	18C		
23	25-にIII	碗	胴	18C			68	28-にI	播鉢	胴	18C		
24	25-しIII	灰釉鉢	底	14C		古瀬戸中期 様式	69	30-むIII	鉄釉碗	口縁	17C		
26	27-めIII	灰釉碗	口縁	12C		光ヶ丘1号 窯式	70	30-ひIII	鉄釉鉢	胴	18C		
27	表採	灰釉鉢	底	14C			72	表採	坏	胴	18C		素焼
29	28-つII	灰釉平碗	底	15C			73	2号住居址	鉄釉鉢	底	18C		
30	28-たII	壺	口縁	18C			74	16-しII	鉄釉壺	口縁	18C		
31	28-たII	灰釉鉢	胴	14C		古瀬戸中期 様式	75	18-てII	鉄釉鉢	胴	18C		
32	28-つII	灰釉碗	底	12C		光ヶ丘1号 窯式	76	20-のIII	鉄釉碗	胴~底	18C		
33	29-むIII	碗	胴	18C			77	20-めIII	鉄釉碗	胴	18C		
34	29-つII	碗	口縁	18C			78	21-さII	鉄釉碗	胴	18C		
35	表採	灰釉瓶	口頸部	18C			79	21-てII	鉄釉鉢	口縁	16C	9	大窯
36	表採	灰釉鉢	底	14~15C		古瀬戸中期 様式	80	22-つII	播鉢	胴	18C		
37	表採	灰釉鉢	胴	14C		"	81	25-ふIII	鉄釉碗	胴	18C		
38	表採	碗	底	18C			82	26-すII	げんこつ茶碗	口縁	18C	18	
39	表採	灰釉段皿	底	12C	1	光ヶ丘1号 窯式	83	27-ほII	鉄釉碗	胴	18C		
40	8号建物址	天目茶碗	底	16C	10	大窯	84	27-せII	鉄釉碗	胴	18C		
41	12-てIII	天目茶碗	口縁	18C			85	27-せII	鉄釉碗	胴	18C		
42	15-ほIII	天目茶碗	胴	18C			86	27-はIII	鉄釉鉢	胴	17C	16	
43	15-にIII	天目茶碗	底	15C			87	26-ひII	鉄釉鉢	口縁	18C	12	

番号	出土場所	名称器形	部位	製作年代	挿図 番号	備考	番号	出土場所	名称器形	部位	製作年代	挿図 番号	備考
88	28-ねII	鉄釉鉢	胴	18C			134	26-しIII	碗	胴	18C		
89	28-ふII	鉄釉碗	口縁	17C			135	26-のIII	片口	口縁	18C		
90	29-ぬIII	鉄釉碗	胴	18C			136	26-まIII	碗	胴	18C		
91	30-もIII	鉄釉瓶子	胴	14C			137	26-まIII	碗	胴	18C		
93	10-なIII	碗	口縁	18C			138	26-まIII	碗	口縁	18C		
94	14-たII	鉄釉碗	口縁	17C			139	26-ちIII	碗	口縁	18C		
95	22-たII	甕	胴	18C		鬼板風釉	140	26-ちIII	碗	胴	18C		
96	27-すIII	灰釉小壺	口縁	18C			141	26-なII	碗	口縁	18C		
97	11-にIII	碗	胴	18C			142	27-さIII	碗	口縁	18C		
98	14-たII	瓦質碗	胴	18C		地方窯か。	143	27-さII	碗	胴	18C		
100	14-すII	碗	胴	18C			145	27-さII	碗	口縁	18C		
101	16-まIII	碗	胴	18C			146	27-めII	碗	底	18C		
102	16-つIII	碗	底	18C			147	27-にII	碗	胴	18C		
103	15-まIII	灰釉碗	口縁	17C			148	27-さIII	灯明皿	1/6個体	18C		
104	15-ちIII	碗	口縁	18C			149	27-ほII	碗	底	18C		
105	19-ひIII	碗	胴	18C			150	27-ぬII	灰釉碗	口縁	16C		
106	15-たIII	灯明皿	底	18C			151	27-へII	碗	口縁	18C		
109	18-ちIII	碗	胴	18C			152	27-のIII	碗	口縁	18C		
110	20-ほIII	碗	底	18C			153	27-ふIII	壺	胴	18C		
111	20-はIII	碗	胴	18C		114と同一 個体	154	27-はII	碗	胴	18C		
112	20-なIII	こね鉢	底	13C	2		155	28-むIII	碗	口縁	18C		
113	20-にIII	碗	口縁	18C			156	28-すII	碗	底	18C		
114	21-のIII	碗	胴	18C		111と同一 個体	157	28-すII	碗	口縁	18C		
115	21-つIII	碗	胴	18C			158	28-たII	灰釉碗	口縁	16C		大窯
116	21-つII	碗	胴	18C			159	28-ちII	碗	胴	18C		
117	22-ふIII	碗	胴	18C			160	28-ちII	碗	胴	18C		
118	22-たII	碗	底	18C			161	28-ちII	碗	胴	18C		
119	25-しIII	碗	底	18C			162	28-てII	碗	胴	18C		
120	23-さIII	碗	口縁	18C			163	28-ぬII	碗	口縁	18C		
121	23-す	碗	胴	18C			164	28-ふII	碗	口縁	18C		
123	24-ねIII	碗	胴	18C			165	28-ふII	碗	胴	18C		
124	24-つIII	染付碗	胴	18C			166	28-はII	灰釉おろし皿	口縁	15C	8	
125	24-てII	碗	口縁	18C			167	28-むIII	碗	口縁	18C		
126	24-てII	碗	口縁	18C			168	29-ぬIII	須恵器坏	胴	9C		
127	24-そIII	碗	口縁	18C			169	29-つII	碗	胴	18C		
128	25-さII	碗	底	18C			170	29-にIII	碗	底	18C		
129	25-さII	播鉢	胴	18C			171	29-ぬIII	碗	胴	18C		
130	25-そII	碗	口縁	18C			172	30-ひIII	碗	口縁	18C		
132	26-しIII	碗	胴	18C			173	30-むIII	碗	口縁	18C		
133	26-ちIII	碗	胴	18C			175	30-めIII	碗	口縁	18C		

番号	出土場所	名称器形	部位	製作年代	挿図 番号	備考	番号	出土場所	名称器形	部位	製作年代	挿図 番号	備考
176	29-めIII	碗	口縁	18C			217	25-ひIII	染付皿	底	17C		広東碗
177	表採	灰釉碗	底	17C	13		218	26-しIII	鉢	底	18C		
179	25-そII	碗	底	18C			219	20-さII	碗	胴	18C		
180	28-ふII	碗	胴	18C			221	27-さII	鉄釉鉢	底	18C		
181	27-たII	碗	口縁	18C			222	27-ひIII	鉢	胴	18C		
183	23-てI	碗	口縁	18C			224	26-ろIII	染付皿	底	17C	14	広東碗
200	14-すIII	灯明皿	1/5個体	18C	17		225	25-ちIII	灯明皿	1/5個体	18C		
201	14-たIII	甕	胴	18C			226	28-たII	鉄釉碗	底	18C		
202	16-へIII	染付皿	底	17C		広東碗	227	28-たII	碗	胴	18C		
203	17-ひIII	鉄釉壺	胴	18C			228	28-ちII	碗	胴	18C		
204	18-てIII	染付碗	胴	18C			229	29-そIII	甕	胴	18C		
205	18-てIII	渋柿手碗	口縁	18C後半			230	28-ねIII	碗	胴	18C		
206	20-ひII	鉄釉鉢	胴	18C			231	28-ふII	碗	胴	18C		
207	19-たIII	鉢	胴	18C			232	15-はIII	播鉢	口縁	18C		
208	20-すII	灯明皿	1/4個体	18C			233	28-つII	碗	胴	18C		
209	20-ひIII	播鉢	胴	18C			234	24-たII	灯明皿	底	18C		
210	26-しII	甕	口縁	18C			235	27-たII	碗	胴	18C		
211	20-のIII	灯明皿	口縁	18C			240	IV 36-すIII	鉄釉播鉢	底	18C	20	
213	21-しIII	染付碗	口縁	18C			241	東原 34-せ	鉄釉播鉢	胴	15C	21	
214	23-すII	鉄釉鉢	胴	18C			242	東原 22-か	古瀬戸 灰釉香炉	口縁胴	15C	22	
215	24-たII	碗	口縁	18C			243	東原 40-と	緑釉皿	口縁胴	15C	23	
216	25-さIII	鉢	底	18C			244	東原 22-か	鉄釉茶碗	胴	15C	24	

※欠番は近代陶器である。



第134図 東原地点グリット図 (S=1/1000)

第7節 東原地点

1 概要 (第134図)

東原地点は高見原遺跡に北接する東原遺跡の南端部にあたる。今回その一部が、ほ場整備事業の施工区域となったため、更宜上高見原遺跡群の一つとして東原地点としてあつかうこととしたものである。

高見原遺跡と接する水田地帯は第VI地点の下部にあり、自然湧水地帯となっている。昭和60年度の試掘調査においても遺物がほとんど検出されておらなかったこと、また今回の工事においても水田下に埋没されることもあり、本調査においては調査区域からはずし、人家に近い段丘端と水田ぎわの畑にしばって調査を行った。

区域北東部を基点とし、2mグリットを設定し試掘を行った。田の南土手ぎわはII層埋土が1m以上に達する所もあり、旧地形の傾斜を物語っている。

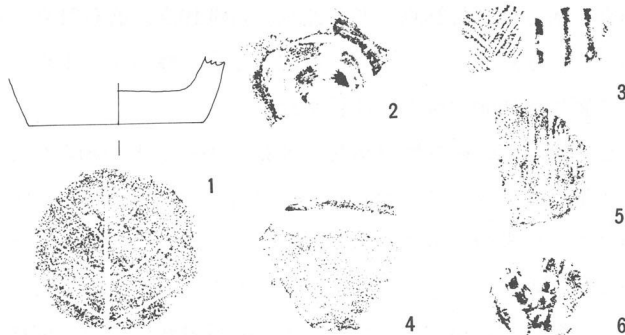
45グリットを試掘した結果、遺構と認められるものはまったくなく一段低い畑部分より縄文式土器及び陶磁器、石器がわずかに出土したのみである。傾斜のきつさ等から判断して、遺跡の主体部は北側丘陵上に展開されるものと思われる。

2 遺物 (第132、135図)

出土遺物は極めて少ない。第135図は34～38一す～そグリットより出土したものである。1は深鉢形土器の木葉痕を持つ底部である。2～6は深鉢形土器の胴部小破片である。総じて曾利期に比定される。

土器以外に陶磁器片が各グリットより散発的に出土している。第VI節第VII地点において一括ふれてあるので省略したい。

(気賀沢 進)



第135図 東原地点出土土器 (1/3)

第IV章 調査の成果と課題

第1節 縄文時代の石器について

1 概要

今回の発掘調査で出土した石器は2341点他に大形石器片と考えられる硬砂岩、緑色岩類を主とした剥片が2000片余、黒耀石を主とする剥片が1000片余出土している。

種類別にみれば、打製石斧が891点と最も多く、ついで敲打器362点、不定形石器348点、削器及び搔器117点、特殊敲打器104点、石礮101点、石錘92点、磨製石斧83点となっており、他は50点以下である。時期的に打製石斧が多出することは当然として、敲打器、不定形石器、石礮の多出することは注目すべきことである。

これらはすべて住居址に伴うものでなく約5割は遺構に直属しないものであり、さらにその大半は埋土より検出されたもので、開田時の破壊のすごさを物語っていると思われる。

出土した石器すべてに詳細な分類を短期間の間には行いえず残念なことであった。遺構に伴う石器については、住居址別に数量を載せるとともに、不定形石器を除く全点の計測結果を表にまとめるにとどまった。打製石斧は詳細な計測を行ったが種々の事情から発表することができず誠に残念である。

住居址毎の石器組成については、量的、種類別の比率等問題点もあるが、第III章において記述したとおり、住居址間の切り合いも多く完全な形での家は数軒を数えるのみ、さらに開田時による破壊を考えると常態的なものとは言えず、総体的な傾向をみるにとどめたい。

住居址より出土した石器は第I・IV・VII地点あわせて1226点である。種類別には、打製石斧442点、不定形石器280点、敲打器170点、特殊敲打器51点、磨製石斧49点、石錘54点、削器及び搔器25点、大形粗製石匙25点、横刃形石器28点、凹石22点、石礮19点、磨石21点、特殊磨石16点、石錐7点、石皿7点、小形石匙3点、ピエスエス・キユ2点、蜂のす石1点、石棒3点、ハート形石器1点である。他に剥片が1600片余あり注目される。

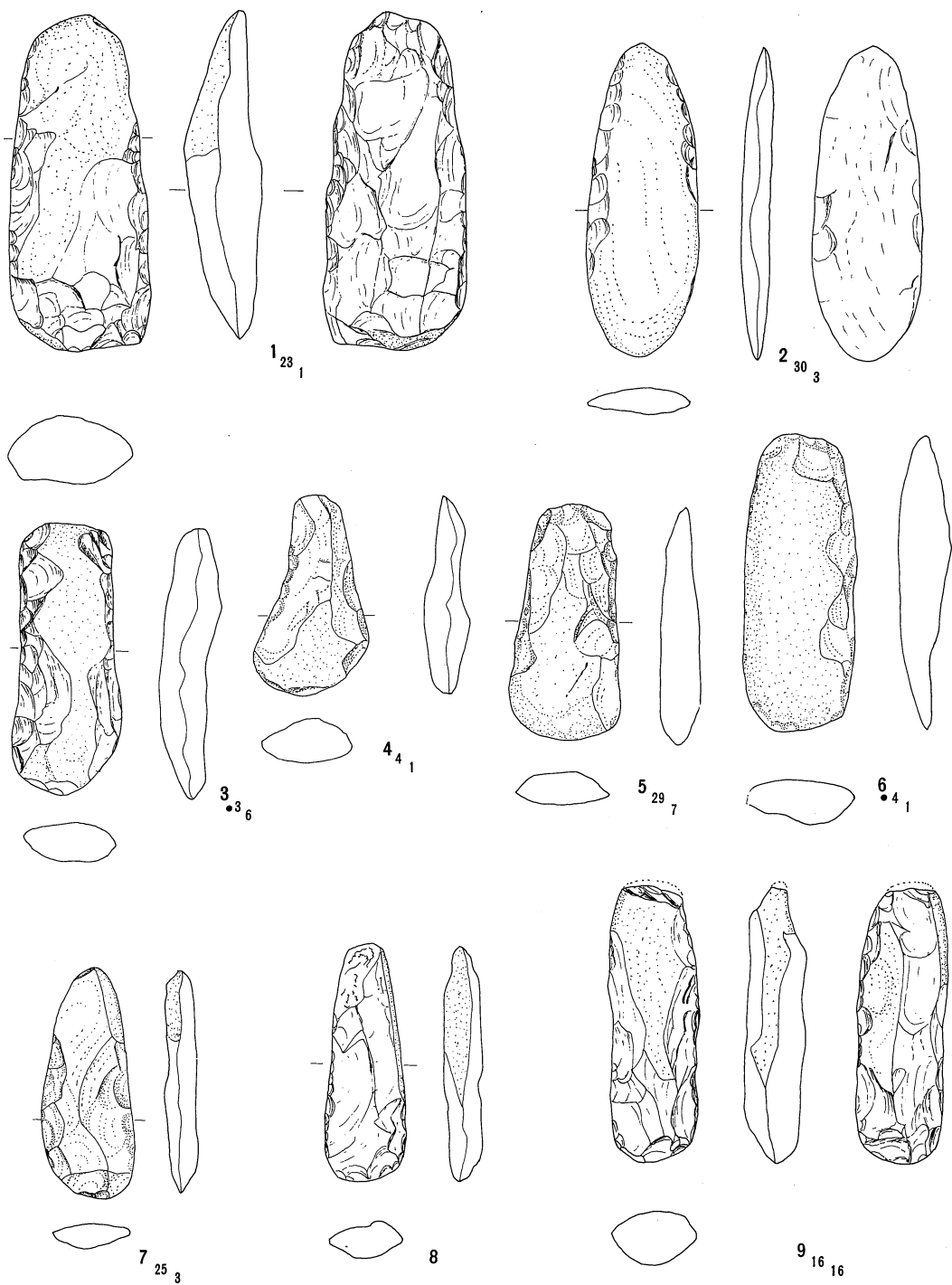
総体的な比率と比較した場合、打製石斧が36%とやはり多いことが知られる。不定形石器と敲打器は逆転現象を示すが量的には多いことが知られる。101点を数えた石礮は住居址から19点と極端に少なくなり、破壊等などの事情のみでなく石器そのものの持つ使用結果とも考えられる。

詳細な考察を加えねばならぬ所であるが、時間の制約もあり、以下簡単に分類の基準を示すにとどめたい。大形石器の分類、細分類については、市内南原遺跡*1とほぼ同様であり、石器の製作技法等考えは現時点もほぼ変わっていない。詳細は当報告を参照されたい。(気賀沢 進)

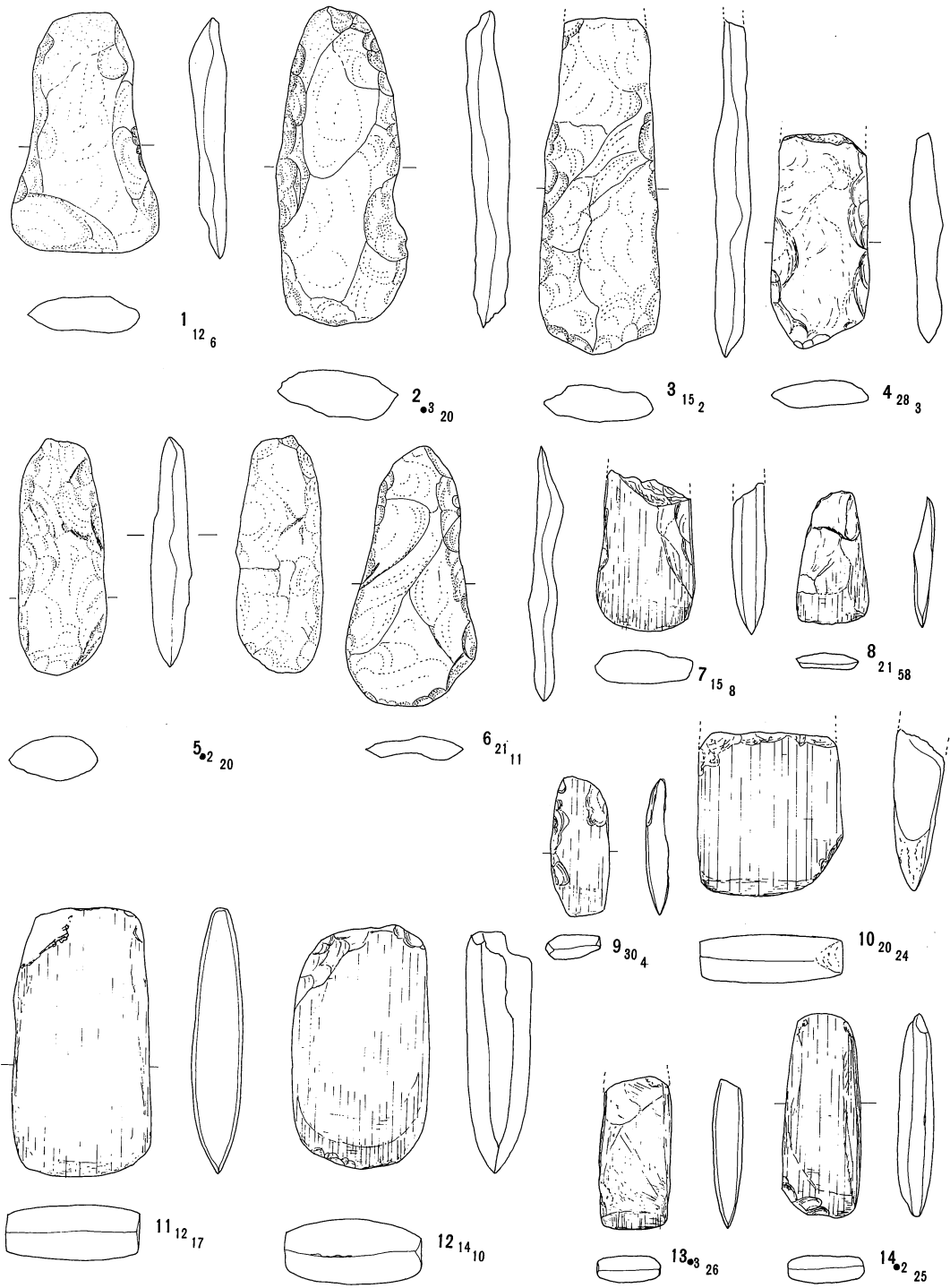
* 1 南原 駒ヶ根市教育委員会 昭和52年



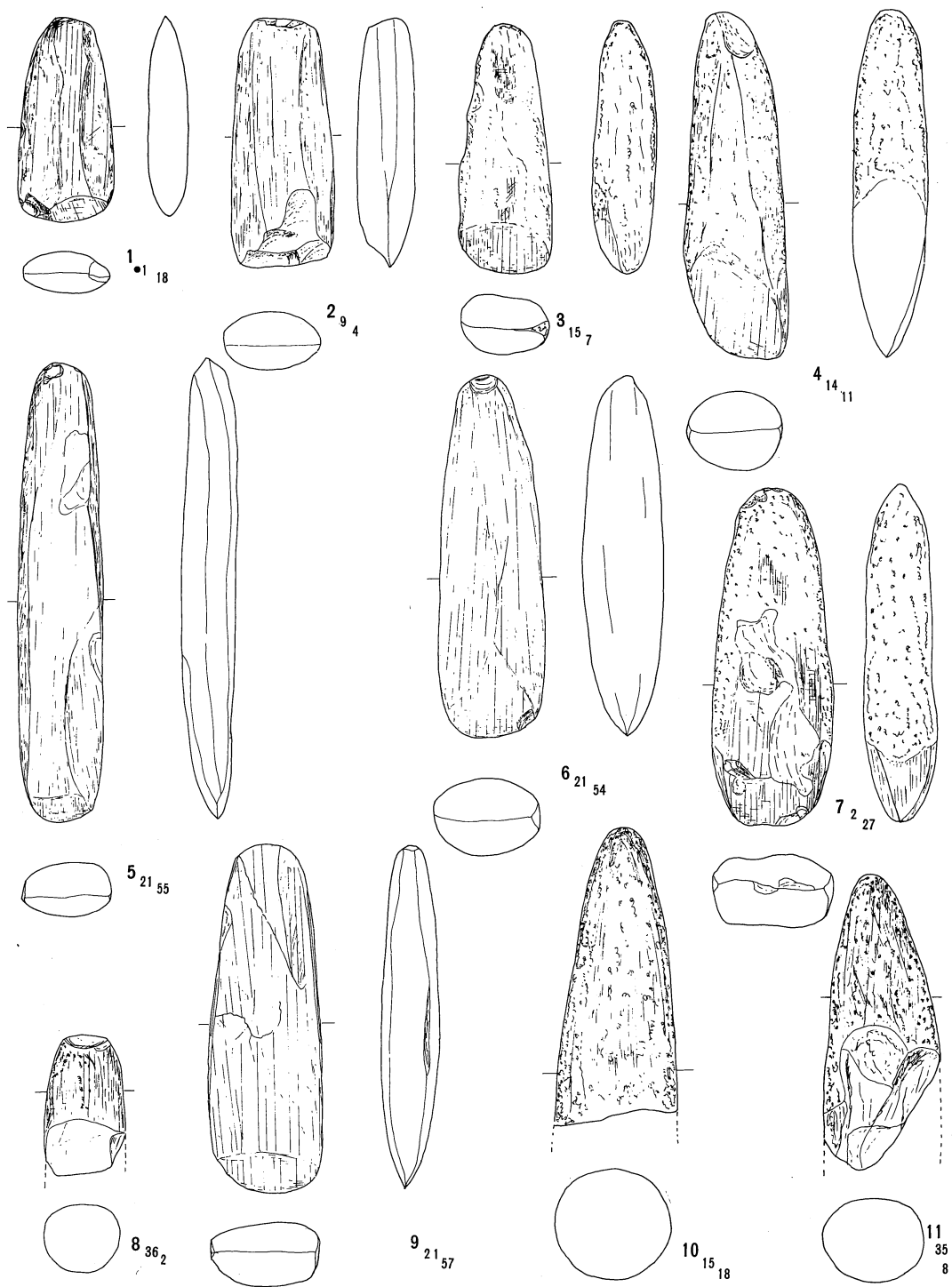
第136図 打製石斧 (a類) 実測図 (1/3小文字上段は住居址番号、下段は石器番号、上段●は第I地点を表わし、表示のないものは第VII地点▲は第VII地点の土壌。以下同様である)



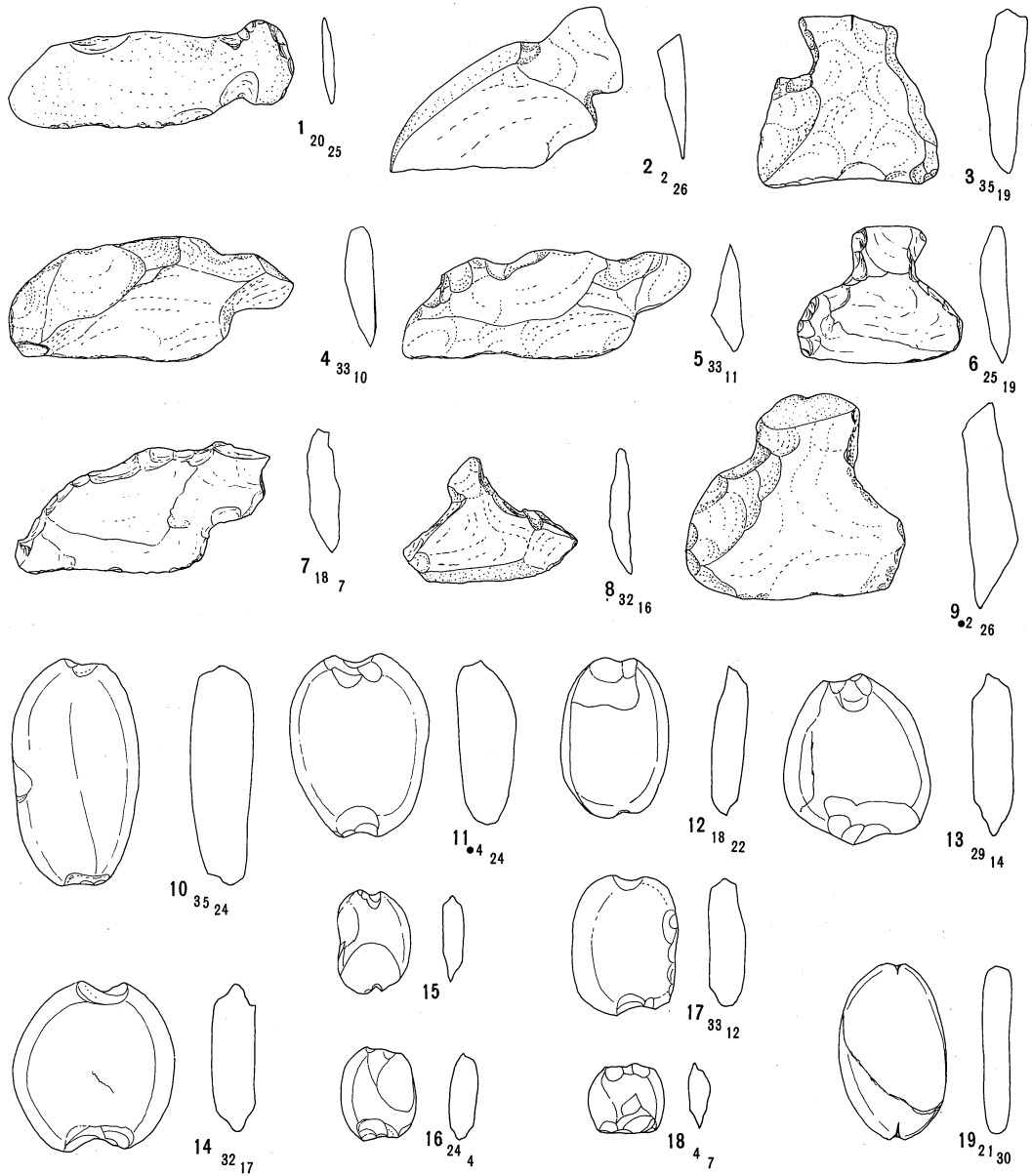
第137図 打製石斧a (b・c類) 実測図 (1/3 1はa類、2~6はb類、7~9はc類)



第138図 打製石斧（d類）磨製（定角）石斧実測図（1/3 1~6打製石斧d類他は磨製定角石斧）



第139図 磨製（蛤刃、乳棒状）石斧実測図（1/3 1~7、9は蛤刃他は乳棒状）



第140図 大形粗製石匙及び石錘実測図 (1/3 1~9は石匙、10~19は石錘)

2 大形石器 (第136~143図 図版49)

1) 打製石斧 (第136・137・138図)

発見された打製石斧は全部で891点、住居址内よりは442点出土している。

打製石斧がどのような素材から作出されたかを考えるため礫表皮の残存状態から4分類した。

a類一両面に礫表皮を残すもの (第136図、第137図-1)

b類一片面に礫表皮を残すもの (第137図-2~6)

c類一側面及び刃部ないしは頭部に礫表皮を残すもの (第137図7~9、第138図1・2)

d類一まったく礫表皮の残らないもの (第138図3~6)

種類別、石材別一覧表は右表のとおりである。種類別でみれば、b類が60%余をしめている。石材別では硬砂岩がやはり60%あまりをしめている。石材別による種類区分は総体的なものとはほぼ同様の傾向である。他に比して硬砂岩にd類が多いことが知られる。

分類別 岩石別	a	b	c	d	計
硬砂岩	15	165	29	60	269
緑色岩類	13	60	12	14	99
その他	13	42	8	11	74
計	41	267	49	85	442

a類は、手頃な偏平な礫を用い、側面からの打撃によってプロポーションを整えるものである。

2) 磨製石斧 (第138・139図)

磨製石斧は全部で83点出土しており、そのうち住居址からは定角石斧12点、蛤刃14点、乳棒状石斧23点の計49点がでている。定角石斧は第138図7~14である。蛤刃石斧 (第139図1~7・9) は乳棒状石斧と区別しがたいが、断面が楕円形を呈し側面に稜をもつものであり、乳棒状と違って明らかな刃部を形出している。機能的には定角石斧と何ら変わることがない。第139図-8・10・11は乳棒状石斧である。欠損品が多い。表皮に敲打し磨いているものがほとんどで、この技法は蛤刃にも共通するものがみられる。定角、蛤刃石斧と違って、たたく・するの機能を持つものと思われる。

3) 大型粗製石匙 (第140図-1~9)

大形粗製石匙は47点出土し住居址出土のものは25点である。1・4のように縦形と区別しにくいものもあるがすべて横形である。

分類は打製石斧と同様である。c類が最も多く12点、d類5点、a・b類は4点ずつである。

石材は硬砂岩が14点と多い。

4) 石錘 (第140図-10~19)

石錘は92点出土しており、住居址よりは54点出土している。すべて礫石錘である。19は切目で1点のみ、他はすべて敲打によって打ち欠いている。石材は硬砂岩がほとんどである。

5) 敲打器 (第141、142図)

敲打器は362点でその内住居址検出数は170点である。

敲打器と称して良いものには様々なものがある。ここでは一応たたく作用を持つものとした。この意味からすれば磨製の乳棒状石斧も機能的にはこの種に属するものであろう。

形能などからa・b・c類に分けてみた。



第141図 敲打器 (a・b類) 実測図 (1/3 1~7はa類、8~11はb類)



第142図 敲打器(c類)特殊敲打器、横刃形石器実測図(1/3 1・2は敲打器c、3~10は特殊敲打器、11~13は横刃形石器)

a類（第141図-1～7） 細長い自然礫を用い、その一定あるいは両端に使用痕のみられるものである。

b類（第141図-8～11） 不定形の自然礫の端部や側辺等に打撃痕の認められるものである。

c類（第142図-1～2） 細身の自然礫の測面に打撃痕がみられるものである。住居址出土の170点の内訳は右表のとおりである。

a類72点、b類76点、c類22点とa、b類が卓越している。石材別では緑色岩類が圧倒的である。硬砂岩はa類が多く、緑色岩類はb類が多い。機能的な面からの相違であろうか。南原遺跡においてb、c類は大形石器の加工器具の可能性があると考えたが、剥片の多さと、第I地点第3号住居址例、第VII地点第20号住居址例に顕著にみられる敲打器の多さと剥片との関係からしても裏付けられるもので、考えに変わりはない。b類に欠損品の多い点もこれを証明するものであろう。

分類 石材	a	b	c	計
硬砂岩	26	13	2	41
緑色岩	40	60	17	117
凝炭岩	2	0	1	3
安山岩	4	3	2	9
計	72	76	22	170

a類は磨製の乳棒状石斧と機能的には、同じと考えられ、植物性のものに使用したものと考えた。

6) 特殊敲打器（第142図-3～10）

断面三角形あるいは台形状の小形の自然石に使用痕・打撃痕のみとめられるもので、104点出土し、住居址からは51点である。類例はあまり知られていない。

以下のように4分類してみた。

a類 まったくの自然石を利用したもの（3、5）

b類 平坦面あるいは一面を磨いているもの（4、6、7、8）

c類 片面が割れているもの（9）

d類 片面割られた部分が磨かれるもの（10）

分類別による機能の相違はないと考えられるが、磨くことそれ自体に機能があるとも考えられる。石器の細部調整器具であろう。

7) 磨石（図版49）

磨石は25点出土し、内21点が住居址のものである。石材は花崗岩が主である。

8) 特殊磨石（図版49）

従来の磨石に入らないものである。小形な偏平な石を全面磨くものと、不定形の礫の一部に磨きがみられるものがある。後者には敲打痕を持つものが時にみられる。数量的には27点ありその内住居址からは16点出土している。

6) 凹石（図版49）

34点出土した内22点が住居址からである。すべて花崗岩を用いている。

10) 蜂のす石

第VII地点第38号住居址より花崗岩製のものが1点しているのみである。

11) 石皿

石皿は住居址より6点、18-はグリットより1点の計7点が出土している。住居址のものはすべて破損品である。18-は出土のものはすでに述べたように集落の広場と考えられる所から立石とともに出土したものである。

12) 石棒

定形的なものでなく自然石を簡単に磨いたと思われるものの破損品が住居址から3点出土している。

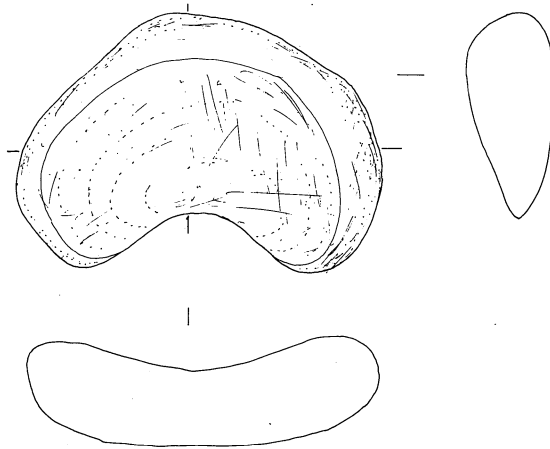
13) 横刃形石器 (第142図-11~13)

47点のうち住居址からは28点が出土している。多くの剥片の中から刃部が明らかに作出されているもののみを横刃形石器としたもので、丹念な観察を試みれば使用痕を持つものもあると思われる。a類-片面に礫表皮を残すもの。b類-測辺部、端部に礫表皮を残すもの。c類-まったく礫表皮を残さないものの3分類をした。

14) ハート形石器 (第143図 図版49)

第VII地点第21号住居址埋甕の近く床面上より出土したもので、類例を知らず形状の面からハート形石器と名付けたものである。

硬砂岩の自然石をかるく磨いたもので、凹みは作出した痕跡は認められない。石器としての機能を持つというより装飾品的な面が強いと思われる。 (気賀沢 進)



第143図 ハート形石器実測図 (1/3)

3 小形石器 (第144・145図 図版48)

黒耀石、チャートを主として用いた小形石器が不定形石器を含めて多量に出土している。小形石匙9点(3点、()内数字は住居址出土の点数)、石礮101点(19点)、石錐46点(7点)削器及び搔器119点(25点)ピエスエス・キユ2点(2点)挟入石器2点(0)、不定形石器348点(280点)である。当該時期としては石礮の多さが目立つとともに、不定形石器の豊富さは特徴である。以下種類別に分類基準を記すこととする。数量は総量である。

1) 石礮 (第144図-1~24)

二等辺三角形に整形された薄剥片の低辺を基部とする平面形により5分類した。

- a 基部の低線が直線をなすもの、または中心点に微細な抉りをもつ (1) 19点
- b 基部低辺の両端部がわずかに凸出するもの (2~8) 15点
- c 基部低辺が内曲し、「かえし」が作出されたもの
 - c₁ かえしの線がゆるやかに内湾するもの (9~12) 33点
 - c₂ かえしの線がV字形を呈するもの (13~15、17、18) 19点
 - c₃ かえしの線が深いU字形を呈するもの (16、19、20) 8点
- d 基部の低線が直線状を呈するが縁辺のみ調整され両面とも第1次剥離面を残すもの (23、24) 4点
- e 基部に茎が作出されたもの (21、22) 2点
- f 細長な二等辺三角形を呈し、低線が直線状をなすもの 1点

2) 小形石匙 (第144図-25~32)

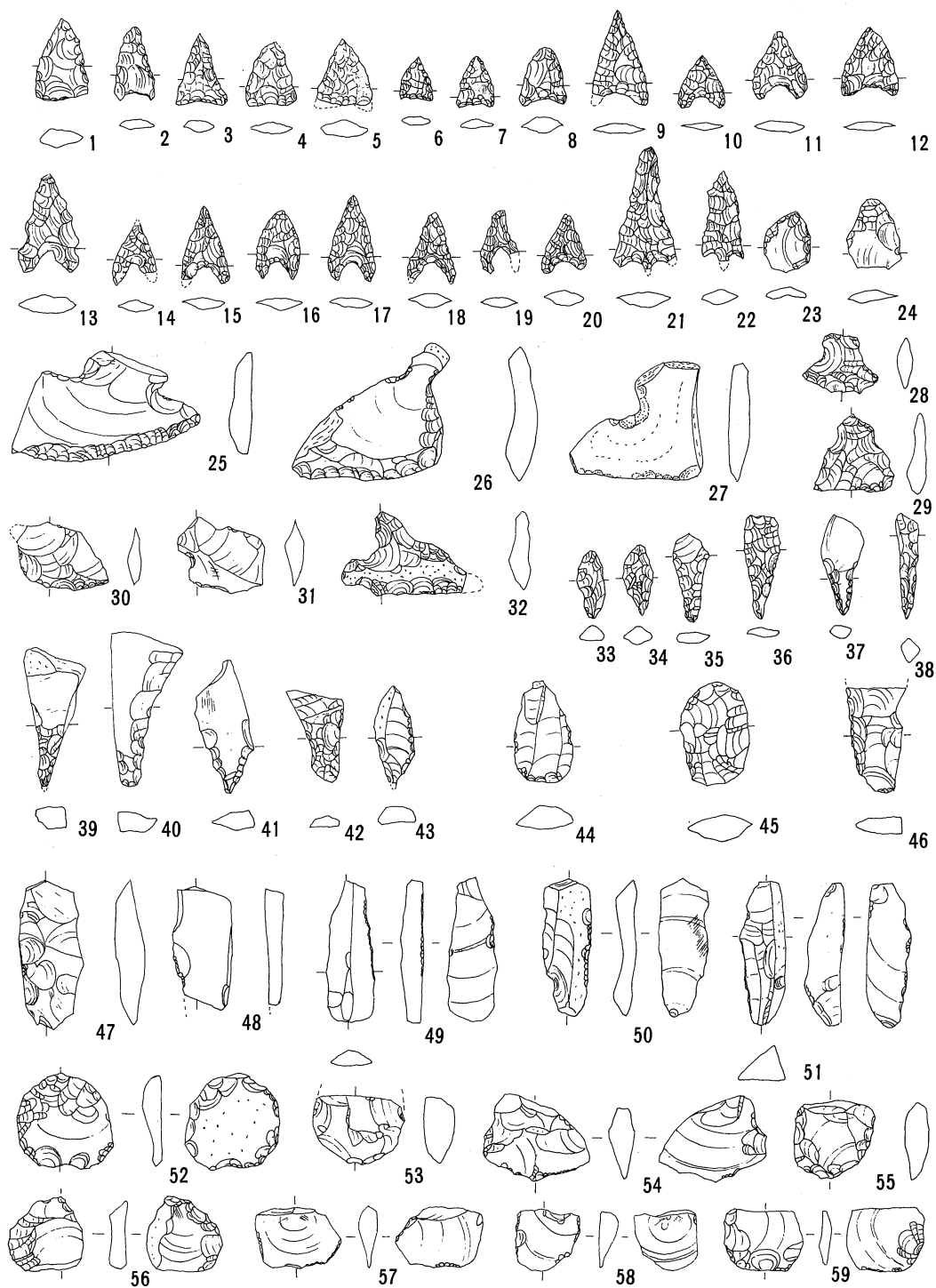
撮部の位置により3分類した。

- a 平面形直角三角形の斜辺側に撮部が位置するもの—横形(25~27、30、31) 5点
- b 平面形直角三角形の辺側に撮部が位置するもの —縦形 (28、29) 3点
- c a、bの撮みを同一個体に作出したもの —複合 (32) 1点

3) 石錐

棒状の先端部が断面三角形に作出され、著しく尖るように調整されるもの

- a 小形で全形がふ厚い紡垂形または木の葉形に整形されたもの(33、34、38) 6点
- b 撮部が作出されたもの
 - b₁ 先端部が凸出し、撮部が幅広く器体全面に調整が及ぶもの (35、36) 6点
 - b₂ 先端部が凸出し、撮部が幅広く撮部が未調整のもの (37) 5点
 - b₃ 平面形が三角形を呈し、撮部が未調整のもの 12点
 - b₄ b₃と同じであるが大形のもの (39、40) 9点



第144図 小形石器実測図 (1/2)

(1~24は石礮、25~32は石匙、33~43は石錐、44~59は搔器)

4) 搔器 (第144図—44~51)

- a 縦長剥片の表裏全面を調整し、その一側辺に連続付刃し直刃を整えたもの (44~46) 3点
- b ややふ厚い横長剥片 (断面三角形) の片面のみ調整し、その1側辺に連続付刃し直刃を整えたもの (47) 1点
- c 第1次剥離のままの縦長剥片の1側辺に直刃を付したもので、器体の厚さにより5分類する
- c₁ 断面凸レンズ状で刃部調整が丹念に行われるもの 2点
- c₂ 断面凸レンズ状で器体が幅広いもの (48) 1点
- c₃ 断面三角形で器体やや薄いもの (49) 1点
- c₄ 断面三角形で背稜がやや高いもの (50) 2点
- c₅ 断面三角形で背稜が極めて高く基部をやや調整するもの (51) 1点

5) 円形搔器 (第144図—52~59)

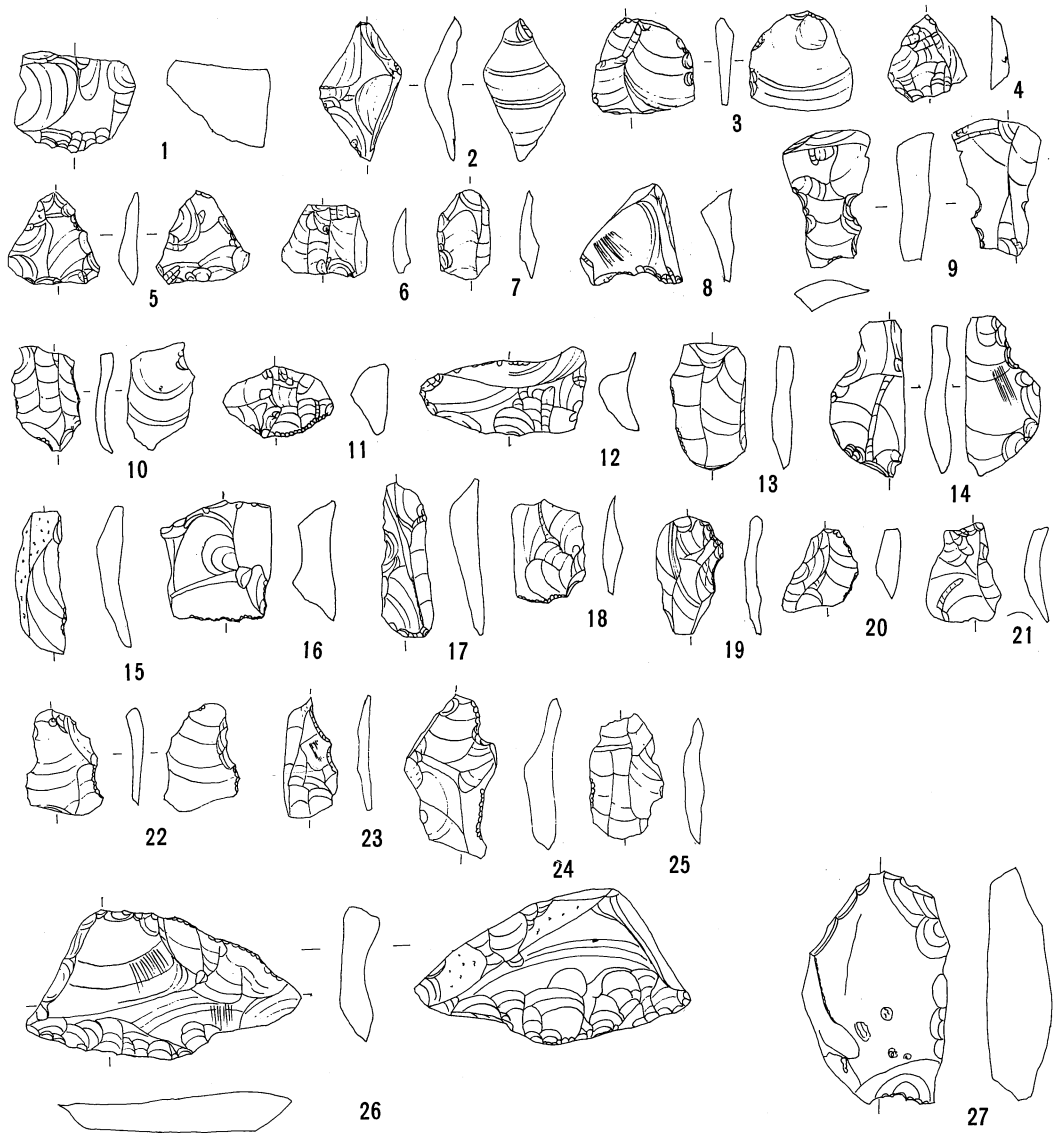
剥片の打瘤部分を主体にして、器経を円形、断面を凸レンズ形に整形し、その一部にやや厚い曲刃を作出したもの

- a 円形を呈するもの (52、53)
- a₁ 片面調整で刃角70°に近いもの 7点
- a₂ 両面調整で刃角35°に近いもの 2点
- a₃ 両面調整で刃角30°に近いもの 5点
- a₄ 長楕円形で両面調整で付刃部位が広く刃角60°に近いもの 3点
- a₅ 極めて小形の円形 (径25mm) で半周部に付刃され刃角50°に近いもの (母指状搔器) 6点
- a₆ 楕円形で刃部のみ調整され全周縁に付刃されるもの 1点
- b 方形 (隅丸) を呈するもの (54~59)
- b₁ 片面半調整で器体薄いもので刃部も鋭い 6点
- b₂ 両面第1次剥離のままで刃部のみ丹念に調整するもの 6点
- b₃ 器体径25mmほどで小さく、両極技法により片面を調整するもの 1点
- b₄ 方形剥片の上下両端部に付刃するもの 1点
- b₅ やや分厚な剥面を片面調整し、三辺の正。背面から打調し、刃角30°内外の直刃と円刃を作出したもの 1点

6) 削器 (第145図—1~7)

ふ厚な剥片の下端部に急角度の直刃または曲刃を作出したもの

- a 平面形・断面形とも三角形を呈し、角錐状の正面側に円刃を作出したもの。刃角65°。(1) 1点



第145图 小形石器实测图 (1/2)

- b aと同形であるが、三角形の頂点低く直刃が付されるもの (3) 2点
- c₁ ややぶ厚な剥片を平面三角形、断面半円形に全面調整し、底辺全体に直刃な作刃を作出したもの (5) 1点
- c₂ c₁と同形であるが、付刃が両側縁から施され、刃角40°内外のもの (4) 1点
- D 剥片を台形に整形し、底辺の背面側から打調して刃角30°内外の付刃をしたもの。正面側調整は、両極技法が用いられている。 (6) 2点
- 7) 挟入搔器 縦長及び三角形剥片の1辺を打調して挟入状の凹刃を作出。 (8、9) 2点
- 8) 不定形石器 (第145図—10—27)
- 1)~6)の定形石器に属さないものを不定形石器とした。極めて微細な薄い剥片を利用したものをII類とした。以下分類基準と数量を示す。数量のうち前者はI類後者はII類である。
- a 断面三角形の縦形剥片の両側縁に付刃したもので錐状の刃を持つ。
- a₁ 尖頭器形を呈し、基部調整は施されず、先端部のみに付刃 (直線刃) されるもの (10) 9点 0点
- a₂ 断面三角形の剥片の両側縁に背面から細かな付刃 (直線刃) されるもの (11) 3点 0点
- b 不定形やや厚手の剥片の縁辺の一部に使用痕または付刃が連続して認められるもので、截断機能を持つもの。 (12)
- b₁ 縦長剥片の1側縁にのみ連続付刃されるもの。 (13) 36点 3点
- b₂ 薄い縦長剥片の凸出した縁辺に使用痕のあるもの (14) (12) 4点 0点
- b₃ 縦長剥片の下端部に背面から連続付刃されたもの〔直刃〕 16点 15点
- b₄ ふ厚い方形の剥片 (打窟部分折断か) の下端部に急角度に付刃されたものの。押し切る機能を持つか。 (16) 21点 5点
- c やや小形剥片の縁辺の1部に連続付刃 (使用痕) のあるもので搔き削る機能を持つ。
- c₁ 縦長剥片の縁辺の1側縁に直線刃を付刃したもの (17) 15点 2点
- c₂ やや方法を呈する剥片の1側縁にのみ使用痕 (付刃か) のあるもの (18) 46点 2点
- c₃ 縦長状剥片のやや分厚い下端部ないし、横長剥片のバルブの部分の1側縁に弧刃を付刃したもの (19) 23点 5点
- c₄ 横長剥片の1辺を残し、他の縁辺に弧刃を付刃したもの。 17点 6点
- c₅ 不整形の剥片の1部に斜刃を施したもの 13点 0点
- c₆ 不整形の剥片の1側縁に曲刃を施したもの。縦長剥片が多い。 (21) 18点 0点
- d 不整な剥片の1部に挟入状の付刃を施したもの。断面を円形に削る機能を持つ。
- d₁ 縦長剥片の1側縁の一部に小さな挟入を施したもの。 (23) 33点 0点
- d₂ ふ厚な不整形剥片 (断面三角形) や縦長剥片の縁辺に比較的大きな挟入 (弧刃) を作出したもの。 (24) 19点 6点

- d₃ 方形を呈する剥片の縁辺に小さな抉入を作出したもの (25) (22) 12点 15点
- e 不正形角形状の分厚な剥片の縁辺を調整し全縁に直刃を作出したもの
〔削る〕
- e₁ 刃角が40°近く調整された搔器状の刃が作出されている。(26) 1点 0点
- e₂ 刃角が90°近く調整され、削器状の刃が作出されている。(27) 1点 0点

(林 茂樹)

第2節 縄文時代の集落と土器について

高見原遺跡は舌状台地上に展開する大遺跡であることは、今までの調査によってもある程度予想されていたことであるが、今回の調査によってまさに裏付けられたと言えるであろう。

すでに述べたように今回の調査は広範囲の遺跡の一部を虫食状態で調査したもので、これによって本遺跡の全容を語り得ることは当底出来ない訳であるが、発見された縄文時代遺構や土器について簡単な総括と問題提起をしてみたい。

高見原遺跡の性格を考えると、当遺跡に西接する横山遺跡を一体のものとして考える必要があるので含めて考えることにする。

横山遺跡からは過去の調査によりA地点より縄文草創期・早期の遺跡が確認されている。C地点よりは縄文時代中期に住居址がさらにB地点より前期終末の住居址が4軒と土壙111基が確認されている。

今回の調査で明らかとなった遺構は第I地点より住居址4軒、土壙3基、第IV地点より住居址1軒、第VII地点より住居址40軒、土壙71基である。これらはすべて縄文時代中期に属するものである。

これらを井戸尻編年に準拠して細分すると次のようになる。

九兵衛尾根期	4号、9号 (VII)
新道期	29号、33号、40号 (VII)
新道～藤内移行期	27号 (VII)
藤内期	20号、24号、25号、30号、32号、36号、37号、39号 (VII)
井戸尻期	35号、41号 (VII)
曾利期	1号、2号、3号、4号 (以上I) 1号 (IV)、1号、2号、3号、5号、7号、8号、10号、11号、12号、13号、14号、15号、16号、17号、18号、19号、21号、22号、23号、26号、28号、31号、38号 (以上VII)
不明	34号 (VII) 中期中葉

貉沢期の住居址がみられないこと、井戸尻期の住居址が1基と少ない点の特徴である。今回の調査がごく限られた狭い範囲であり、他地域内に該期の住居址を予想できない訳でもないが、第VII地点にみられる住居址の重複状態からすれば、他地点においても該期の存在は少ないものと考

えるのが妥当であろう。

このようにしてみると、前期終末期に始まった集落形成は、貉沢期と井戸尻期に一時衰退することがうかがわれる。伊那谷における中期の集落をみると井戸尻期が本遺跡同様衰退し、井戸尻末期から曾利期に再び隆盛を極める例が往々にしてみられる。

集落の占地は、第Ⅶ地点において第1号・16号住址が比限であり、また横山遺跡においても現在保育園のある地点には遺構は全くなく遺物も少なく、主体は台地の中央部に寄っていることが確認されている点から台地の中央尾根上からやや北に寄った部分を北限として集落は南側に展開されるものと考えられる。

第Ⅶ地点における住居址の重複の余りの多さと、ほとんどの土壌が住居址と重複していることは、今後詳細な遺物の検討を試みなければならないことであるが、集落形成上何らかの規制があったのか、ただ単に掘り易い等のことなのか、集落研究上の大きな問題点である。

第Ⅶ地点の第1号住居址と第7号住居址との間は開田時において遺構が破壊されたことが十分うかがわれ、南側に広場的空間部を持った弧状を描いて集落が形成されていたものと思われる。これが環状となるかは今後の調査に待たねばならない所である。18—はグリットにおける石皿と立石はこの部分が集落における広場的機能を持つものであることを如実に物語っているであろう。

時期的にみるならば、外縁に曾利期の住居址があり、外に向かって拡がったことが知れる。

第Ⅰ地点より曾利期の住居址4軒、61年度の試掘調査における第Ⅷ地点に藤内期の一括資料を持つ住居址、横山C地点における藤内期の住居址は集落の大きさを物語っている。その反面第Ⅱ地点の一部の調査結果は空白部の存在が知られる。このような点からある数単位毎の小ブロックが幾つか連って大きな環状ないし馬蹄形状の集落を形成したものと考えられる。

住居址の個々の問題についてふれることとする。

平面形は中期中葉においては、円形ないし楕円形を呈すものが一般的で曾利期になると方形に近いものとなるのが一般的である。中には2号・16号居址のように多角形を呈すもみられ、曾利期にみられる特徴である。

プランの変遷とともに、炉にも変化がみられる。小形な簡単な石組炉から曾利期になると方形のがっちりとした大きな石組炉と変わってきている。この方形の大きな石組炉は画一的なもので、入口部にあたる所には平盤な自然石を横にすえ、焚口部を作り、他の三方は大きな割石を縦長に用いている。この炉の出現は、曾利Ⅱ期に出現するものであり、伊那谷における該期の特徴である。

このことは曾利Ⅰ期まで諏訪地方と非常に似た土器を持つ伊那谷において、伊那谷独自の土器群を構成する時期井戸尻、曾利文化圏からの脱脚の時期にあたるのである。今後このような観点から検討を加えていきたい。

第Ⅲ章において、遺構出土の土器については細かくふれてきたので、土器については簡単にふれておく。

中期初頭期から中葉にかけての土器は、若干北陸系と考えられるものがみられるが、諏訪地方に類似するものである。第25号住居址(85図-7)、第35号住居址(107図-2)等は文様構成、施

文のシャープさ、焼成具合など同時期の他の土器と明らかに相違をみせており、諏訪地方そのもので移入品と考えられる。

このように諏訪地方の影響を受けた曾利Ⅰ期までと違って曾利Ⅱ期以降となると複雑な様相をみせ、いわゆる井戸尻編年では対応できなくなってくる。このことはすでに指摘されていることであり、早急に解決せねばならぬことである。この時期東海地方の影響を教けた土器がかなりの量出土するのが、通例であるが、本遺跡においてはその量はほんのわずかであった。

特筆すべきものとしては、第1地点第4号住居址(第17図-1)第35号住居址(第107図-3)出土例のシャープな粘土紐による加飾された土器がある。類例もあまりなく、単品で出土すれば、時期について比定しがたいものである。本遺跡独自のものなのか今後の類例の増加を待ちたい。

(気賀沢 進)

第3節 中世および近世の遺構について

第Ⅶ地点発掘区内約3,000m²の第Ⅲ層上部に包含されていた遺構は、室町時代中期から江戸時代中期に至る建物址8棟で、溝跡と土壌群を伴っていた。建物址について小括しその課題について述べてみたい。

1 中世建物址について

A 室町時代中期の建物址群(第123・124・127・129図参照)

14世紀前半の時期の建物址は、掘立総柱式の第2号建物址(以下第○号と略記する)、第3号址、第6号址および第8号址(竪穴式)の4棟である。この建物址群は機能を異にする建物の集合と考えられる。即ち2間×3間の南北棟総柱式27.1坪(現行面積で示す)の第3号址を主屋とし、竪穴式建物第8号址をこれに伴う倉庫とすれば、長屋様式総柱式小形建物の第2号址および第6号址は、台地の三方、伊那谷を展望できる位置に配置された仮屋的な建物である。未発掘の南部分にも恐らく建てられていたことは、推定可能である。この南部分は、従来から古瀬戸灰釉陶器片を出土し、南端の下間川溪谷を望む段丘崖は、平面を直線状に、断面、勾配を急なスロープ状に高さ8cmほどを整形してあり、第6号址の位置する北側の第Ⅵ地点湿地帯に望む段丘崖も同様に整形されていることや、加えて第Ⅳ地点の平地西側即ち当発掘区の西南端の位置から南側段丘崖にかけて幅10m、深さ凡そ7mの掘り切り遺構が遺存していて、当地点が保塞的な施設の内部としての位置を古めていることは明白でこの中における建物の配置は城郭内部の建物施設として妥当と思われる。当高見原丘陵の東部に本地点より300m離れて中世城郭とされる高見城址の本郭、外城郭、西城郭が集中して位置し、さらに当地点西方150mの丘陵先端部に幅10m深さ10mの「掘り切り」が丘陵幅50mの長さに切断する遺構が今回発見されている。これら環境的条件から見ても、この建物址群は高見城防御のための保塞的な施設としての居館址であったと断定してよい。更に西方500mの大楽寺跡には「明德三年」在銘の宝篋印塔が現存する。この石造塔の銘文に「信州中沢郷」「庄司」等が判読されている。本建物址群と同時期の14世紀末にあたり、「中沢郷地頭職中沢

氏の統治時期に該当するのである。中沢氏の本拠の位置は現在の処、確実に把握されていないがこの追求に関する重要な史料として本建物址群が今後資する処は大きい。

また、本建物址群が南北朝期の建築様式を明らかにする上で極めて重要であることを指摘するにとどめたい。

B 室町時代後期の建物址群（第122・125図参照）

この時期の建物址として、15世紀後半とされる第4号址と16世紀前半とされる第1号址とがある。

第16号址は、東西棟5間×2間の切妻造掘立総柱式建物で18.7坪の規模で比較的大きい。間仕切りは中央廊下（土間）と広間が大きく縁側を南側に持ち「併列形」に近いがそのものでなく入口も妻入りで特殊な設計である。

第1号址は、東西棟5間×4間の掘立総柱式建物24.2坪の規模で屋根は入母屋または寄棟造りが想定される。間仕切りはいわゆる「田の字形」に近いがそのものでなく異形式であり、広間が二つあり、全面積の49%を占めている。当地点には「法昌寺」という地字名が伝承されており、更に南傾する段丘崖に「法昌寺前」の地字名が旧土地台帳に記載され、その下段下間沿岸には「念仏田」の地名が遺存している。これらの遺存地名は寺院址にかかわるものであることから、時期差の少いこの両建物址が共に広間をもつ点など考慮に入れば寺院址とも考えられる。しかもこの両建物は棟方向は異なるも、3mの間隔で南北方向に並列しており、同時的に存在した寺院と庫裡とも考えられる。仮に廃寺跡とすれば天台宗教もしくは浄土真宗系の寺であったと思われる。光前寺所蔵文書の（寺社記・寺郭・中沢）の項に「天台宗慈照寺、高見村、境内八畝参歩」との記載があるが年次、位置ともに不明であることも参考になる。

16世紀の農村の小寺院の建築様式も未確定である。これらの問題追求も地域史の上で今後重要な課題であろう。遺物としては宗教的儀器等は少く、天目茶碗や鉄細鉢など供献具を多く伴っている。

2 近世の建物址について（第126・128図参照）

A 近世初頭の17世紀前半期と見られる第7号址がある。南北棟3間×3間15.3坪の寄棟造り屋根をもつ平入の掘立総柱式の家屋である。間仕切りは「併列形」で土間が全面積の三分の一を占めるのが特徴である。

当地域は現存する茅葺寄棟の江戸後期の農家は「三間形」の系列を引く「田の字形」が多く分布していた。いわゆる東海系であるが「広間形」は、東北、北陸系といわれこの点特徴を見出すことができる。

立地が第VI地点の湿地帯を望む丘端部に位置することから見て、江戸初期の農家であって、直下の湿地帯における水田経営を生業とした人々の住宅と考えられる。江戸初期の民家として、民俗学的、建築史上重要な資料として着目したい。また地域史的にも意義のある資料を提供したことになり、今後近世初頭の農民生活の解明に役立たせていきたい。

B 近世中期の18世紀半ばの建物とされる南北棟4間×3間の掘立総柱式14.16坪の第5号址

である。第7号址の東側に2mの間隔をもって並列雁行する形で位置するが殆ど密接しており第7号址より後の時期に建てられたことは明白である。或は第7号址の家が建て替えられたものとも考えられる。間仕切は「併列形」で、土間が49%を占め第7号址同様、江戸後期以後の農家住宅とは異なる。本地点約1km東北に元禄期または貞亨期造営と確定された「重要文化財旧竹村家住宅」が現存していた。この家の間仕切は「田の字形」であり、西端に広い馬屋の空間を備えている。第5号址の広い空間は中央で仕切られていることから見て、北側の空間は或は「馬屋」であったと推定される。いずれにしても「併列形」で北陸系民家の形態を持つのは時期的特徴と見られる。また前記「旧竹村家住宅」は土台石を持つ建築であるが本址は全くの掘立柱式である。当地域の民家は元禄以後土台石を持つことから見てこの建物は元禄期より若干遡るかも知れない。

第7号址と同じ立地から見て、北側直下の湿地帯の水田経営を中心とした農家の住宅であったと推定される。

江戸中期の建物址の発掘は当郡市地域内では初見のことでもあり、今後現存する古民家形態との比較資料として注目していきたい。

以上、建物址を中心に述べたが、いずれの建物も、瓦、土台等は出土せず、しかも近世中期に至るまで掘立柱式建物というあくまで中世様式が盛行していた文化様相は、地域文化史解明の上に重要であり歴史考古学の範疇から観ても注目すべき資料と課題を提供したことを指摘しておきたい。(林 茂樹)

第V章 総括 ————所見と考察———

県営ほ場整備事業に伴う記録保存事業としての高見原遺跡の一部を発掘調査した状況は、前掲に詳述した通りであるが、広域に亘る各地点の部分調査であり、多岐であるため、ここでその大要についてまとめると共に、調査時の所見と考察を若干つけ加えることとしたい。

第1節 発掘成果の概要

1. 調査事業のうち、遺跡の発掘事業は、昭和61年7月16日から同年10月6日まで実施し、遺物の整理、調査、検討及著述、編集等報告書刊行事業は、同年9月1日から昭和62年3月10日まで実施した。

2. 発掘調査の成果は次の通りである。当初計画は工事者側の埋没保存面積の拡大変更のため若干の修正を余儀なくされたが保護措置としては大きな成果であった。

〔発掘地点〕	〔埋没保存面積〕	〔発掘調査面積〕	〔発掘調査成果〕	〔備考〕
第I地点	500 m ²	440 m ²	縄文時代中期竪穴式住居址 4軒	(集落ごく一部のみ)
第IV地点	700 m ²	900 m ²	縄文時代中期竪穴式住居址 1軒	(他水田工事で全面攪乱)
第VI地点	2,200 m ²	620 m ²	縄文、弥生、古墳、歴史時代遺物包含層及土壌堆積層	(遺構なし)
第VII地点	0 m ²	2,280 m ²	縄文時代竪穴式住居址40軒及土壇71基及室町時代掘穴柱式建物6軒、江戸時代同建物址2基、土壇5基	
東原地点	1,500 m ²	180 m ²	中世陶磁片、縄文中期土器片、多数	(遺構なし)

第1節 縄文時代遺跡について

1 集落址について

第VII地点において発見された竪穴住居址は総数40軒で、互に密接し、切り合ったりして時には2重3重にも重複する竪穴式住居の群集であった。この群集並列する形態は、丘陵陵線上から北側段丘縁内部にかけて弧状に配列されているが、東部の住居址配列帯の中心線より北半は、過去の水田造成により削りとられて消滅していた。然し東端部の第2号址および第3号址は、住居址の半分を発掘したのみで更に東部に延びており、弧状の西端部住居址群は西南方向に続いていく様相をもち、住居址帯の内部(南東)は遺構がなく円形の空間地帯となっている。発掘範囲は南北50m、東西48mの全面に亘っており、これを東北端から西北端にかける住居址帯は弧の長さ約70m

であり、幅20mである。この中に竪穴住居址40軒を数える。これらの状況から、この住居址帯は発掘区に南接する第IV地点の段丘面南縁まで弧状に展開していくことは、遺物の表面露出状況によって明瞭である。第IV地点の東端部、第III地点西端部境界附近は、昭和28年の発掘によって中期中葉の住居址1軒、やや離れて石棒立石及集石遺構が発見されており、当発掘区から東方へ50m以上延びるものと推定される。

以上の観点に立って、露呈された弧状を呈する住居址帯を基準にして復元してみると、幅20mの集落帯は西南から南東にかけてほぼ同じ状態を保って展開し、東西径100m、南北径80mの長楕円形状に展開する集落形態となる。中心広場は、東西径70m、南北径50mほどと推定される。しかし、東南部に石棒立石・配石遺構が存在するのでこの部分は住居址がなく、或は内帯部に土壌群を持っているかも知れない。さすれば長めの馬蹄形集落となるのであるが、いずれにしても環状集落址に近い形態を持つ集落址である。今次発掘された集落址はこの環状の西半部の北側部分で、全形の四分の一が発掘された事になる。従って環状集落を構成する竪穴住居址数は160軒以上と推定されるのである。

この大集落は一時的に形成されたものかどうかという問題であるが、発掘された集落の状態を分析してみると、総数40軒を時期的に分類すれば、中期初頭の九兵衛根式期の2軒が東部に、同前葉の新道式期4軒が西部に、中葉の藤内式期8軒が北西部に、後葉の曾利期23軒が、それ以前の住居址面上に重複して全面に展開している。即ち、中期初頭、前葉、中葉の住居址は部分的に近接しつつ弧状に数軒が並列するが、後葉に至る戸数は飛躍的に増大し環状集落を形成していくのである。

そしてこの環状集落は、初頭前葉は、環状の内側に位置するが後葉になると外側に拡大し、集落帯の幅を広めその規模が拡大されていったようである。

当集落址の特徴とする処は集落が同一地帯にしかも中心円形広場を同一にしつつ、中期初頭から中期後葉の時期に至る長期間を継続していたということである。河岸段丘上の遺跡として本例と時期を同じくする遺跡、例えば飯島町山溝遺跡に於ては、藤内期7軒に井戸尻期6軒、曾利期5軒がそれぞれ主軸を異にしながら小さな台地上に弧状を展開していた。また伊那市小沢川北岸の月見松遺跡では、新道式期から井戸尻式期に至る99軒が同一場所に半円形を形成しており、中心広場は山溝と同じで1,000基以上の土壌群が充満していたが曾利期になると全く西部方向に移動していた。これが通例のようであるが、本例はこの点一貫性を保持している。その条件は縄文時代の社会構造に関することで今後解明するべき問題であるが、自然条件としては、集落立地が舌状丘陵の南縁北縁がやや狭くなり、しかも北縁段丘崖下に大湧水と2ha余の湿地帯（第VI地点）が存在し、水利用を全くこれに依存していたということが最大の条件となろう。

次に本集落址と高見原遺跡全体との関係であるが7haを測る全面にわたって単位集落が存在する可能性が多いことは既に実施した範囲確認調査でも明らかである。ここではその集落の在り方を予察してみよう。東部の稜線より南側の第I地点には、中期初頭、および後葉の集落が1単位以上、第II地点では中期中葉及前期中葉の集落が1単位以上、第VII地点西部の第V地点に後葉集落が1単位位が稜線の北側の第VIII地点には、中期中葉、後葉が1単位以上存在する。また本遺跡

に西接する第V地点には前期末葉、中期後葉が1単位以上、東部の稜線北側のやや広い平坦面には、中期中葉及後葉の集落が2単位以上が存在し、7単位以上の集落が存在する可能性がある。更に本遺跡に西接する横山遺跡には4箇地点があり、縄文早創期、早期、中期、平安時代の集落の存在が確実視されており、B地点においては前期最末葉の集落址が、老人憩の家、中沢保育園建設の折発掘調査されている。

以上のことからVII地点の縄文中期集落の中で姿を見せない貉沢式期やその数の少ない井戸尻式期の集落は、他の位置に存在するものと考えられる。これは縄文時代の各時期は半定住集落で一定の時期が経ると移動することが多かったという。その移動には一定の回路と時間が存在したと考えられているが、本遺跡においても、少くも高見原、横山遺跡および北接する久保垣外遺跡等の範囲を含めて十数ヘクタールの中で回遊していた可能性が大きい。これらの追求のために本集落例は大いに参考となるのである。

また本集落址は遺跡範囲の中心部に位置していることから最大に繁栄した後葉の曾利期に於ては高見原遺跡内の最大規模をもつ集落、即ち親ムラではなかったかと推察される。従って周辺に存在する同時期の遺跡を見ると北に接して久保垣外、西原、東に的場、上垣外、南側に下間、細久保、北側に新宮川を隔てて小林、五郎垣外等曾利式期の小さな遺跡が点在し、高見原をとり囲んでおり子ムラとしての関係が予測することができる。これは縄文時代の地域社会構造の課題であり、今後の研究へのアプローチとしておこう。以上のように本集落址が提示した研究課題は、多角的でしかもそれぞれがまだ未解明の縄文社会研究にとって重要な性格を帯びているのである。

2 遺構、遺物に見られた特異な事象について

① 第9号竪穴式住居址は、報文どおり、本集落としては最も古期の九兵衛尾根式期に比定される住居址であるが、その屋内炉は、中央の東寄りに設けられているが、1辺30cm内外の極めて小形石組炉である。その西側に接して、口径25cmの底部を欠く鉢形土器が埋設されており、いわゆる副炉としての形態を示していた。この時期の副炉は類例が知られていない。しかも副炉は、堅果類、特にドングリのアクヌキ処理に必要な施設とされ、煮沸と焦焼の同時的作業施設と考えられており、縄文時代人の食料確歩を考究する上に貴重な遺構として注目したい。なお屋内炉が地床炉から埋甕炉へ、そして石組炉へと変化し加えて規模が小形のものから大形のものへ発展していく過程が本集落内部中期初頭から後葉に至る住居址に認められることも貴重である。それは屋内炉の直接的機能以外に、情報伝達の場所として大きな社会的機能をもつからである。

② 特殊な遺物として、縄文人の身体装飾の典型である佩玉と耳飾が出土したことである。第62土壌から出土した硬玉大珠がそれで長径7cm余の極めて大形の斐翠製垂飾品である。土壌の底部中央の壁側から出土し、土壌の位置が中央広場の東西主軸線に近くしかも住居址帯の内側部分に在ったことも見逃せない。恐らく、集落の族長を葬った墓壇であろう。斐翠は、新潟県糸魚川溪谷の姫川が日本列島唯一の原産地である。これがもたらされた経路は飛弾山脈の東麓線を伝っているとわれ、北陸や安曇平の縄文中期文化との交流を物語っておりその内容は極めて深い。

また耳飾りは、第65号土壌の上部から出土した大形の朱彩土製扶状耳飾りである。扶状耳飾りは縄文前期に盛行し、石製品が多くしかも大陸文化との交流を示すものとして注目されている。縄文中期には土製耳栓に変化するものとされているが本例はこの点特異であり今後の考究を進めたい。

③ 発掘区の南西隅に位置する土壌群8基が南西に開口するコ字状に配列されていることである。各土壌は直径深さ共に1m内外の円筒形を呈し、間隔に若干の差を持つが、平均50cmの間隔で、東辺に南から66号址、70号址、74号址と4.5m間に直列し、北辺は東から64号址、63号址、36号址と4.5m間に直列し、西辺は37号址、38号址と5.5mに直列し、南辺には土壌はなく開口し全体にコの字形を形成しているのである。前期遺跡として著名な諏訪郡原村阿久遺跡では大規模な環状配石址の中央広場の北辺に方形配列土壌が数基発見されており、柱列址と認められている。また最近の調査では北陸の金沢市のチカモリ遺跡の集落址においてウッドサークルが発見された。直径80センチのクリ材を半割した柱10本を直径8mの円形に直立させた構造をもつ柱列址である。また石川県真脇遺跡の集落址では長さ2.5m、直径25cmの木柱に彫刻を施したトーテムポールが建てられていた。共に本例と同じ縄文中期に属する遺跡である。本例の位置は前述した環状形集落の東西中軸線上の西端に位置しており、前掲の諸遺跡と同じ柱列遺構と想定される。集落社会の共同施設として巨木を押し建てた風習が中部地方の中期文化に存在し本例もこれに属する遺構と考えられるのである。

④ 第VI地点の調査は、第VII地点の段丘北縁崖下8m、集落地北端から水平距離50mの大湧水地点で2ha余の湿地帯を形成していたことを判明させた。遺構は一部発掘のため検出でき得なかったが、後水期以来、湿地帯の植生が腐植生成された黒ボク土壌層でその中に4層にわたって縄文中期遺物包含層を形成していることを把握し得た。特に、段丘崖下の湿地帯周辺部の微高地は遺物包含層が50cm余の厚さでかなりの密度をもって散布しており、主として縄文中期土器と中世陶器が包含され、段丘上に立地する集落の人々が、水利用と生産活動面において高い依存度をこの地点に集中させていたことを立証していた。

黒ボク土壌の植物学的研究については今後の調査と考究を進めていきたい。

3 呪性を立証する遺構、遺物の様相について

① 土偶の出土状況についてであるが、集落址から11個体が出土しているがそのうち2個体は縄文人の意識的な埋蔵状態が認められた。一つは、第5号竪穴住居址に重複した第9号土壌内での上部に2個の配石があり、その直下の土壌内上部の位置に土偶が正位で顔面を西南に向けた状態で検出された。頸部以上の単体完品である。その右下部に口頸部を欠いた深鉢形土器が、逆位で出土した。曾利1式期に属する中形の深鉢形土器であり、小形石斧を伴っていた。土偶埋納の1例である。

二は、第20号軽穴住居址の中央部に設けられた方形石組炉の南側炉縁石の外縁に接してタタキ床面下3cmの位置に土偶頭部が頭頂部を斜下にして、顔面を上向きに埋納されていた。屋内炉の火と密接にかかわる土偶埋納の在り方で、天竜川右岸の飯島町尾越遺跡第13号住居址、第16号址等

の出土例と同類であり、埋納行為の根元となる信仰生活の在り方についての重要な資料である。

② 同じ第20号住居址内に認められた土器と石棒遺存状況についてである。床面中央に設けられた石組炉の東北80cmの距離にピット4とこれに南接するピット5(柱穴)があり、この二つのピットの上縁に大形石棒(長さ66cm・径47cm)が頭部を竪穴主軸と同じ中方向に向けて横転しており、それに接続して小形石棒(長さ22cm・径4cm)が並べられていた。(第73図)大形品は片麻岩の自然転石であるが、頭頂部を打調して亀頭部が作出されている。小形石棒は硬砂岩製の河原石である。遺存状態は床面と石棒上縁とはほぼ水平で明らかに埋納行為が認められる。この対角線上の位置即ち石組炉の西南80cmの位置にピット8がある。径60cm深さ45cmを測る穴の中に口径25cmの蛇体文深鉢が横転した状態で遺存していた。底部を欠失しているが、藤内II式期の土器である。この住居址は廃絶時に清掃されたのか床面出土の遺物は少いのかかわらず前記の通り土偶埋納も行われ、床面上から2個の土偶が出土した。頭部のみ計3点の出土である。この遺存状態は特異であり、住居址廃棄に伴う儀礼の表現と考えられる。類例としては、伊那市月見遺跡第29号址における顔面把手付深鉢と大石棒が炉を囲んで遺存していた例がある。今後類例の増加を待ちたい。

③ 第21号住居址の様相についてであるが、曾利II式期に属するこの竪穴式住居址は火災で焼失した状態がそのまま遺存されていた。(第76図)。上屋の架構材や屋根材の炭化物が床面の全面を覆い、その上面を粘土質の焼土が厚く覆い、時には35cm以上の厚さが認められた。不思議なことに炭化物や焼土は竪穴の外側には出ず、内部の全面を覆っていた。にもかかわらず床面中心の大形組石炉は破かいされた形跡が認められた。住居址の南西壁近くに特殊な遺物の配置が認められた。西南壁下床面にミニチュア土器、骨盤形に磨調された石器、南壁下に蓋石付埋甕、その東壁より青粘土にくるまれた肢骨状骨片数点が周溝に沿って配列されていた。発掘時に認められた以上の事象はまことに異例であり、何かの異状事態に伴う意識的な家屋焼却儀礼を思わせるものである。アイヌ族の古習俗の中に、配偶者死亡の際、葬儀の時に、家屋を焼却する儀礼を伴っていることも大いに参考になる。

④ 埋甕出土についてである。埋甕施設を伴った住居址は曾利式期の住居址23軒のうち11軒を数え、うち曾利II式期に属し、同期に埋甕習俗の盛行したことを物語っている。埋甕施設はいずれも南壁に位置しているが石蓋を伴うものと伴わないものと二分される。埋甕は、嬰兒の屋内葬あるいは胎盤の埋納という説が定説化しており、本遺跡でこの類例を増加したことは予想外の成果であった。

第2節 中世および近世の掘立柱式建物群について

① 中世の掘立柱建物址は確認されたもの6棟であるが、2群に分けられ中世中期4棟と同後期2棟である。室町中期の14世紀造営の建物は、第VII地点周縁が中世城郭の遺構を現存しておりその中心部に配置されていることやその構造、青磁、古瀬戸灰釉陶器の13世紀、14世紀末の遺物を伴うことから、この城郭の主體的建物であることが判明した。恐らく14世紀前半期の南北朝時代

における中沢郷地頭中沢氏の主城防衛のための副郭的地位をもった遺構と思われる。主殿（第3号址）、副殿（第2号址、第5号址）。倉庫（第8号址）で構成される。この時期の中沢氏の動向を証する14世紀代の香坂文書や大楽寺宝篋印塔が現存するが、現在不明の中沢氏の動向解明の有力資料として、本建物址を新しく提示したことになる。

室町後期の建物はその終末期のもので15世紀後半から16世紀初頭にかかる時期の掘立柱式建物第4号址と第1号址である。構造上広間をもつ比較的規模の大きい構造的な建物であり、併設的位置関係になる処からこの地点に伝誦される「法昌寺」の存在を如実に示す廃寺跡の建物二棟と断定した。恐らく城郭廃絶後、その敷地を利用して寺院建立が行われたものであろう。今後の周辺調査が必要である。特に南方500mに発見された小山居館址群の建物址群との比較研究が重要となる。

② 近世の掘立柱建物は発掘区北部に発見された第5号址と第7号址である。第7号址は江戸時代初期の17世紀前半、第5号址は18世紀前半期の造営と推定される。共に土間を広く持つ構造で農家住宅の特徴を持っている。近世の住宅の考古学調査は余り類例がない。現存する古民家の前段階の構造を示している点誠に貴重であり今後の重要資料として活用されたい。

文末ながら、高見原遺跡の今次発掘調査に当たり、県重要遺跡としての保存方について御懇篤な指導を賜った県教育委員会文化課担当者の方々、ならびに駒ヶ根市教育委員会社会教育担当者の方々に深い敬意を捧ぐると共に、遺跡の埋没保存等に御配慮戴いた県伊那地方事務所担当者、竜東土地改良組合の方々に謝意を表する次第である。

また、炎天下の発掘作業、厳冬中の遺物整理作業に連日御尽力頂いた酒井健次調査員・小町谷元調査員はじめ、多くの作業員の方々に心から篤く御礼を申し上げます。

昭和62年3月2日

調査団長 林 茂樹

駒ヶ根市民の皆さんへ

中沢地区の高見原遺跡の発掘調査事業に九箇月間携って見て今更ながらその範囲・規模の巨大さと内容の深さに驚歎しました。長野県の重要遺跡に認定されていた以上の予想外の大遺跡であったのです。

日本列島における河岸段丘地形の典型としての天竜川河岸段丘上に成立した遺跡だけあって、隣接する横山遺跡と合わせて10ヘクタールの広がりを持ち、その内容は1万年近い過去に始まる縄文時代の殆ど全期を通じ、以後弥生時代、古墳時代を経て、やがて日本の国が始まってからの歴史時代も平安時代から江戸時代に至る人々の文化遺産が連綿として、埋蔵されている遺跡であったのです。このような貴重な場所がほとんど無傷で保存されている遺跡は日本国中でも数少く僅かしか存在していません。駒ヶ根市内でも最近の諸開発事業で姿を消してしまいましたので、高見原遺跡は今や市の文化的宝物と言っても差し支えありません。

現代に生きる私どもとして高見原遺跡を破損することなく現在のままで、未来の人たちに伝えられるよう保存していく義務があると痛感します。

文化財保護行政として市当局の積極的に施策を要請すると共に、市民の皆さんの理解ある御支援と御協力を賜りますよう心からお願い申しあげる次第です。

昭和62年3月2日

高見原遺跡発掘調査団長

林 茂樹

第1地点

表1 住居址出土石器集計表

() 内数字は完形品の内数字を表す

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧			大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横形石器	横刃石器	石錘	石錐	削器及び搔器	P・S石器	不定形ハート石器	計	剥片	備考
			定角	蛤刃	乳棒																					
I	床面	16 (3)	1	2 (1)	1	4 (1)		2 (2)	8 (4)	4 (4)		1					1 (1)	3					11	50 (15)	35	原石1
	フク土																									
1住	小計	16 (3)	1	2 (1)	1	4 (1)		2 (2)	8 (4)	4 (4)	1						1 (1)	3					11	50 (15)	35	
	床面	24 (7)	1 (1)		1 (1)	2 (2)			6 (2)		1 (1)		3 (3)	1			2 (2)				1 (1)		4	45 (20)	35	
2住	フク土																				1 (1)			1		
	小計	24 (7)	1 (1)		1 (1)	2 (2)		6 (2)		1 (1)		3 (3)	1			2 (2)					2 (2)		4	46 (21)	35	
I	床面	27 (5)	1	1	2	2 (1)		1 (1)	18 (8)		5 (2)	2 (1)	2 (2)				4 (4)				1 (1)		7	70 (24)	93	石核1
	フク土																									
3住	小計	27 (5)	1	1	2	2 (1)		1 (1)	18 (8)		5 (2)	2 (1)	2 (2)				4 (4)				1 (1)		7	70 (24)	93	
	床面	19 (8)							1														4	40 (22)	49	石核1
I	床面	19 (8)							1														4	40 (22)	49	石核1
	フク土																									
4住	小計	19 (8)				2 (1)		12 (12)				2 (1)											4	40 (22)	49	
	床面																									

第IV地点

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧			大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横形石器	横刃石器	石錘	石錐	削器及び搔器	P・S石器	不定形ハート石器	計	剥片	備考
			定角	蛤刃	乳棒																					
IV	床面																						2	3 (1)		
	フク土																									
1住	小計																						2	3 (1)		
	床面																									

(1)

第Ⅵ地点

種別 住居址	打製 石斧	磨製石斧			大形粗 製石匙	小形 石匙	石鏃	敲打器	特殊 磨石	凹石	蜂の す石	石皿	石棒	横 形石器	石磯	石錐	削器 及び 搔器	P・S	不定形 石器	ハート 形石器	計	剥片	備考	
		定角	蛤刃	乳棒																				計
Ⅶ 1住	床面																		9		9	5	石核I	
	フク土																							
	小計																		9		9	5		
Ⅶ 2住	床面	25 (9)	2		1 (1)			6 (3)	1	1 (1)				3 (3)			2 (2)	1 (1)	19		61 (30)	58	石核I	
	フク土																							
	小計	25 (9)	2		1 (1)			6 (3)	1	1 (1)				3 (3)			2 (2)	1 (1)	19		61 (30)	58		
Ⅶ 4住	床面	5 (2)					3 (3)	4 (3)											3		15 (8)	27		
	フク土																							
	小計	5 (2)					3 (3)	4 (3)											3		15 (8)	27		
Ⅶ 5住	床面	2	1 (1)		1 (1)		1 (1)									1 (1)			7		14 (5)	10		
	フク土																							
	小計	2	1 (1)		1 (1)		1 (1)									1 (1)			7		14 (5)	10		
Ⅶ 7住	床面	2 (1)						3 (1)						1							6 (2)			
	フク土																		1		1			
	小計	2 (1)						3 (1)						1							6 (2)			
																			1		1			
																			1		7 (2)			

(2)

住居址	種別	打製石斧	磨製石斧			大形組石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃製石器	石礫	石錐	削器及び播器	P・S	不定形石器	ハート形石器	計	剥片	備考
			定角	給刃	乳棒																					
VII 8住	床面	2 (1)			1 (1)			2 (1)														4		9 (3)	3	
	フク土																									
	小計	2 (1)			1 (1)			2 (1)															4		9 (3)	3
VII 9住	床面	3	1 (1)		1 (1)		1 (1)		4 (2)		2 (1)						2 (1)			1 (1)		9		23 (7)	51	原石1
	フク土																	1 (1)						1 (1)		
	小計	3	1 (1)		1 (1)		1 (1)		4 (2)		2 (1)						2 (1)	1 (1)		1 (1)		9		24 (8)	51	
VII 10住	床面	13 (3)					1 (1)	9 (3)	2 (2)	1			2 (1)		1			1 (1)				24		54 (11)	31	原石1
	フク土	8 (2)					1 (1)	4 (1)		1		1 (1)										2		17 (5)	19	石核1
	小計	21 (5)					2 (2)	13 (4)	2 (2)	2		1 (1)	2 (1)		1			1 (1)				26		71 (61)	50	
VII 11住	床面	1										1 (1)										1		3 (1)	5	
	フク土		1	1	2			1					1 (1)											4 (1)	3	
	小計	1	1	1	2			1				1 (1)										1		7 (2)	8	
VII 12住	床面	15 (7)	2 (1)	1 (1)	3 (3)		4 (2)	2 (1)					2 (1)					1 (1)	1 (1)	1 (1)		14		45 (18)	46	石核1
	フク土																									
	小計	15 (7)	2 (1)	1 (1)	4 (3)		4 (2)	2 (1)					2 (1)					1 (1)	1 (1)	1 (1)		14		45 (18)	46	
VII 13住	床面	1					1 (1)					1								1 (1)		1		5 (2)	1	原石1
	フク土																									
	小計	1					1 (1)					1							1 (1)			1		5 (2)	1	

(3)

種別 住居址	打製石斧	磨製石斧			大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横形石器	石磯	石錐	削器及び搔器	P・S石	不定形ハート石器	計	剥片	備考		
		定角	蛤刃	乳棒																						
VII 14住	床面	9 (4)	1	1 (1)	2 (1)			2 (1)				4 (4)		1	1				1 (1)			5	25 (11)	34	石椽3	
	フク土																									
VII 15住	小計	9 (4)	1	1 (1)	2 (1)			2 (1)				4 (4)		1	1				1 (1)			5	25 (11)	34		
	床面	4 (1)	1 (1)		1			4 (2)						1								7	19 (4)	30		
	フク土	6	1	1 (1)	2 (1)		1 (1)	2 (2)																12 (5)	12	
	小計	10 (1)	2 (1)	1 (1)	4 (2)		1 (1)	6 (4)						1								7	31 (9)	42		
VII 16住	床面	27 (10)			5 (1)		3 (3)	10 (6)	6 (6)			3 (2)					1 (1)		3 (2)		12	70 (29)	91			
	フク土																1 (1)	1 (1)	2 (2)				4 (4)			
	小計	27 (10)			5 (1)		3 (3)	10 (6)	6 (6)			3 (2)					2 (2)	1 (1)	5 (4)		12	74 (33)	91			
VII 17住	床面				1 (1)		1 (1)																2 (2)	1		
	フク土																									
	小計				1 (1)		1 (1)																2 (2)	1		
VII 18住	床面	11 (3)					1 (1)	3 (1)	2 (2)			1 (1)									3	21 (8)	32	石椽2 原石		
	フク土	6			1 (1)			2	1 (1)														10 (2)	10		
	小計	17 (3)			1 (1)		1 (1)	5 (3)	3 (3)			1 (1)									3	31 (10)	42			
VII 19住	床面	22 (4)	1	1 (1)	2 (1)		2 (2)	12 (6)	2 (2)	1 (1)	3 (2)			1	1	2 (2)	4 (2)		3 (3)		10	65 (25)	68	石椽1		
	フク土																		1 (1)				1 (1)	5		
	小計	22 (4)	1	1 (1)	2 (1)		2 (2)	12 (6)	2 (2)	1 (1)	3 (2)			1	1	2 (2)	4 (2)		4 (4)		10	66 (26)	73			

(4)

種別 住居址	打製石斧	磨製石斧			大形組 製石匙	小形 石匙	石錘	敲打器	特殊 磨石	特殊 磨石	特殊 磨石	蜂の す石	石皿	石棒	横刃 形石器	石磯	石錐	脚器 及び 掻器	P・S	不定形 石器	ハート 形石器	計	剥片	備考	
		定角	蛤刃	乳棒																					
Ⅶ 20住	床面	12 (3)	1	1	2	1 (1)	1 (1)	4 (3)				1 (1)			2 (2)			1 (1)		6			30 (12)	65	
	7ク土	4 (1)						5 (1)	1														10 (2)	14	
	小計	16 (4)	1	1	2	1 (1)	1 (1)	9 (1)	1	1		1 (1)			2 (2)			1 (1)		6			40 (14)	79	
Ⅶ 21住	床面	13 (3)	2 (2)	2	5 (4)	2 (2)	2 (1)	3 (3)	6 (1)	1 (1)	3	2 (2)	1		1 (1)	2 (2)		2 (2)		19	1 (1)		63 (24)	44	石核5
	7ク土	27 (6)				1 (1)	2 (2)	6 (5)	4														40 (14)	46	
	小計	40 (9)	2 (2)	2 (2)	5 (4)	3 (3)	4 (4)	9 (4)	10 (3)	1 (1)	3	2 (2)	1		1 (1)	2 (2)		2 (2)		19	1 (1)		103 (38)	90	
Ⅶ 22住	床面																			4			4		
	7ク土																								
	小計																			4			4		
Ⅶ 23住	床面																								
	7ク土	7 (3)				1			1 (1)											1			10 (4)	12	
	小計	7 (3)				1			1 (1)											1			10 (4)	12	
Ⅶ 24住	床面	5 (3)					5 (5)	3 (1)	4 (4)	1 (1)										8			26 (14)	54	
	7ク土	2 (1)						1 (1)	2 (2)	1 (1)												6 (5)	4	石核1	
	小計	7 (4)					5 (5)	4 (2)	6 (6)	1 (1)										8			32 (19)	58	
Ⅶ 25住	床面	14 (6)			2	1 (1)	2 (2)	8 (5)							2 (2)	1				10			41 (11)	59	
	7ク土																								
	小計	14 (6)			2	1 (1)	2 (2)	8 (5)							2 (2)	1				10			41 (11)	59	

(5)

種別 住居址	打製石斧	磨製石斧			大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊敲打器	磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横形石器	石礮	石錐	削器及び搔器	P・S	不定形石器	ハート形石器	計	剥片	備考
		定角	蛤刃	乳棒																					
VII 26住	床面	5 (1)						1		1						1							8 (1)	9	
	フク土																								
	小計	5 (1)						1		1						1							8 (1)	9	
VII 27住	床面	1																					1		
	フク土																								
	小計	1																					1		
VII 28住	床面	24 (11)		1	1			12 (9)	3 (1)	1						1 (1)							49 (22)	175	原石3
	フク土																								
	小計	24 (11)		1	1			12 (9)	3 (1)	1						1 (1)							49 (22)	175	
VII 29住	床面	11 (3)			1 (1)											3 (3)							19 (9)	26	
	フク土																								
	小計	11 (3)			1 (1)											3 (3)							19 (9)	26	
VII 30住	床面	9 (4)						3 (2)												1 (1)	1 (1)		22 (9)	25	石椽5
	フク土	3 (1)																					4 (2)	5	
	小計	12 (5)						3 (2)												1 (1)	1 (1)		26 (11)	30	
VII 31住	床面																						8		
	フク土																								
	小計																						8		

(6)

種別 住居址	打製石斧	磨製石斧			大形組 製石匙	小形 石匙	石錘	敲打器	特殊 敲打器	特殊 磨石	特殊 磨石	凹石	蜂の す石	石皿	石棒	横 形石器	石 錐	削器 及び 種器	P・S	不定形ハート 石器	計	剥片	備考	
		定角	蛤刃	乳棒																				
VII 32住	床面	9 (3)		1	1 (1)		1 (1)	2 (2)								1 (1)	1 (1)			15	31 (9)	70		
	フク土	2 (1)					3															5 (1)	13	
	小計	11 (4)		1	1 (1)		1 (1)	5 (5)									1 (1)	1 (1)			15	36 (10)	83	
VII 33住	床面	1					2 (1)									1 (1)	2 (2)			15	21 (4)	2	黒耀石 原石1	
	フク土	9 (4)			2 (2)		7 (4)	1 (1)		2 (1)						1 (1)						24 (15)	102	
	小計	10 (4)			2 (2)		2 (2)	9 (5)	1 (1)	2 (1)						2 (2)	2 (2)			15	45 (19)	104		
VII 35住	床面	16 (3)		2 (2)	3 (3)		2 (3)		1 (1)											5	32 (12)	76		
	フク土																							
	小計	16 (3)		2 (2)	3 (3)		3 (3)	2 (1)												5	32 (12)	76		
VII 36住	床面	1		1			2 (2)	1 (1)												2	7 (3)	9		
	フク土																							
	小計	1		1			2 (2)	1 (1)												2	7 (3)	9		
VII 37住	床面	2 (2)		1 (1)	1		1 (1)												1	4	9 (3)	29	原石1	
	フク土																							
	小計	2 (2)		1 (1)	1		1 (1)												1	4	9 (3)	29		
VII 38住	床面	3			1 (1)		1 (1)	1		1 (1)			1							1	11 (5)	6		
	フク土																							
	小計	3			1 (1)		1 (1)	1		1 (1)			1							1	11 (5)	6		

(7)

種別 住居址	打製石斧	磨製石斧				大形粗製石匙	小形石匙	石錘	敲打器	特殊磨石	特殊磨石	凹石	蜂のす石	石皿	石棒	横刃石器	石礫	石錐	削器及び掻器	P・S石器	不定形石器	ハート形石器	計	剥片	備考
		定角	給刃	乳棒	計																				
VII 39住	床面	12 (3)		2 (2)	2 (2)			2	1										2 (2)		5		24 (7)		黒曜石 原石
	フク土																								
	小計	12 (3)		2 (2)	2 (2)			2	1											2 (2)		5		24 (7)	
VII 40住	床面							1	1				1										3 (2)	1	
	フク土																								
	小計							1	1				1										3 (2)		
VII 41住	床面	1								1													2	4	
	フク土																								
	小計	1								1													2	4	
	床面																								
	フク土																								
	小計																								
	床面																								
	フク土																								
	小計																								
	床面																								
	フク土																								
	小計																								

住居址石器属性表

I-1住

()は欠損値

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(14.0)	6.61	3.08	380	砂岩	頭部欠損	
2	"	"	"	(8.1)	4.98	0.94	46	粘板岩	刃部欠損	
3	"	"	b	(7.0)	4.68	2.95	130	硬砂岩	"	
4	"	"	"	11.1	4.47	1.28	70	"	完形	
5	"	"	"	6.9	3.68	2.38	80	"	刃部欠損	
6	"	"	"	9.4	4.19	2.05	111	"	完形	
7	"	"	"	7.1	2.95	1.10	34	緑色岩	頭部欠損	
8	"	"	"	(4.7)	3.78	1.29	30	硬砂岩	刃部欠損	
9	"	"	"	(4.4)	4.25	1.62	40	"	"	
10	"	"	"	(4.9)	4.69	1.98	54	"	"	
11	"	"	"	12.4	4.47	1.69	112	"	完形	
12	"	"	a	(9.6)	3.28	1.58	76	粘披岩	頭部欠損	
13	"	"	"	(7.8)	3.96	0.89	42	"	"	
14	"	"	d	(7.7)	3.85	1.40	54	緑色岩	刃部欠損	
15	"	"	b	(11.7)	2.92	1.05	52	硬砂岩		未製品
16	"	"	d	(7.0)	4.18	1.38	54	"	下部欠損	
17	"	磨製石斧	定角	(4.5)	1.79	0.8	10	チャート		未製品
18	"	"	蛤刃	9.1	4.28	1.90	114	輝緑岩	完形	
19	"	"	"	(8.6)	4.71	3.85	274	凝灰岩	頭部欠損	
20	"	"	乳棒	12.0	3.08	2.00	146	"	一部欠損	
21	"	敲打器	a	7.8	3.39	3.15	122	硬砂岩	完形	
22	"	"	"	12.8	4.65	3.62	328	"	頭部欠損	
23	"	"	"	12.0	5.98	4.35	464	"	完形	
24	"	"	"	11.2	3.85	1.91	130	緑色岩	"	
25	"	"	b	10.5	5.18	2.34	188	"	片側欠損	
26	"	"	"	(6.7)	3.60	2.79	109	"	"	
27	"	"	c	9.1	2.42	1.35	47	"	完形	
28	"	"	"	5.2	4.89	1.65	56	"	頭部欠損	
29	"	横刃形	a	6.2	10.68	1.49	108	硬砂岩	完形	
30	"	特殊敲打器	"	7.6	8.83	2.61	222	"	"	
31	"	"	"	7.1	11.79	3.52	360	"	"	
32	"	"	"	6.1	7.91	1.78	132	緑色岩	"	
33	"	"	"	54	668	2.22	130	安山岩	"	
34	"	特殊磨石	"	(4.1)	5.69	1.31	54	緑色岩	片側欠損	
35	"	石錘	礫	6.3(5.9)	5.45	2.30	123	硬砂岩	完形	
36	"	"	"	7.0(6.9)	5.12	1.74	102	"	"	
37	"	原石	"	7.5	2.67	2.45	58.1	黒岩	完形	
38	"	石礮	C ₁	2.8	(16.4)	0.37	1.3	チャート	基部先端部欠	
39	"	"	"	(2.4)	(1.48)	0.33	1.1	黒耀岩	"	
40	"	"	C ₂	(1.8)	1.32	0.35	0.4	"	"	

I-2住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(5.5)	5.39	1.78	76	硬砂岩	胴部のみ	
2	"	"	b	9.5	4.70	1.32	72	"	完形	
3	"	"	"	(7.3)	4.69	1.71	56	"	刃部欠損	
4	"	"	"	11.5	4.02	1.45	76	"	完形	
5	"	"	"	7.8	4.88	2.20	108	"	頭部欠損	
6	"	"	"	5.9	4.49	2.00	64	"	胴部のみ	
7	"	"	"	(8.8)	3.95	1.11	58	"	頭部欠損	
8	"	"	"	(6.4)	3.81	1.35	42	"	刃部欠損	

9	床	打製石斧	b	(10.4)	5.35	1.90	132	緑色岩	刃部欠損	
10	"	"	"	(13.8)	5.02	2.62	247	砂岩	頭部欠損	
11	"	"	"	(10.1)	4.25	1.50	68	緑色岩	刃部	"
12	"	"	"	(9.5)	3.31	1.18	58	粘板岩	頭部	"
13	"	"	"	(7.5)	5.29	1.45	72	砂岩	刃部	"
14	"	"	c	12.9	528	2.26	168	硬砂岩	完形	
15	"	"	"	(9.7)	5.49	1.81	118	"	刃部欠損	
16	"	"	"	(8.5)	4.98	1.68	100	"	"	
17	"	"	"	(6.2)	4.91	1.10	42	"	"	
18	"	"	d	11.5	5.60	1.75	160	"	完形	
19	"	"	"	(6.8)	4.42	1.72	77	"	頭部欠損	
20	"	"	"	10.4	3.85	1.89	90	"	完形	
21	"	"	"	7.3	4.87	7.90	78	"	"	
22	"	"	"	9.5	5.31	1.91	130	"	"	
23	"	"	"	(10.0)	4.00	1.00	64	緑色岩	刃部欠損	
24	"	"	"	(8.3)	4.62	1.75	85	硬砂岩	"	
25	"	磨製石斧	定角	8.9	3.45	1.32	76	緑色岩	完形	
26	"	大形石匙	c	8.0	8.85	1.73	126	硬砂岩	"	
27	"	"	b	3.4	8.48	1.21	46	"	"	
28	"	横刃形	a	7.4	11.55	1.41	158	"	"	
29	"	"	c	5.3	11.85	1.75	130	緑色岩	"	
30	"	敲打器	a	14.0	(3.15)	3.80	225	硬砂岩	片側欠損	
31	"	"	"	(7.1)	5.08	3.62	192	凝灰岩	片側欠損	
32	"	"	"	7.0	2.08	0.98	26	緑色岩	破片	
33	"	"	"	13.3	6.00	5.82	750	硬砂岩	完形	
34	"	"	"	25.5	7.15	5.95	1900	"	"	一面磨いてある
35	"	"	b	6.8	(1.18)	(1.42)	27	緑色岩	破片	
36	"	磨石	"	8.8	10.31	4.18	600	花崗岩	完形	
37	"	凹石	"	6.1	10.10	4.40	445	"	"	1孔と2孔
38	"	"	"	8.3	12.20	5.22	750	"	"	各2孔
39	"	"	"	9.5	10.62	5.12	900	"	"	各3孔
40	"	石皿	"	(14.8)	17.60	6.41	2750	"	半折	
41	床	円形搔器	c ₂	2.2	1.79	0.46	1.9	黒耀石	完形	
42	フク土	削器	B	2.5	2.73	6.4	4.5	"	"	

I-3住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(8.6)	5.41	2.26	140	硬砂岩	胴部のみ	
2	"	"	b	8.9	3.92	1.85	76	"	完形	
3	"	"	"	9.7	3.89	1.48	80	"	頭部欠損	
4	"	"	"	7.4	4.75	2.05	88	"	刃部欠損	
5	"	"	"	8.5	4.45	2.52	182	凝灰岩	頭部欠損	
6	"	"	"	11.9	4.75	2.05	150	緑色岩	"	
7	"	"	d	7.2	5.20	1.05	54	砂岩	刃部欠損	
8	"	"	b	(5.8)	4.48	1.89	80	硬砂岩	頭部欠損	
9	"	"	"	(7.5)	4.85	1.55	64	"	刃部欠損	
10	"	"	"	11.9	4.41	2.28	199	緑色岩	完形	
11	"	"	"	(10.6)	4.35	2.72	182	"		未製品
12	"	"	"	(8.7)	3.12	1.45	57	硬砂岩	刃部欠損	
13	"	"	"	12.3	6.42	1.81	138	緑色岩		未製品
14	"	"	c	(9.1)	4.72	1.81	106	硬砂岩	刃部欠損	
15	"	"	"	(7.1)	4.25	1.50	58	"	"	
16	"	"	"	(7.7)	4.21	1.50	56	"	"	
17	"	"	"	(8.8)	4.75	1.49	84	"	"	

18	床	打製石斧	c	(5.4)	5.31	0.95	46	硬砂岩	刃部欠損	
19	"	"	"	(8.0)	3.29	1.24	24	緑色岩	"	
20	"	"	"	14.0	5.65	1.98	216	硬砂岩	完形	
21	"	"	d	(11.8)	5.72	1.41	94	"	頭部欠損	
22	"	"	"	11.2	4.75	1.52	102	"	完形	
23	"	"	"	9.5	3.90	1.30	50	"	刃部欠損	
24	"	"	"	(7.2)	4.95	1.50	64	粘板岩	頭部下損	
25	"	"	"	(7.8)	4.05	1.89	58	硬砂岩	"	
26	"	磨製石斧	定角	(6.7)	3.08	1.31	52	緑色岩	"	
27	"	大形石匙	d	9.7	5.52	1.58	80	硬砂岩		未製品
28	"	石 錘	磔	6.6(6.3)	5.78	1.75	94	"	完形	
29	"	敲 打 器	a	13.2	5.41	3.6	385	"	"	
30	"	"	"	9.1	3.10	1.70	70	緑色岩	片面欠損	
31	"	"	b	13.7	5.92	6.30	750	"	完形	
32	"	"	"	8.0	6.70	3.8	245	"	"	
33	"	"	a	9.5	3.81	3.25	182	硬砂岩	"	
34	"	"	"	6.1	(1.72)	1.71	28	"	片側欠損	
35	"	"	"	6.2	4.85	2.3	92	"	完形	
36	"	"	b	(7.8)	5.65	5.15	305	緑色岩	頭部欠損	
37	"	"	"	(8.4)	5.61	3.51	282	"	"	
38	"	"	"	14.3	6.72	6.10	1000	"	完形	
39	"	"	"	(6.4)	(3.50)	3.50	146	"	破片	
40	"	"	"	88	7.15	2.65	230	"	両面欠損	
41	"	"	"	10.1	5.85	1.55	146	緑色岩	両面欠損	
42	"	"	a	(12.6)	4.29	3.45	256	硬砂岩	完形	三面磨いてる
43	"	"	"	9.1	2.55	1.57	64	"	"	
44	"	"	b	7.1	3.65	1.81	72	緑色岩	"	
45	"	"	"	(4.5)	5.15	3.50	122	"	頭部欠損	
46	"	"	c	(11.5)	4.85	3.10	296	"	"	
47	"	凹 石		12.9	7.30	4.71	660	花崗岩	完形	片面に2孔
48	"	"		8.3	8.85	4.02	415	"	"	両面に1ヶずつ
49	"	磨 石		9.1	10.72	4.62	700	"	片側欠損	
50	"	"		(5.1)	5.51	(2.48)	80	硬砂岩	破片	
51	"	"		4.8	3.45	3.50	84	花崗岩	完形	
52	"	"		(5.8)	7.10	1.89	124	硬砂岩	片側欠損	
53	"	"		10.0	13.21	4.70	920	片麻岩	完形	
54	"	特殊磨石		(7.6)	9.21	4.70	398	硬砂岩	頭部欠損	
55	"	"		4.0	2.68	0.96	18	砂岩	完形	
56	"	横 刃 形	c	6.2	9.91	1.30	93	硬砂岩	"	
57	"	"	"	6.3	9.62	1.38	95	"	"	
58	"	"	d	6.0	9.81	1.52	108	"	"	
59	"	"	a	5.1	10.0	1.28	84	"	"	
60	"	円形搔器		1.5	1.95	0.48	1.4	黒耀石	"	
61	"	打製石斧	b	8.1	4.14	1.12	54	硬砂岩	頭部欠損	
62	"	"	c	8.9	3.89	1.68	74	"	完形	
63	"	磨製石斧	蛤刃	(10.2)	4.58	2.58	220	緑色岩	頭部欠損	

I-4住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	4.8	12.82	2.41	240	緑色岩	完形	
2	"	"	"	9.0	4.41	1.49	86	"	刃部欠損	
3	"	"	"	(7.5)	4.62	1.25	70	緑色岩	頭部欠損	
4	"	"	"	(7.3)	3.96	0.75	29	"	片側欠損	
5	"	"	"	4.2	6.94	13.5	168	硬砂岩	完形	

6	床	打製石斧	b	(11.3)	8.04	11.4	232	硬砂岩	刃部欠損
7	"	"	"	12.2	4.45	1.52	112	"	完形
8	"	"	"	9.6	4.05	1.98	98	安山岩	"
9	"	"	c	9.7	4.40	1.05	68	安砂岩	"
10	"	"	"	10.2	4.61	1.20	87	硬砂岩	"
11	"	"	"	(6.2)	5.41	2.08	80	"	刃部欠損
12	"	"	b	(5.7)	5.45	2.75	122	"	胴部のみ
13	"	"	"	(7.3)	5.52	2.03	104	"	頭部欠損
14	"	"	"	(4.5)	4.52	1.70	52	"	刃部欠損
15	"	"	c	(9.3)	5.35	0.98	80	粘板岩	"
16	"	"	"	11.8	3.72	2.20	120	硬砂岩	完形
17	"	"	d	(8.7)	3.88	1.47	66	"	頭部欠損
18	"	"	"	(5.7)	5.65	2.50	96	砂岩	胴部のみ
19	"	"	"	10.3	5.50	1.21	98	"	完形
20	"	大形石匙	a	(10.5)	4.35	1.19	72	粘板岩	刃部欠損
21	"	"	c	11.1	4.72	1.50	100	凝灰岩	完形
22	"	石錘	礫	7.3(7.2)	6.22	1.81	100	硬砂岩	"
23	"	"	"	8.1(7.8)	5.58	2.18	132	"	"
24	"	"	"	7.3(6.7)	5.61	2.19	132	"	"
25	"	"	"	7.5(6.9)	5.29	1.84	104	"	"
26	"	"	"	6.1(5.8)	4.32	2.11	82	"	"
27	"	"	"	7.6(7.0)	4.85	1.62	92	"	"
28	"	"	"	5.8(5.2)	5.14	1.69	67	"	"
29	"	"	"	6.2(5.5)	4.91	1.92	88	"	"
30	"	"	"	8.8(8.5)	5.12	2.12	156	"	"
31	"	"	"	5.9(5.4)	4.69	1.55	50	"	"
32	"	"	"	3.7(3.5)	3.13	0.95	16	"	"
33	"	"	"	5.6(5.3)	4.91	1.35	55	砂岩	"
34	"	敲打器	b	9.2	7.75	4.15	322	硬砂岩	片側欠損
35	"	特殊磨石		(5.0)	(7.45)	4.05	132	"	破片
36	"	"		4.2	4.35	1.80	53	"	完形

IV-1住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	石礫	a	2.3	1.55	0.54	1.9	黒耀石	完形	

VII-2住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(7.1)	4.11	1.82	77	硬砂岩	刃部欠損	
2	"	"	"	(6.5)	5.90	2.01	112	"	"	
3	"	"	"	(8.2)	4.42	1.92	80	"	頭部欠損	
4	"	"	"	9.7	2.87	1.30	52	粘板岩	完形	
5	"	"	b	(7.9)	4.78	1.39	72	硬砂岩	刃部欠損	
6	"	"	"	(7.1)	4.43	1.52	74	"	"	
7	"	"	"	(5.6)	4.45	1.59	48	"	"	
8	"	"	"	12.9	4.52	1.66	140	"	完形	
9	"	"	"	(8.2)	5.19	2.18	126	"	頭部欠損	
10	"	"	"	11.7	4.42	1.52	110	"	完形	
11	"	"	"	(5.4)	4.72	1.12	34	"	頭部欠損	
12	"	"	"	10.2	4.58	1.52	78	"	完形	
13	"	"	"	(7.7)	3.72	1.92	60	"	頭部欠損	
14	"	"	"	10.9	4.10	1.31	66	"	完形	
15	"	"	"	(9.5)	4.15	1.89	74	"	頭部欠損	
16	"	"	"	(5.7)	3.58	1.05	24	緑色岩	"	
17	"	"	"	11.0	4.05	1.89	98	"	完形	

VII-7住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	c	6.8	4.23	1.01	50	緑色岩	完形	
2	"	"	d	(6.9)	3.95	0.80	28	"	刃部欠損	
3	"	敲打器	a	5.9	2.74	1.21	30	硬砂岩	完形	
4	"	"	b	7.2	4.35	2.10	88	"	片側欠損	
5	"	"	"	(7.2)	(4.48)	1.09	50	緑色岩	破片	
6	"	横刃形	d	8.1	(9.82)	1.25	145	"	片側欠損	

VII-8住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(7.9)	4.69	1.05	52	硬砂岩	胴部のみ	
2	"	"	"	12.1	5.21	1.41	120	緑色岩	完形	
3	"	大形石匙	"	6.4	7.89	0.92	62	"	"	
4	"	敲打器	"	10.8	5.62	5.58	482	硬砂岩	"	
5	"	"	"	6.9	4.28	1.70	64	凝灰岩	破片	

VII-9住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(7.7)	4.31	1.65	78	硬砂岩	頭部欠損	
2	"	"	"	(9.9)	4.81	1.90	120	"	"	
3	"	"	d	(8.5)	5.70	2.18	142	"	"	
4	"	磨製石斧	蛤刃	11.0	4.65	2.67	250	緑色岩	完形	
5	"	石錘	礫	5.8(5.7)	4.05	1.55	52	砂岩	"	
6	"	磨石		8.9	9.85	2.98	384	硬砂岩	"	
7	"	"	"	(4.7)	(4.69)	6.10	246	"	破片	
8	"	特殊敲打器	a	6.3	3.85	1.52	54	"	完形	
9	"	"	c	8.7	7.68	(2.35)	240	緑色岩	片面欠損	
10	"	"	"	7.5	6.45	1.02	82	"	"	
11	"	"	a	4.2	3.62	1.90	36	硬砂岩	完形	
12	"	横刃形	c	6.4	9.89	1.52	82	"	"	
13	"	"	"	5.5	(10.43)	0.85	60	砂岩	片側欠損	
14	"	円形搔器	c ₂	1.7	1.91	0.64	2.6	黒耀石	完形	
15	フク土	石礫	"	2.8	1.82	0.56	2.0	"	"	

VII-10住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	b	(9.4)	3.88	2.52	128	緑色岩	頭部欠損	
2	"	"	"	(8.6)	6.40	0.79	60	砂岩	"	
3	"	"	"	(4.6)	4.58	1.42	40	硬砂岩	胴部のみ	
4	"	"	"	8.2	4.71	1.92	102	緑色岩	"	
5	"	"	"	10.4	4.28	1.19	70	"	完形	
6	"	"	d	9.4	3.25	1.49	52	硬砂岩	刃部欠損	
7	"	"	"	9.7	3.51	1.31	48	"	完形	
8	"	"	"	(7.8)	4.48	1.19	60	緑色岩	頭部欠損	
9	"	石錘	礫	5.3(4.9)	3.72	1.42	43	硬砂岩	完形	
10	"	敲打器	b	10.9	5.82	4.30	466	緑色岩	"	
11	"	"	"	6.7	3.45	2.27	80	"	両側欠損	
12	"	"	"	6.5	4.85	(1.85)	82	硬砂岩	片面欠損	
13	"	"	"	(5.6)	3.80)	1.75	37	緑色岩	破片	
14	"	磨石		7.4	5.08	4.09	114	硬砂岩	"	
15	"	特殊磨石		3.3	3.42	0.89	16	砂岩	完形	
16	床	打製石斧	a	12.6	3.97	1.92	114	硬砂岩	"	

17	床	打製石斧	b	4.4	10.65	1.95	109	"	頭部欠損	両面みがき
18	"	"	d	(9.3)	4.85	1.85	98	"	胴部のみ	
19	"	"	b	10.9	4.98	2.41	172	"	完形	
20	"	"	"	8.5	4.69	2.32	107	"	頭部欠損	
21	"	"	"	(7.9)	4.87	1.80	88	砂岩	刃部欠損	
22	"	"	"	(7.6)	4.65	2.15	98	"	"	
23	"	"	"	(7.1)	5.41	1.77	103	安山岩	頭部欠損	
24	"	"	"	(10.4)	5.19	2.15	146	硬砂岩	"	
25	"	"	"	9.8	3.95	1.93	100	砂岩	完形	
26	"	"	"	(7.1)	4.46	1.91	72	緑色岩	頭部欠損	
27	"	"	d	(8.5)	(3.60)	2.12	70	"	胴部のみ	
28	"	"	"	7.9	4.89	1.10	55	砂岩	頭部欠損	
29	"	石錘	礫	5.3(5.1)	4.25	1.50	54	硬砂岩	定形	
30	"	敲打器	a	14.7	(4.39)	1.61	138	緑色岩	片面欠損	
31	"	"	c	11.6	2.8	2.71	122	"	完形	
32	"	"	"	(8.8)	7.29	5.60	480	凝灰岩	頭部欠損	
33	"	"	b	(8.5)	11.95	6.35	850	緑色岩	"	
34	"	"	"	11.9	8.81	3.97	600	"	完形	
35	"	"	"	(7.2)	(5.81)	3.62	226	"	頭部、片側欠	
36	"	"	"	9.4	7.65	3.05	222	"	完形	
37	"	"	a	(14.4)	(2.50)	4.35	164	"	片面欠損	
38	"	"	c	10.7	5.78	2.75	305	安山岩	頭部欠損	
39	"	特殊敲打器	b	5.7	4.60	1.52	74	緑色岩	完形	
40	"	"	a	5.4	6.38	2.50	123	硬砂岩	"	
41	床	磨石		9.5	6.00	3.92	338	花岗岩	頭部欠損	
42	"	凹石		8.1	10.39	4.59	600	"	定形	
43	"	"		9.9	(6.41)	5.85	550	"	破片	
44	"	石棒		11.9	12.1	8.81	1950	硬砂岩	破片	
45	"	石礫	c ₁	1.3	1.89	0.39	1.0	黒耀石	完形	

VII-11住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	磨製石斧	乳棒	(13.3)	4.58	2.70	276	凝灰岩	頭部欠損	両面に各2孔
2	"	"	蛤刃	(8.5)	5.15	2.95	220	"	"	
3	"	敲打器	b	(8.4)	2.60	1.38	34	緑色岩	破片	
4	"	凹石		5.8	10.65	4.30	390	花岗岩	完形	
5	床	打製石斧	b	(10.4)	4.89	1.82	150	凝灰岩	刃部欠損	
6	"	特殊磨石	a	8.8	11.26	2.35	378	硬砂岩	完形	

VII-12住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(8.9)	4.50	2.42	126	緑色岩	刃部欠損	
2	"	"	b	(10.5)	5.02	1.62	106	硬砂岩	"	
3	"	"	"	10.4	4.82	1.99	134	"	完形	
4	"	"	"	11.8	4.92	1.72	152	"	"	
5	"	"	"	(7.6)	4.38	1.50	68	"	頭部欠損	
6	"	"	"	10.7	6.45	1.71	115	"	完形	
7	"	"	"	10.0	4.81	0.92	54	"	頭部欠損	
8	"	"	"	10.6	4.58	1.61	114	粘板岩	刃部欠損	
9	"	"	"	10.4	5.01	1.60	118	"	完形	
10	"	"	"	12.7	5.15	1.80	128	硬砂岩	完形	

11	床	打製石斧	d	(6.3)	4.82	2.56	86	"	頭部欠損	
12	"	"	"	5.7	4.12	1.38	38	"	"	
13	"	"	b	(3.5)	(3.21)	1.38	23	粘板岩	破片	
14	"	"	c	10.2	4.20	1.72	80	"	完形	
15	"	"	"	10.3	4.21	1.35	84	"	"	
16	"	磨製石斧	定角	9.72	4.22	0.95	104	綠色岩	"	
17	"	"	"	11.8	6.05	2.42	325	流紋岩	"	
18	"	"	乳棒	21.4	5.86	3.82	850	綠色岩	"	
19	"	"	蛤刃	18.7	5.10	3.71	600	凝灰岩	"	
20	"	小形石匙		3.2	2.58	0.72	15.0	黒耀石		未製品
21	"	敲打器	a	7.4	5.22	2.70	152	硬砂岩	頭部欠損	
22	"	"	b	(5.5)	8.61	2.68	142	"	"	
23	"	"	"	8.9	5.62	3.81	304	綠色岩	完形	
24	"	"	c	10.7	2.85	2.32	116	"	"	
25	"	特殊敲打器	b	10.7	2.85	2.32	116	"	"	
26	"	"	a	(7.1)	6.05	2.53	166	硬砂岩	頭部欠損	
27	"	凹石		(10.5)	6.21	3.26	340	"	"	両面に各1孔
28	"	"		10.5	7.31	4.68	450	花崗岩	完形	1孔と2孔
29	"	石礮	c	0.6	1.47	0.34	0.8	黒耀石	"	
30	"	石錐	b ₄	2.7	1.16	0.5	1.2	"	"	
31	"	搔器	a	2.9	2.07	0.5	5.0	"	"	

VII-13住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(10.9)	5.52	2.45	208	硬砂岩	頭部欠損	
2	"	敲打器	"	12.5	4.35	4.21	365	綠色岩	完形	
3	"	特殊磨石		(12.9)	4.32	3.89	280	硬砂岩	破片	
4	"	抉入搔器		4.7	3.70	2.07	26.1	黒耀石	完形	

VII-14住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	8.7	5.21	1.90	89	硬砂岩	完形	
2	"	"	"	(8.9)	4.82	2.15	132	"	刃部欠損	
3	"	"	"	(7.5)	4.55	2.10	92	"	胴部のみ	
4	"	"	"	12.6	3.68	1.78	118	綠色岩	完形	
5	"	"	"	11.5	5.98	1.59	156	砂岩	"	
6	"	"	"	(8.3)	3.49	1.12	46	"	頭部欠損	
7	"	"	c	9.7	4.70	1.05	66	綠色岩	完形	両面刃部にみがき
8	"	"	d	(10.2)	4.81	1.71	106	"	刃部欠損	
9	"	"	b	(13.9)	4.62	2.65	220	硬砂岩	頭部欠損	
10	"	磨製石斧	定角	(10.7)	6.11	2.81	330	頁岩	"	
11	"	"	蛤刃	15.7	4.29	3.55	400	綠色岩	完形	
12	"	敲打器	a	16.3	5.05	2.92	328	"	"	
13	"	"	c	11.3	7.35	3.28	430	"	敲打部欠損	
14	"	凹石		9.4	12.13	4.81	600	花崗岩	完形	両面に各1孔
15	"	"		8.8	10.31	3.26	416	"	"	2孔と1孔
16	"	"		8.2	12.10	4.10	600	"	"	両面に各2孔
17	"	"		8.2	8.42	4.58	483	"	"	片面に1孔
18	"	石皿		6.0	9.12	6.65	520	"	破片	
19	"	石棒		(3.0)	7.12	2.95	166	硬砂岩	"	
20	"	搔器	a	2.9	1.77	0.77	3.2	黒耀石	完形	

VII-15住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	d	(9.7)	8.81	2.68	307	硬砂岩	胴部のみ	
2	"	"	"	(14.7)	5.19	1.58	154	"	頭部欠損	
3	"	"	"	(8.7)	4.15	1.20	66	緑色岩	"	
4	"	"	"	(8.8)	4.52	1.40	58	"	胴部のみ	
5	"	"	"	(7.1)	3.78	1.10	34	硬砂岩	刃部欠損	
6	"	"	a	(6.9)	3.42	0.89	40	安山岩	頭部欠損	
7	"	磨製石斧	蛤刃	11.2	4.15	2.83	214	凝灰岩	完形	
8	"	"	定角	(6.8)	4.41	1.45	78	"	頭部欠損	
9	"	石錘	磔	3.9(3.6)	2.85	0.95	18	硬砂岩	完形	
10	"	大形石匙	a	2.9	4.31	0.68	12	緑色岩	"	
11	"	敲打器	b	4.5	5.00	1.15	34	硬砂岩	"	
12	"	"	"	7.7	5.15	1.80	122	緑色岩	"	
13	床	打製石斧	a	(8.6)	4.72	1.71	110	硬砂岩	頭部欠損	
14	"	"	b	(10.4)	5.01	1.78	134	"	"	
15	"	"	"	(9.6)	3.75	1.1	58	緑色岩	"	
16	"	"	"	(6.8)	4.15	1.41	52	"	刃部欠損	
17	"	磨製石斧	定角	9.4	3.78	1.38	82	"	完形	
18	"	"	乳棒	(13.1)	5.42	5.05	480	硬砂岩	頭部欠損	
19	"	大形石匙	E	10.5	4.75	1.5	92	"	刃部欠損	縦形
20	"	敲打器	a	(9.0)	5.05	3.32	255	緑色岩	頭部欠損	
21	"	"	b	(9.7)	6.60	5.15	318	"	破片	
22	"	"	a	13.4	3.81	2.82	245	"	完形	
23	"	"	b	8.4	9.20	2.01	230	硬砂岩	"	
24	"	石皿								

VII-16住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	13.0	3.82	1.01	82	緑色岩	完形	
2	"	"	"	(7.2)	4.27	1.78	90	"	刃部欠損	
3	"	"	b	6.6	4.61	1.35	56	硬砂岩	頭部欠損	
4	"	"	"	(3.3)	4.75	1.10	24	"	"	
5	"	"	"	(6.8)	4.15	1.21	44	"	"	
6	"	"	"	(10.1)	5.40	1.72	100	"	"	
7	"	"	"	11.0	5.15	1.91	133	"	完形	
8	"	"	"	12.4	5.31	2.01	170	"	"	
9	"	"	"	(11.9)	4.76	2.96	206	緑色岩	刃部欠損	表面に打撃痕がある
10	"	"	"	(10.4)	3.82	2.55	138	"	"	
11	"	"	"	12.4	3.75	1.60	110	"	完形	
12	"	"	"	(8.4)	3.81	1.69	72	"	頭部欠損	
13	"	"	"	11.6	4.05	2.03	144	"	完形	
14	"	"	"	(6.3)	4.60	1.95	102	粘板岩	頭部欠損	
15	"	"	"	(9.6)	5.28	1.78	110	砂岩	"	
16	"	"	"	10.3	3.55	1.60	84	粘板岩	完形	
17	"	"	"	10.7	4.50	1.30	90	硬砂岩	"	
18	"	"	d	(9.0)	4.44	1.23	70	"	刃部欠損	
19	"	"	"	(7.7)	4.13	1.36	54	"	"	
20	"	"	"	11.2	5.00	1.71	118	"	完形	
21	"	"	"	(8.2)	5.80	2.29	165	"	頭部欠損	
22	"	"	c	9.7	2.89	1.05	44	緑色岩	完形	
23	"	"	d	(7.8)	3.49	1.40	45	"	頭部欠損	
24	"	"	"	11.9	3.35	1.31	88	凝灰岩	完形	

25	床	打製石斧	d	7.9	4.06	1.90	64	硬砂岩	刃部欠損	
26	"	"	"	(6.0)	4.48	1.12	40	"	"	
27	"	"	a	28.9	7.90	4.39	1640	凝灰岩	完形	
28	"	磨製石斧	乳棒	(10.4)	5.75	4.28	250	"	頭部欠損	
29	"	"	"	(6.8)	3.21	2.14	64	"	破片	
30	"	"	"	11.2	5.05	3.00	286	"	頭部欠損	
31	"	"	"	11.2	4.35	3.25	272	"	完形	
32	"	"	"	(15.0)	5.8	2.90	510	"	頭部欠損	
33	"	石 錘	礫	3.8(3.6)	3.12	1.18	22	硬砂岩	完形	
34	"	"	"	3.7(3.6)	2.88	1.20	20	"	"	
35	"	"	"	6.2(5.6)	5.20	1.72	64	砂岩	"	
36	"	敲打器	a	12.9	4.72	4.82	550	緑色岩	"	
37	"	"	"	11.5	4.18	2.15	156	"	"	
38	"	"	"	9.3	3.79	2.43	140	硬砂岩	頭部欠損	
39	"	"	b	9.4	5.05	4.72	420	緑色岩	完形	
40	"	"	"	(4.8)	7.49	4.08	201	"	破片	
41	床	敲打器	b	9.6	5.09	4.79	418	緑色岩	完形	
42	"	"	"	13.4	6.41	(2.45)	282	"	片側欠損	
43	"	"	"	9.2	3.95	(1.61)	70	"	"	
44	"	"	c	(10.2)	5.57	1.97	200	"	頭部欠損	
45	"	"	"	(12.4)	7.31	4.25	388	硬砂岩	"	
46	"	特殊敲打器	a	3.8	7.98	1.45	67	"	完形	
47	"	"	"	5.8	6.58	1.85	88	"	"	
48	"	"	d	3.9	5.72	2.12	80	"	"	
49	"	"	a	6.7	9.01	2.61	208	"	"	
50	"	"	b	5.70	3.7	1.81	62	緑色岩	"	
51	"	"	a	5.7	6.75	1.85	72	粘板岩	"	
52	"	凹 石		10.7	7.28	5.39	650	花崗岩	"	両面に2孔
53	"	"		10.2	(7.82)	5.30	510	"	片側欠損	片面に1孔
54	"	"		7.2	8.49	1.85	196	"	定形	"
55	"	石 礮	c	1.3	0.23	1.33	0.3	黒耀石	"	
56	"	削 器	c ₂	(2.7)	0.81	3.92	10.2	"	先端部欠	
57	"	円形搔器	c ₃	1.4	1.75	0.48	1.1	"	完形	
58	"	"	"	1.7	1.03	2.34	4.0	"	"	
59	フク土	石 礮	a	1.6	1.51	0.29	0.6	"	"	
60	"	石 錐	b ₃	2.4	1.07	0.96	1.9	"	"	
61	"	彫 器	a	2.3	1.28	0.62	1.8	"	"	
62	"	円形搔器	c ₃	1.4	1.95	0.63	2.0	"	"	

VII-17住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	石 錘	礫	7.3(6.8)	5.95	1.54	104	硬砂岩	完形	
2	"	大形石匙	b	11.9	5.05	1.60	106	"	"	縦形

VII-18住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	b	(7.7)	4.78	1.69	65	硬砂岩	刃部欠損	
2	"	"	"	6.5	3.50	1.65	58	緑色岩	刃部欠損	
3	"	"	"	(12.6)	5.25	1.59	152	"	頭部欠損	
4	"	"	c	(5.2)	3.90	1.12	32	硬砂岩	胴部のみ	
5	"	"	d	8.8	4.01	1.82	86	"	頭部欠損	
6	"	"	"	7.8	5.60	1.71	82	"	"	
7	"	大形石匙	d	5.0	7.78	1.15	59	チャート	定形	
8	"	敲打器	a	(7.6)	3.51	2.58	104	緑色岩	胴部のみ	

9	フク土	敲打器	a	11.0	3.80	2.50	163	硬砂岩	頭部欠損	未製品 片面に1孔
10	"	特殊敲打器	"	4.9	6.22	1.58	63	"	完形	
11	床	打製石斧	b	11.4	(4.46)	2.2	128	"	片側欠損	
12	"	"	"	10.0	4.8	1.65	102	"	頭部欠損	
13	"	"	"	11.4	5.00	2.01	150	"	完形	
14	"	"	"	10.3	4.62	2.10	112	"	"	
15	"	"	"	(7.6)	5.55	2.23	148	"	胴部のみ	
16	"	"	"	12.0	5.93	1.50	108	"	"	
17	"	"	d	10.1	4.21	1.85	80	"	頭部欠損	
18	"	"	c	11.4	4.70	2.39	177	"	完形	
19	"	"	b	10.7	4.97	1.52	114	砂岩	"	
20	"	"	d	12.0	4.19	1.82	116	緑色岩	"	
21	"	"	c	10.8	3.61	1.93	80	安山岩	刃部欠損	
22	"	石錘	礫	6.34(6.8)	4.38	1.78	72	硬砂岩	完形	
23	"	凹石		11.1	7.78	6.20	750	花崗岩	"	
24	"	敲打器	a	9.6	2.85	1.9	78	緑色岩	片側上部欠損	
25	"	"	"	9.3	2.78	1.75	83	安山岩	完形	
26	"	"	b	8.4	5.96	1.60	124	硬砂岩	頭部欠損	
27	"	特殊敲打器	a	5.6	4.05	1.31	49	"	完形	
28	"	"	"	5.1	4.16	1.60	56	"	"	

VII-19住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(8.4)	4.56	1.42	78	粘板岩	刃部欠損	一面すってある
2	"	"	"	(5.7)	3.60	1.21	38	緑色岩	"	
3	"	"	b	(9.0)	4.87	2.45	144	硬砂岩	"	
4	"	"	"	(6.7)	4.15	1.35	50	"	"	
5	"	"	"	(8.4)	3.62	1.45	70	"	"	
6	"	"	"	(13.0)	6.98	2.75	334	"	"	
7	"	"	"	(12.8)	5.67	2.77	186	"	頭部欠損	
8	"	"	"	9.4	9.15	1.48	70	"	"	
9	"	"	"	(8.2)	5.36	2.65	170	"	"	
10	"	"	"	10.4	4.85	1.20	78	粘板岩	刃部欠損	
11	"	"	"	(7.2)	4.13	1.21	50	緑色岩	胴部のみ	
12	"	"	"	12.1	4.31	1.11	78	"	完形	
13	"	"	"	(7.2)	5.71	1.80	98	"	頭部欠損	
14	"	"	c	11.2	4.85	1.35	78	硬砂岩	完形	
15	"	"	"	(6.4)	4.62	1.65	62	"	刃部欠損	
16	"	"	"	(8.1)	4.64	1.40	62	"	"	
17	"	"	"	8.4	3.08	1.18	36	"	"	
18	"	"	"	(9.6)	4.99	1.60	96	凝灰岩	"	
19	"	"	b	12.1	4.05	2.31	136	砂岩	完形	
20	"	"	d	9.8	5.20	2.15	136	硬砂岩	"	
21	"	"	"	(9.8)	4.05	1.42	64	"	頭部欠損	
22	"	"	"	5.8	3.95	1.72	46	"	胴部のみ	
23	"	磨製石斧	定角	(4.7)	5.45	2.48	112	緑色岩	胴部のみ	
24	"	"	乳棒	18.3	6.12	4.35	800	凝灰岩	完形	
25	"	石錘	礫	3.7(3.4)	3.49	1.08	24	硬砂岩	"	
26	"	"	"	3.5(3.2)	2.70	1.13	18	"	"	
27	"	敲打器	a	(10.2)	5.41	4.31	346	"	頭部欠損	
28	"	"	"	(8.5)	4.41	2.89	168	硬砂岩	"	
29	"	"	"	8.6	2.59	1.82	70	緑色岩	完形	
30	"	"	"	16.0	4.12	3.05	317	"	"	
31	"	"	"	11.3	5.69	2.62	22.5	硬砂岩	"	

32	床	敲打器	b	(10.4)	(3.89)	1.81	88	綠色岩	破片	
33	"	"	"	(7.5)	(4.42)	1.92	88	"	"	
34	"	"	"	(11.3)	(7.35)	4.72	550	"	"	
35	"	"	c	(9.9)	3.55	3.61	170	"	頭部欠損	
36	"	"	b	12.1	8.82	4.05	600	硬砂岩	完形	
37	"	"	a	(10.2)	5.35	4.35	348	"	頭部欠損	
38	"	特殊敲打器	b	6.65	5.75	1.35	60	"	完形	
39	"	"	"	4.3	5.10	1.20	32	安山岩	"	
40	"	磨石	"	4.8	4.06	2.32	68	硬砂岩	"	
41	"	特殊磨石	"	6.1	4.04	1.72	67	硬砂岩	完形	
42	"	"	"	(5.5)	(7.80)	2.38	82	"	破片	
43	"	"	"	2.9	3.41	0.75	10	砂岩	完形	
44	"	敲打器	a	28.8	8.60	6.51	3.010	綠色岩	"	
45	"	横刃形	"	5.0	9.52	1.38	82	硬砂岩	"	
46	"	"	d	4.6	11.30	2.10	120	"	"	
47	"	石棒	"	(24.3)	11.38	9.25	4360	"	頭部欠損	
48	"	石皿	"	(12.4)	(16.75)	7.81	2780	"	破片	
49	"	石礮	c ₁	2.7	(1.34)	0.31	1.0	黒耀石	基部一部欠	
50	"	"	b	1.6	1.38	0.55	1.1	"	完形	
51	"	"	"	1.4	1.09	0.30	0.4	"	"	
52	"	"	c ₂	(2.2)	1.74	0.46	1.4	"	先端部欠	
53	"	円形搔器	b	3.1	2.20	0.90	5.1	"	完形	
54	"	"	c ₂	1.5	2.22	0.60	1.8	"	"	
55	"	削器	b	3.2	2.91	0.90	9.9	"	"	
56	フク土	"	c ₂	1.9	2.13	0.41	2.7	"	"	

VII-20住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	b	9.3	4.82	1.82	100	硬砂岩	完形	
2	"	"	"	(7.7)	5.95	2.25	130	"	刃部欠損	
3	"	"	d	(4.8)	3.07	1.26	25	"	胴部のみ	
4	"	"	b	(9.4)	2.62	1.65	70	綠色岩	"	未製品
5	"	敲打器	a	8.5	3.07	2.19	94	"	完形	
6	"	"	b	(10.3)	4.52	(1.45)	110	"	頭部片面欠損	
7	"	"	"	8.2	4.54	(3.12)	162	"	片面欠損	
8	"	"	c	(7.8)	3.07	1.95	96	"	胴部のみ	
9	"	"	b	10.4	(3.25)	3.24	126	硬砂岩	片面欠損	
10	"	特殊磨石	"	(5.7)	(5.21)	2.01	40	"	破片	
11	床	打製石斧	a	(10.8)	5.24	2.69	186	粘板岩	刃部欠損	
12	"	"	b	(11.8)	6.09	2.52	210	硬砂岩	"	
13	"	"	d	10.2	2.82	1.32	64	綠色岩	"	未製品
14	"	"	b	(9.8)	4.45	1.89	112	硬砂岩	頭部欠損	
15	"	"	"	(9.5)	5.72	2.05	175	粘板岩	"	
16	"	"	"	(10.0)	4.92	0.96	56	"	刃部欠損	
17	"	"	d	(8.6)	4.81	1.05	57	硬砂岩	頭部欠損	
18	"	"	"	(4.0)	4.16	2.26	52	"	胴部のみ	
19	"	"	"	9.9	4.67	1.75	72	"	完形	
20	"	"	"	8.7	4.92	1.12	58	"	"	
21	"	"	c	9.0	3.72	1.59	68	粘板岩	"	
22	"	"	d	(5.4)	5.08	1.95	72	硬砂岩	刃部欠損	
23	"	磨製石斧	蛤刃	(12.9)	3.60	2.71	195	綠色岩	頭部欠損	
24	"	"	定角	(7.2)	6.41	2.42	204	流紋岩	頭部欠損	
25	"	大形石匙	b	3.9	11.6	0.81	56	綠色岩	完形	
26	"	石錘	礫	2.6(2.4)	2.45	0.60	6	硬砂岩	"	
27	"	敲打器	a	24.6	6.25	4.77	1100	"	"	

28	床	敲打器	a	9.3	2.68	2.45	100	綠色岩	完形	両面各1 孔
29	"	"	b	(8.9)	6.85	3.25	262	安山岩	頭部欠損	
30	"	"	a	4.3	10.12	1.35	70	"	完形	
31	"	凹石		8.0	9.73	5.15	620	花崗岩	"	
32	"	横刃形	c	5.7	12.12	1.42	144	硬砂岩	"	
33	"	"	d	6.2	11.45	0.65	86	"	"	
34	"	削器	c ₂	3.3	4.51	1.77	2.29	黒耀石	"	

VII-21住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	a	(12.7)	7.81	2.49	486	綠色岩	頭部欠損	
2	"	"	"	(7.7)	5.38	1.85	100	硬砂岩	刃部欠損	
3	"	"	b	(8.8)	4.98	1.50	82	"	頭部欠損	
4	"	"	"	(6.7)	4.53	1.70	66	"	刃部欠損	
5	"	"	"	(4.7)	4.45	1.25	32	"	"	
6	"	"	"	(6.5)	3.90	1.99	64	"	"	
7	"	"	"	(8.6)	4.60	1.55	80	"	"	
8	"	"	"	(7.2)	4.32	1.45	58	"	"	
9	"	"	"	(6.7)	4.01	1.62	52	"	"	
10	"	"	"	(7.7)	4.00	1.69	73	"	"	
11	"	"	d	11.4	5.71	1.52	106	"	完形	
12	"	"	b	9.3	3.52	1.51	65	"	"	
13	"	"	"	(7.2)	4.15	1.81	94	"	頭部欠損	
14	"	"	"	(4.8)	5.15	1.23	54	綠色岩	胴部のみ	
15	"	"	"	(8.7)	3.79	2.12	108	"	頭部欠損	
16	"	"	"	8.2	4.92	2.72	142	"	"	
17	"	"	"	11.2	3.78	1.09	90	"	完形	
18	"	"	"	12.7	5.19	2.07	150	"	"	
19	"	"	"	(5.8)	3.21	1.21	34	"	"	
20	"	"	c	(6.7)	5.65	1.58	96	硬砂岩	刃部欠損	
21	"	"	"	(5.8)	(3.48)	1.31	48	綠色岩	頭片側欠損	
22	"	"	"	8.6	5.09	1.30	82	"	完形	
23	"	"	d	(6.3)	5.64	2.52	122	硬砂岩	刃部欠損	
24	"	"	"	(10.9)	6.72	1.72	190	"	頭部欠損	
25	"	"	"	(7.2)	3.51	0.95	28	綠色岩	刃部欠損	
26	"	"	"	8.3	(2.72)	1.92	44	"	片側欠損	
27	"	"	c	13.4	3.21	1.42	82	"	"	
28	"	大形石匙	"	6.1	10.90	1.74	106	硬砂岩	完形	
29	"	石錘	礫	5.3(5.2)	5.12	1.82	66	"	"	
30	"	"	切れ目	7.0(6.9)	4.27	1.45	70	"	"	
31	"	敲打器	a	(11.7)	4.48	2.40	234	綠色岩	頭部欠損	
32	"	"	"	2.7	8.90	2.10	66	"	胴部のみ	
33	"	"	"	12.7	4.55	4.78	350	"	完形	
34	"	"	b	13.7	6.11	4.35	500	硬砂岩	"	
35	"	"	c	9.1	3.21	2.41	90	綠色岩	頭部欠損	
36	"	"	"	24.5	10.88	6.75	2900	"	完形	
37	"	特殊敲打器	"	8.3	6.26	4.30	338	"	片面欠損	
38	"	"	"	9.2	(3.78)	4.10	255	"	"	磨ってあ る
39	"	"	"	7.9	(3.28)	3.21	90	"	破片	
40	"	"	"	5.3	4.51	1.21	32	安山岩	"	
41	床	打製石斧	b	(10.4)	5.85	1.95	173	綠色岩	頭部欠損	
42	"	"	"	(6.5)	3.62	0.85	38	"	片側欠損	
43	"	"	"	7.5	4.29	1.45	64	"	刃部欠損	
44	"	"	"	(8.5)	4.19	1.39	72	"	胴部のみ	
45	"	"	"	11.7	5.35	1.70	148	砂岩	刃部欠損	

46	床	打製石斧	b	(7.1)	2.91	0.98	26	砂岩	刃部欠損	
47	"	"	"	9.9	4.20	0.92	52	硬砂岩	完形	
48	"	"	"	(7.8)	3.09	0.85	25	"	頭部欠損	
49	"	"	"	10.4	4.01	1.49	88	粘板岩	完形	
50	"	"	"	(12.2)	5.21	1.72	142	"	頭部欠損	
51	"	"	a	10.4	4.16	1.83	124	緑色岩	完形	
52	"	"	"	(9.7)	5.60	2.85	202	凝灰岩	刃部欠損	
53	"	"	b	(10.4)	5.15	2.46	198	"	"	
54	"	磨製石斧	蛤刃	15.9	4.95	3.42	432	"	完形	
55	"	"	"	20.4	3.72	2.49	350	"	"	
56	"	"	乳棒	(6.0)	2.92	2.75	64	硬砂岩	胴部のみ	
57	"	"	定角	15.4	5.20	2.85	378	緑色岩	完形	
58	"	"	"	58	3.12	0.79	20	"	"	
59	"	大形石匙	c	7.3	3.21	1.15	38	"	"	縦形
60	"	"	b	5.6	7.50	0.98	36	"	"	
61	"	石錘	礫	6.4(5.7)	6.70	1.98	125	硬砂岩	"	
62	"	敲打器	a	11.3	5.01	3.12	262	緑色岩	"	
63	"	"	"	(14.0)	6.82	5.62	840	"	頭部欠損	
64	"	"	b	7.6	6.49	4.15	166	"	"	
65	"	特殊敲打器	a	4.6	10.69	4.18	540	"	完形	
66	"	"	"	5.2	4.85	3.62	144	"	"	
67	"	"	c	8.2	4.89	2.85	183	"	"	
68	"	"	"	(3.3)	4.75	1.09	23	"	破片	
69	"	"	a	(5.2)	3.91	1.61	45	"	"	
70	"	"	"	11.2	(2.07)	2.28	96	"	"	
71	"	石錘	礫	6.4(5.7)	6.70	1.98	125	硬砂岩	完形	
72	"	磨石	"	8.3	10.08	4.78	560	"	"	
73	"	特殊磨石	"	5.7	7.42	1.58	80	"	片面欠損	
74	"	"	"	(5.6)	3.49	3.05	94	"	破片	
75	"	"	"	(3.5)	4.85	2.38	44	"	"	
76	"	凹石	"	8.7	9.69	5.10	600	花崗岩	完形	両面各2孔
77	"	"	"	6.5	9.53	3.40	269	"	"	両面2孔と1孔
78	"	石皿	"	"	"	"	"	"	"	
79	"	特殊石器	"	8.0	14.05	3.70	800	硬砂岩	完形	
80	"	横刃形	c	4.6	6.58	1.15	38	"	"	
81	床	石礮	c ₁	1.53	1.40	0.17	0.3	黒耀石	完形	
82	"	"	"	2.20	1.35	0.32	0.6	"	"	
83	"	円形搔器	c	1.90	1.96	0.67	0.39	"	"	
84	"	"	"	2.02	2.74	0.71	3.8	"	"	

VII-23住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	a	14.6	6.18	3.41	433	緑色岩	完形	
2	"	"	b	12.0	4.12	1.85	156	硬砂岩	"	
3	"	"	"	(6.8)	3.85	1.15	47	"	刃部欠損	
4	"	"	c	(4.5)	4.03	1.21	26	"	"	
5	"	"	a	12.7	5.70	1.78	148	"	砂岩	
6	"	"	b	9.8	3.29	1.56	70	緑色岩	完形	
7	"	"	a	(11.3)	3.48	2.90	177	"	頭部欠損	
8	"	大形石匙	c	3.6	(3.85)	0.65	12	砂岩	片面欠損	
9	"	特殊敲打器	b	4.1	4.59	1.64	52	緑色岩	完形	

VII-24住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	b	9.9	4.93	1.55	95	粘板岩	完形	
2	"	"	"	(10.6)	4.01	1.65	84	緑色岩	頭部欠損	

3	フク土	特殊磨石	b	11.6	7.39	5.08	700	綠色岩	完形	
4	"	敲打器	c	12.3	6.01	3.21	330	綠色岩	"	
5	"	特殊敲打器	a	5.4	5.15	1.90	66	硬砂岩	"	
6	"	"	"	3.5	4.85	1.21	30	"	"	
7	床	打製石斧	b	(7.6)	5.12	1.92	84	砂岩	刃部欠損	
8	"	"	"	(9.6)	3.45	0.71	36	綠色岩	"	
9	"	"	"	10.1	4.15	1.30	76	硬砂岩	完形	
10	"	"	d	12.3	4.15	1.85	114	"	"	
11	"	"	"	9.6	5.09	1.30	96	"	"	
12	"	石 錘	礫	5.6(5.0)	4.61	1.50	55	砂岩	完形	
13	"	"	"	3.7(3.4)	3.15	1.21	20	"	"	
14	"	"	"	6.5(5.3)	4.96	1.31	53	"	"	
15	"	"	"	(6.5(6.1)	5.21	1.41	78	硬砂岩	"	
16	"	"	"	6.5(6.2)	5.19	1.48	80	"	"	
17	"	磨 石 器		8.9	8.81	4.61	600	"	"	
18	"	敲打器	a	8.9	2.35	1.96	54	綠色岩	"	
19	"	"	c	12.7	(2.10)	2.50	86	"	片側欠損	
20	"	"	b	(8.3)	5.91	4.81	347	"	頭部欠損	
21	"	特殊敲打器	a	4.2	5.32	1.3	49	"	完形	
22	"	"	"	5.5	4.65	1.48	65	"	"	
23	"	"	"	5.0	5.69	2.15	76	硬砂岩	"	
24	"	"	"	6.3	5.45	2.61	122	"	"	

VII-25住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	d	6.5	3.89	1.92	66	硬砂岩	頭部欠損	
2	"	"	"	9.8	3.92	1.31	64	"	完形	
3	"	"	b	8.7	4.32	8.5	42	"	"	
4	"	"	d	(5.8)	3.90	1.05	32	"	頭部欠損	
5	"	"	b	7.0	5.82	1.01	48	"	"	
6	"	"	"	8.3	4.00	2.01	80	"	完形	
7	"	"	c	8.5	5.26	1.65	90	"	刃部欠損	
8	"	"	b	9.1	4.06	0.89	48	綠色岩	胴部のみ	
9	"	"	a	9.6	3.15	9.2	37	粘板岩	"	
10	"	"	b	9.5	3.52	0.89	50	"	完形	刃部にみが がきがある
11	"	"	c	12.6	4.75	2.05	150	"	"	
12	"	"	b	7.7	4.22	1.38	55	砂岩	頭部欠損	
13	"	"	a	13.2	3.92	2.10	154	硬砂岩	完形	
14	"	"	b	5.2	5.75	1.55	66	"	頭部欠損	
15	"	磨製石斧	乳棒	(7.4)	4.42	2.58	1.27	綠色岩	"	未製品
16	"	"	"	(9.2)	4.40	2.10	116	"	"	"
17	"	石 錘	礫	5.8(5.4)	4.75	1.80	71	硬砂岩	完形	
18	"	"	"	7.1	4.81	1.83	87	"	"	
19	"	大形石匙	d	5.5	6.60	0.93	38	粘板岩	"	
20	"	敲打器	a	(3.1)	(5.52)	(0.66)	(14)	安山岩	破片	
21	"	"	"	(8.1)	(7.31)	3.65	292	綠色岩	胴部のみ	
22	"	"	b	10.6	7.85	6.10	720	"	完形	
23	"	"	"	8.2	6.80	5.12	367	"	"	
24	"	"	"	9.7	5.10	4.46	246	硬砂岩	頭部欠損	
25	"	"	"	5.9	2.72	1.50	44	綠色岩	完形	
26	"	"	a	8.3	3.12	2.62	10.5	"	"	
27	"	"	b	7.3	4.95	2.15	116	"	"	
28	"	横刃形		(6.3)	11.60	2.10	164	硬砂岩	完形	
29	"	"	b	7.2	9.10	4.01	264	砂岩	"	
30	"	石 礫	B	2.1	1.56	0.46	0.9	黒耀石	"	

VII-26住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(11.5)	5.30	1.95	156	硬砂岩	刃部欠損	
2	"	"	d	(6.4)	5.35	2.00	88	"	頭部欠損	
3	"	"	"	6.3	11.40	2.12	148	砂岩	片側欠損	
4	"	"	b	10.7	5.10	2.20	156	片砂岩	完形	
5	"	"	"	5.6	4.20	1.65	58	"	刃部欠損	
6	"	敲打器	"	(5.3)	(6.78)	2.76	118	緑色岩	破片	
7	"	磨石	"	7.2	(5.15)	4.5	2.36	花崗岩	片側欠損	
8	"	横刃形	a	5.7	9.7	1.08	76	砂岩	"	

VII-27住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(7.0)	3.62	1.55	66	粘板岩	胴部のみ	

VII-28住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	d	(10.5)	4.40	1.95	122	緑色岩	頭部欠損	
2	"	"	b	10.3	3.60	1.52	110	"	完形	
3	"	"	d	(9.3)	4.50	1.65	90	"	"	
4	"	"	"	8.8	4.20	1.10	60	"	"	
5	"	"	"	10.5	3.70	1.79	106	"	"	
6	"	"	"	(8.3)	4.95	0.80	58	"	刃部欠損	
7	"	"	b	(8.8)	3.81	1.39	42	"	"	
8	"	"	"	(9.6)	3.72	2.12	94	"	頭部欠損	
9	"	"	"	11.3	4.90	1.82	132	硬砂岩	完形	
10	"	"	"	11.4	4.05	1.72	94	"	"	
11	"	"	"	19.9	3.73	1.68	8.6	"	"	
12	"	"	"	8.5	4.71	1.75	86	"	"	
13	"	"	"	10.3	5.00	1.95	118	"	"	
14	"	"	"	14.5	3.38	1.68	107	"	"	
15	"	"	"	(11.1)	5.70	1.91	135	"	刃部欠損	
16	"	"	"	(6.2)	4.78	1.94	83	"	胴部のみ	
17	"	"	"	(10.9)	4.61	2.02	146	"	刃部欠損	
18	"	"	"	10.0	3.99	1.23	61	"	完形	
19	"	"	d	(8.2)	4.53	1.86	103	"	刃部欠損	
20	"	"	"	(9.9)	5.71	2.45	185	"	"	
21	"	"	"	(7.0)	4.39	1.41	60	"	"	
22	"	"	"	(7.2)	4.33	1.68	62	"	"	
23	"	"	"	(7.0)	3.35	1.10	46	"	頭部欠損	
24	"	"	"	(5.9)	4.76	1.30	57	"	胴部のみ	
25	"	磨製石斧	乳棒	(10.8)	5.25	2.92	287	緑色岩	頭部欠損	
26	"	敲打器	a	(9.7)	4.51	2.39	164	"	"	
27	"	"	"	14.3	5.69	5.26	650	"	完形	
28	"	"	"	14.3	6.85	3.29	509	"	"	
29	"	"	"	6.7	2.43	2.15	54	硬砂岩	"	
30	"	"	"	13.7	6.35	5.69	750	"	"	
31	"	"	b	8.2	4.35	3.22	186	緑色岩	"	
32	"	"	"	8.5	7.02	4.46	435	"	"	
33	"	"	"	19.9	8.33	4.53	950	"	"	
34	"	"	"	9.0	6.29	5.55	550	"	"	
35	"	"	"	(4.06)	7.46	451	230	"	頭部欠損	
36	"	"	"	(7.6)	4.95	3.46	169	"	破片	
37	"	"	c	17.8	5.98	5.84	850	安山岩	完形	

38	床	特殊敲打器	a	4.9	4.49	4.26	37	硬砂岩	完形	片側みが いてある
39	"	"	b	(5.4)	5.44	2.16	81	"	頭部欠損	
40	"	"	"	(5.7)	7.32	1.82	118	"	"	
41	"	磨石		(11.1)	5.39	3.11	230	硬砂岩	頭部欠損	
42	"	横刃形	a	6.0	9.82	0.95	68	"	完形	

VII-29住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(9.7)	(3.56)	2.40	100	硬砂岩	片側・刃部欠損	
2	"	"	b	10.9	4.21	1.75	114	"	完形	
3	"	"	c	(9.5)	4.35	1.40	85	"	刃部欠損	
4	"	"	b	9.9	6.65	2.82	196	"	"	
5	"	"	"	7.1	4.42	1.52	66	"	"	
6	"	"	c	7.7	5.09	2.34	110	"	頭部欠損	
7	"	"	b	10.4	4.98	1.86	124	"	完形	
8	"	"	"	(6.8)	4.46	1.02	42	"	刃部欠損	
9	"	"	c	(9.2)	5.12	1.71	86	"	"	
10	"	"	b	8.6	3.82	0.75	38	"	完形	
11	"	"	"	9.9	4.01	1.45	82	緑色岩	"	
12	"	大形石匙	a	5.1	12.63	0.95	73	粘板岩	"	
13	"	石錘	礫	4.7(4.5)	3.19	1.31	32	硬砂岩	"	
14	"	"	"	6.6(6.3)	6.01	1.78	116	"	"	
15	"	横刃形	e	3.8	7.05	1.05	42	"	"	
16	"	"	a	5.5	7.35	0.84	42	"	"	
17	"	"	d	5.6	8.61	0.85	48	粘板岩	"	

VII-30住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	a	6.1	(1.80)	0.62	9	緑色岩	片側欠損	
2	"	"	b	(8.7)	(1.7)	1.25	22	"	刃部片側欠損	
3	"	"	"	13.4	4.68	1.35	141	"	完形	
4	"	磨製石斧	定角	6.1	2.52	1.06	30	流紋岩	"	
5	床	打製石斧	a	13.2	4.81	1.78	162	硬砂岩	"	
6	"	"	"	11.1	4.45	1.22	76	"	"	
7	"	"	c	11.0	4.10	1.87	110	"	"	
8	"	"	d	9.2	6.48	1.42	10.8	"	刃部欠損	
9	"	"	"	12.4	4.69	1.26	114	粘板岩	"	
10	"	"	a	10.9	4.02	1.82	97	緑色岩	頭部欠損	
11	"	"	b	(4.6)	4.55	1.86	48	粘板岩	完形	
12	"	"	d	(4.5)	2.80	1.85	26	緑色岩	刃部欠損	
13	"	"	b	5.8	4.21	1.62	59	"	"	
14	"	石錘	礫	5.6(5.4)	7.65	2.75	184	硬砂岩	完形	
15	"	敲打器	b	10.7	7.41	4.12	510	緑色岩	"	
16	"	"	a	(6.5)	3.69	3.72	102	安山岩	頭部欠損	
17	"	"	c	14.1	4.90	3.32	3.47	硬砂岩	"	
18	"	石錘	b ₄	4.1	1.90	1.50	0.67	黒耀石	完形	
19	"	ピエスエス・キーユ		1.5	1.38	0.72	1.7	"	"	

VII-32住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	b	10.8	4.32	1.02	66	硬砂岩	完形	
2	"	"	"	(10.5)	4.18	1.25	58	"	刃部欠損	

3	フク土	敲打器	c	(8.8)	(2.95)	2.26	146	緑色岩	"	
4	"	"	b	8.1	(7.21)	5.05	510	"	片側欠損	
5	"	"	"	5.9	4.52	(1.82)	80	"	"	
6	床	打製石斧	a	(11.9)	3.79	2.60	190	"	頭部欠損	
7	"	"	"	(10.1)	4.65	1.51	94	粘板岩	刃部欠損	
8	"	"	b	(13.5)	6.00	2.71	279	硬砂岩	"	
9	"	"	"	12.8	4.27	1.12	89	"	完形	
10	"	"	"	(7.5)	4.39	1.51	74	粘板岩	胴部のみ	
11	"	"	"	(11.3)	4.75	1.95	140	緑色岩	刃部欠損	
12	"	"	"	10.2	3.98	1.42	78	粘板岩	完形	
13	"	"	"	11.6	4.21	1.52	112	"	"	
14	"	"	"	(9.1)	3.06	1.29	42	緑色岩	頭部欠損	
15	"	磨製石斧	乳棒	(13.9)	5.81	3.82	470	"	刃部欠損	
16	"	大形石匙	b	5.0	7.14	0.71	23	硬砂岩	完形	
17	"	石錘	礫	6.9(5.8)	6.61	2.22	146	"	"	
18	"	敲打器	b	5.9	5.61	4.60	238	緑色岩	"	
19	"	"	"	9.0	5.40	4.45	364	"	"	
20	"	横刃形	"	7.8	13.54	2.16	225	硬砂岩	"	
21	"	石錐	b ₄	3.9	1.58	0.75	4.1	黒耀石	"	

VII-33住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	フク土	打製石斧	a	9.1	3.92	1.79	98	緑色岩	刃部欠損	
2	"	"	"	18.5	6.25	2.82	413	硬砂岩	完形	
3	"	"	b	12.3	3.88	2.03	126	緑色岩	"	
4	"	"	"	(11.1)	5.88	2.18	197	硬砂岩	刃部欠損	
5	"	"	"	9.7	5.47	2.56	180	"	頭部欠損	
6	"	"	"	(10.0)	5.52	2.02	150	"	"	
7	"	"	"	7.7	4.25	2.20	74	"	完形	
8	"	"	"	10.2	4.56	1.39	92	"	"	
9	"	"	"	(6.7)	4.29	1.32	54	粘板岩	頭部欠損	
10	"	大形石匙	c	4.9	11.58	1.08	72	硬砂岩	完形	
11	"	"	d	4.3	12.05	1.18	58	"	"	
12	"	石錘	礫	5.6(5.2)	4.23	1.67	61	"	"	
13	"	"	"	4.0(3.5)	2.89	0.71	12	緑色岩	"	
14	"	磨石	"	5.6	3.29	2.34	63	硬砂岩	"	
15	"	"	"	8.2	3.58	(1.71)	70	"	片側欠損	
16	"	敲打器	b	9.1	5.08	3.69	268	緑色岩	完形	
17	"	"	"	6.4	5.21	3.49	150	"	"	
18	"	"	"	5.7	5.12	2.82	105	"	"	
19	"	"	"	3.8	2.58	2.11	24	硬砂岩	"	
20	"	"	a	(3.0)	4.61	2.51	44	"	頭部欠損	
21	"	"	"	(6.0)	2.58	2.21	38	粘板岩	"	
22	"	"	"	(5.3)	4.85	2.83	89	安山岩	胴部のみ	
23	"	特殊敲打器	b	4.6	5.05	1.48	34	硬砂岩	完形	
24	"	横刃形	"	6.9	10.42	1.59	126	緑色岩	"	
25	床	打製石斧	a	(9.6)	6.62	2.14	176	粘板岩	頭部欠損	
26	"	敲打器	"	13.8	6.39	5.71	750	硬砂岩	"	
27	"	"	"	9.9	6.02	3.92	328	"	完形	
28	"	横刃形	"	7.3	9.95	1.15	112	"	"	
29	"	石錐	b ₃	3.1	0.85	0.76	1.7	黒耀石	"	
30	"	"	b ₄	4.5	2.27	0.82	7.1	玻璃山	"	

VII-35住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(7.2)	4.55	1.82	100	硬砂岩	胸部のみ	
2	"	"	"	12.4	4.39	2.05	136	"	完形	
3	"	"	"	8.6	4.21	1.54	65	"	"	
4	"	"	b	(9.6)	4.50	1.92	113	"	頭部欠損	
5	"	"	"	(10.7)	5.25	1.30	128	"	"	
6	"	"	"	(8.5)	5.51	1.93	120	"	"	
7	"	"	"	(12.0)	4.75	2.21	160	"	刃部欠損	
8	"	"	"	(13.4)	5.12	2.20	194	"	頭部欠損	
9	"	"	"	11.0	3.82	2.05	112	"	完形	
10	"	"	"	(6.3)	3.58	2.22	71	"	刃部欠損	
11	"	"	"	(11.8)	4.39	1.92	114	粘板岩	"	
12	"	"	"	(3.7)	5.20	1.18	30	"	"	
13	"	"	"	11.4	4.62	1.70	124	"	頭部欠損	
14	"	"	"	(8.6)	4.50	1.85	114	緑色岩	"	
15	"	"	a	(9.2)	(2.35)	2.11	68	"	頭部片側欠損	
16	"	"	"	(7.1)	2.35	1.21	24	"	頭部欠損	
17	"	磨製石斧	乳棒	(13.3)	4.98	4.55	362	"	"	
18	"	"	"	(15.0)	5.89	5.28	580	"	"	
19	"	大形石匙	c	6.7	7.31	1.30	72	硬砂岩	完形	
20	"	"	"	4.0	9.78	1.21	50	"	"	
21	"	"	a	4.0	11.35	0.85	43	緑色岩	"	
22	"	石錘	礫	5.0(4.8)	4.78	1.42	53	粘板岩	"	
23	"	"	"	6.0(5.7)	5.28	1.85	96	硬砂岩	"	
24	"	"	"	9.1(8.8)	5.15	2.55	187	"	"	
25	"	敲打器	a	(8.8)	4.38	2.13	142	"	頭部欠損	
26	"	"	"	(7.2)	2.85	2.09	68	緑色岩	"	
27	"	特殊敲打器	b	5.9	3.25	1.75	55	硬砂岩	完形	

VII-36住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(5.2)	4.69	0.81	31	硬砂岩	刃部欠損	
2	"	磨製石斧	乳棒	(6.1)	3.72	2.92	92	緑色岩	"	
3	"	敲打器	b	9.5	8.06	1.55	172	硬砂岩	完形	
4	"	"	"	12.5	7.48	4.85	700	緑色岩	"	
5	"	特殊敲打器	"	6.0	4.62	2.89	108	硬砂岩	"	

VII-37住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	10.2	5.05	1.56	92	硬砂岩	完形	
2	"	"	"	9.6	3.91	1.57	79	緑色岩	"	
3	"	磨製石斧	乳棒	25.2	8.11	5.75	1.520	硬砂岩	"	
4	"	大形石匙	a	6.0	(7.53)	1.64	72	粘板岩	片側欠損	横形
5	"	円形搔器	A	2.2	3.12	1.15	7.9	黒耀石	完形	

VII-38住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(8.9)	5.65	1.91	1.06	硬砂岩	刃部欠損	
2	"	"	"	(4.0)	5.41	1.50	42	"	"	
3	"	"	"	(9.2)	4.11	1.39	72	"	"	
4	"	小形石匙	"	3.3	5.81	0.89	20	チャート	完形	
5	"	石錘	礫	6.7(6.0)	4.42	1.39	49	緑色岩	"	

6	床	磨石		4.8	4.49	1.21	42	綠色岩	完形
7	"	敲打器	a	(4.5)	2.11	1.84	16	"	頭部欠損
8	"	石礮	b	1.7	1.26	0.46	0.8	黒耀石	完形
9	"	円形搔器	c	1.7	1.78	0.46	1.6	"	"
10	"	蜂のす							
11	"	石皿							半折

VII-39住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	a	(5.4)	5.08	1.05	44	粘板岩	刃部欠損	
2	"	"	b	13.1	4.55	2.21	160	綠色岩	完形	
3	"	"	"	(7.7)	2.92	0.62	26	"	頭部欠損	
4	"	"	"	(11.5)	4.70	1.89	135	硬砂岩	"	
5	"	"	"	12.6	3.71	1.53	96	粘板岩	完形	
6	"	"	"	(10.7)	5.61	1.45	144	"	刃部欠損	
7	"	"	"	(13.1)	5.29	2.38	182	硬砂岩	頭部欠損	
8	"	"	"	(8.7)	4.58	1.35	72	"	刃部欠損	
9	"	"	c	(5.1)	3.51	1.71	37	"	"	
10	"	"	d	(12.2)	5.10	1.95	170	"	頭部欠損	
11	"	"	"	12.3	4.65	1.32	99	"	完形	
12	"	"	"	7.9	4.81	1.42	64	"	刃部欠損	
13	"	磨製石斧	乳棒	15.2	6.12	4.29	68	綠色岩	"	
14	"	"	"	(7.7)	3.94	3.06	118	"	"	
15	"	敲勞器	a	(6.1)	2.48	2.08	47	硬砂岩	"	
16	"	"	b	(7.8)	(4.49)	1.35	66	粘板岩	破片	
17	"	特殊敲打器	"	(5.0)	4.05	1.15	48	綠色岩	頭部欠損	
18	"	彫器		6.3	3.70	1.48	24	黒耀石	完形	
19	"	削器	c ₂	2.2	1.92	0.60	3.4	"	"	

VII-40住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	石錘	礫	5.6(5.4)	4.71	1.38	58	硬砂岩	完形	
2	"	敲打器	b	9.7	7.71	4.07	460	綠色岩	"	
3	"	石皿							半折	

VII-41住

番号	層位	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	床	打製石斧	b	(9.6)	7.25	3.20	438	凝灰岩	刃部欠損	
2	"	特殊磨石		(13.6)	5.38	2.05	218	硬砂岩	頭部下損	

第VII地点土壙出土石器属性表

土壙番号	番号	器種	型式	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	残存状態	備考
1	1	打製石斧	b	13.8	3.98	1.82	112	硬砂岩	完形	
	2	"	c	10.6	3.71	1.58	80	綠色岩	"	
11	1	石礮	c ₂	2.8	1.51	0.56	1.5	黒耀石	基部一部欠	
	16	打製石斧	a	(8.3)	4.39	1.61	98	綠色岩	刃部一折	
17	2	"	d	9.4	4.82	1.98	129	綠色岩	完形	
	3	磨製石斧	定角	(9.4)	2.51	1.29	54	凝灰岩	胴部のみ	
	1	打製石斧	a	(12.6)	4.04	1.13	74	粘板岩	頭部欠	
18	2	"	b	(10.6)	6.59	2.88	260	硬砂岩	"	未成品
	3	小形石匙	a	2.3	1.70	2.33	1.6	黒耀石	完形	
	1	打製石斧	a	11.4	4.65	1.98	110	粘板岩	刃部欠	
2	2	"	b	(4.5)	4.95	1.38	42	硬砂岩	刃部欠	
	3	"	c	(6.3)	4.70	1.62	70	"	頭部欠	

18	4	敲 打 器	b	(5.7)	5.95	4.48	230	綠 色 岩	頭 部	欠 形	
19	1	大 形 石 匙	a	5.6	7.21	0.62	30	粘 板 岩	完	形	
	2	敲 打 器	a	4.2	3.95	1.65	116	硬 砂 岩	"	"	
	3	"	a	(8.4)	(2.78)	(2.35)	66	綠 色 岩	破 部	片 欠 形	
20	1	打 製 石 斧	b	(5.7)	4.32	1.55	44	粘 板 岩	完	形	
	2	大 形 石 匙	a	5.4	6.65	1.10	28	綠 色 岩	"	"	
	3	敲 打 器	b	8.6	4.57	4.15	308	綠 硬 砂 岩	"	"	
	4	特殊敲打器	a	4.4	6.05	1.97	68	硬 砂 岩	"	"	
21	1	石 礮		1.91	1.28	1.68	1.4	黑 耀 石	完	形	
24	1	打 製 石 斧	b	(7.3)	3.49	1.21	38	硬 砂 岩	刃 部	欠 形	
	2	敲 打 器	b	(6.7)	(4.98)	2.31	114	綠 色 岩	破 完	片 形	
29	1	打 製 石 斧	a	9.1	3.34	1.48	80	綠 色 岩	完	形	
	2	"	"	15.3	3.62	2.05	193	"	"	"	
	3	"	b	10.8	3.98	1.09	80	凝 灰 岩	"	"	
	4	"	"	11.4	5.06	2.22	140	硬 砂 岩	"	"	
	5	"	"	(10.4)	10.38	1.08	70	綠 色 岩	頭 部	欠 形	
	6	"	"	(6.8)	4.32	1.21	50	粘 板 岩	刃 部	欠 形	
	7	"	c	10.1	3.68	1.58	90	綠 色 岩	完	形	
	8	"	d	12.2	4.22	2.08	106	硬 砂 岩	"	"	
30	1	打 製 石 斧	a	14.2	4.41	2.57	190	硬 砂 岩	完	形	
	2	"	"	12.0	4.26	1.59	110	綠 色 岩	"	"	
	3	"	b	(5.0)	3.52	0.82	26	"	刃 部	欠 形	
	4	磨 石		7.8	8.65	4.09	250	花 崗 岩	完	形	
32	1	打 製 石 斧	b	(8.7)	4.35	1.70	84	硬 砂 岩	刃 部	欠 形	
	2	敲 打 器	b	11.3	5.95	5.00	455	硬 砂 岩	完	形	
	3	"	b	13.6	7.52	4.29	417	"	頭 部	欠 形	
33	1	敲 打 器	b	(6.8)	3.04	2.01	50	硬 砂 岩	頭 部	欠 形	
36	1	打 製 石 斧	a	10.4	3.86	1.81	100	綠 色 岩	完	形	
	2	敲 打 器	b	9.7	7.12	6.70	950	"	"	"	
	3	"	"	(5.3)	6.79	4.41	222	硬 砂 岩	頭 部	欠 形	
37	1	打 製 石 斧	a	12.3	6.61	2.52	260	粘 板 岩	完	形	
38	1	打 製 石 斧	a	11.5	4.21	1.82	110	硬 砂 岩	"	"	
	2	"	b	10.9	2.69	1.12	44	硬 粘 板 岩	"	"	
	3	"	"	(5.7)	5.12	0.72	34	"	頭 部	欠 形	
	4	敲 打 器	b	5.9	4.81	1.89	77	チ ャ 一 卜 硬 砂 岩	完 頭 部	形 剝 離 片 欠 形	
	5	"	"	9.2	10.89	3.42	422	"	破 部	"	
	6	"	"	(7.2)	(3.08)	3.32	90	"	"	"	
42	1	打 製 石 斧	a	(9.6)	3.72	1.60	78	綠 色 岩	頭 部	欠 形	
	2	敲 打 器	b	(9.5)	(7.35)	3.66	306	硬 砂 岩	"	"	
44	1	打 製 石 斧	b	9.1	4.21	0.98	50	砂 岩	完	形	
	2	敲 打 器	"	(9.8)	(3.69)	2.25	99	綠 色 岩	破 部	片 欠 形	
45	1	打 製 石 斧	a	(10.6)	4.52	1.25	72	粘 板 岩	頭 部	欠 形	
	2	大 形 石 匙	c	5.5	7.25	0.77	36	綠 色 岩	完	形	
47	1	打 製 石 斧	b	12.1	4.25	1.89	143	硬 砂 岩	完	形	
	2	"	"	12.4	3.71	0.89	56	綠 色 砂 岩	"	"	
	3	敲 打 器	"	11.3	3.72	2.72	184	硬 砂 岩	"	"	
55	1	打 製 石 斧	b	(4.2)	3.06	0.85	16	綠 色 岩	刃 部	欠 形	
	2	敲 打 器	a	(3.7)	2.52	2.15	54	硬 砂 岩	破 完	片 形	
	3	"	b	8.7	5.85	2.02	188	"	完	形	
	4	磨 石		(5.7)	(5.78)	3.95	174	花 崗 岩	破	片 形	
	5	凹 石		8.7	11.95	6.11	950	"	完	形	片面1孔
59	1	打 製 石 斧	b	(11.3)	3.32	2.12	83	砂 岩	刃 部	欠 形	
60	1	敲 打 器	b	13.8	6.32	5.68	620	硬 砂 岩	完	形	
62	1	打 製 石 斧	c	(9.5)	4.72	0.96	72	綠 色 岩	頭 部	欠 形	
	2	敲 打 器	a	(7.4)	7.15	4.44	489	凝 灰 岩	頭 部	欠 形	
66	1	打 製 石 斧	c	14.2	5.02	2.52	220	粘 板 岩	完	形	
67	1	敲 打 器	c	17.7	(3.05)	2.24	164	硬 砂 岩	縱	割	

図版 1 遺跡航空写真



図版2 遺跡遠景



1 対岸南より望む



2 第Ⅵ地点から西を望む

図版3 第I地点第1号・2号住居址



1 第1号住居址



2 第2号住居址